



iGrafx FlowCharter (Origins)



iGrafx Origins Release

(c) 2015 iGrafx, LLC. All rights reserved.

オペレーションガイド

「iGrafx FlowCharter オペレーションガイド」 Copyright©2016 by SunPlanningSystems, Inc. All rights reserved.
(株) サン・プランニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳することも禁止されています。



2016/03/01 Ver. 10.0.0
株式会社サン・プランニング・システムズ

目次

第 1 章	iGrafx FlowCharter の利用	6
1.	概要	6
1.1	iGrafx FlowCharter と iGrafx Process の関係	6
1.2	用語の理解.....	6
1.3	図表の種類.....	8
2.	起動と終了	10
2.1	ファイルを開く	10
2.2	ファイルを閉じる.....	11
3.	ユーザーインターフェースの理解.....	12
3.1	画面構成	12
3.2	エクスペローラバーの利用	14
3.3	パレットウィンドウの利用	15
4.	業務フローチャートを作成する前に	18
4.1	個人用テンプレートの利用	18
4.2	言語設定	19
4.3	自動保存	21
第 2 章	フローチャートを作成する	22
1.	共通操作	22
1.1	マウスポインタ	22
1.2	グリッド	23
1.3	ガイドライン	24
1.4	オブジェクトの複数選択.....	25
1.5	書式の変更.....	26
1.6	書式のコピー／貼り付け.....	28
1.7	キーボードショートカットキーの利用	28
2.	Swimlane.....	29
2.1	Swimlane の作成	29
2.2	Swimlane 名称の変更	31
2.3	Swimlane の移動	32
2.4	Swimlane のサイズ変更	32
2.5	Swimlane の削除	32
2.6	Swimlane マネージャの利用	33
3.	図形	35
3.2	図形とグラフィック	35
3.3	図形の配置方法	36
3.4	図形の移動.....	37
3.5	グラフィックの配置	37
3.6	図形テキストの入力	38

3.7	図形の追加.....	39
3.8	図形の削除.....	39
3.9	Swimlane をまたいだ図形配置.....	40
3.10	判断図形の利用	41
3.11	図形の置換.....	43
4.	接続線.....	44
4.1	図形の接続.....	44
4.2	接続線の編集	45
4.3	接続ルールの変更.....	46
第3章	フローチャートを整える	48
1.	配置・整列	48
1.1	図形の整列.....	48
1.2	図形のサイズ揃え.....	48
1.3	図形の均等配置	49
1.4	図形の回転・反転.....	49
1.5	重なる図形の順序変更.....	50
2.	図形番号	50
2.1	図形番号の表示方法	50
2.2	図形番号の付け直し	52
第4章	画面を操作する.....	53
1.	ウィンドウ操作	53
1.1	複数図表の表示	53
1.2	画面表示の拡大と縮小.....	53
1.3	画面の分割.....	55
2.	図表の操作	56
2.1	図表と表形式	56
2.2	図表の追加.....	56
2.3	図表の変換.....	57
2.4	図表の表示切替	57
第5章	フローチャートを活用する	58
1.	さまざまな表記機能.....	58
1.1	フェーズ	58
1.2	テキスト	59
1.3	メモ	61
1.4	リンク	63
1.5	他のアプリケーションを埋め込む	65
1.6	カスタムデータ	66
1.7	フィールド.....	67
1.8	レイヤ.....	68
2.	その他の機能.....	70

2.1	文字の検索と置換.....	70
2.2	図表と表のエクスポート.....	71
2.3	データのインポート.....	72
第6章	フローチャートを公開する.....	75
1.	ドキュメントの保護.....	75
2.	印刷.....	75
2.1	ページ設定.....	75
2.2	マスターページの使用.....	79
2.3	印刷対象の選択.....	79
3.	保存.....	80
3.1	iGrafx 形式.....	80
3.2	他のファイル形式.....	81
3.3	Web プロジェクト.....	83
第7章	図形集と iGrafx テンプレートの作成.....	86
1.	図形集の作成.....	86
1.1	個人用メディアコレクションの作成.....	86
1.2	コレクションおよびサブジェクトの共有.....	88
2.	iGrafx テンプレートの作成.....	90
2.1	iGrafx テンプレートに定義する項目.....	90
2.2	図形ライブラリ.....	92
2.3	線ライブラリ.....	93
2.4	図表全体の書式設定.....	95

第1章 iGrafx FlowCharter の利用

1. 概要

iGrafx FlowCharter は、使いやすいビジネスグラフィックソリューションです。

組織の各担当者は、この直感的なソリューションを使用して、プロセスマップ、ネットワーク図表、組織図、自由形式図表、体系的な図表、プレゼンテーション図表などを作成することができます。業務マニュアルを作成するのに適した機能や、BPMN 対応機能も含まれています。

iGrafx Process (シミュレーションツール) でそのまま使える、プロセスという構成要素で作成したフローには、処理工程に関するさまざまなデータを組み込み、プロセスモデルを作成することが可能です。たとえば、工程ごとの所要期間、入出力、スケジュール、費用、およびリソースの有無などのデータを定義します。ただし iGrafx FlowCharter のライセンスのみでは、シミュレーションそのものは実行できません。

シミュレーションを実行するには、iGrafx Process または iGrafx Process for SixSigma のライセンスが必要です。プロセス図表では、一連の動作が図形で表され、接続線でリンクされています。プロセス図表の各ステップをアクティビティと呼びます。※通常、シミュレーションを行わない場合にプロセス図表は使用しません。

1.1 iGrafx FlowCharter と iGrafx Process の関係

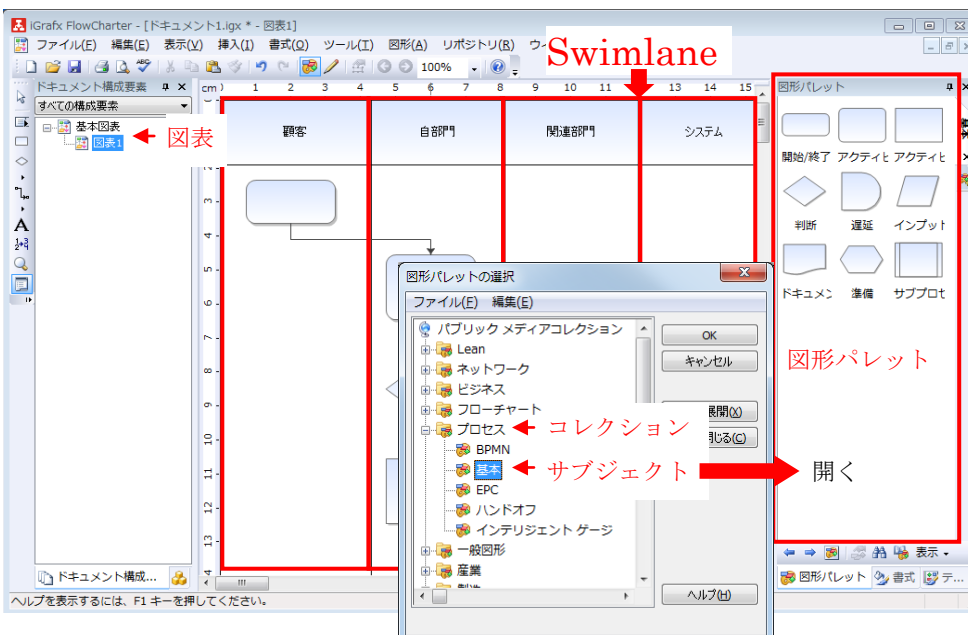
iGrafx FlowCharter は、プロセスマッピングとプロセスモデリングを行うための信頼性の高いソフトウェア環境です。

iGrafx Process は、プロセスマッピングとプロセスシミュレーションを行うのに最適な環境です。

iGrafx FlowCharter は、iGrafx Process に対するグラフィックインターフェイスで、iGrafx Process は動作に関するモデリングとシミュレーションを行うためのシステムです。

1.2 用語の理解

業務フローチャートを作成する上で使用するおもな用語について以下に説明します。



1) ドキュメント

iGrafx ファイルは「ドキュメント (iGrafx ドキュメント)」ともいいます。

iGrafx FlowCharter のメニューや機能によって「ファイル」や「ドキュメント」という 2 種類の言葉が使用されていますが、同じ意味を表します。iGrafx ファイル (ドキュメント) は複数の図表、シナリオ、レポートで構成されます。これらを「構成要素」と呼びます。

2) 図表

フローチャートを描画するシートを「図表」といいます。

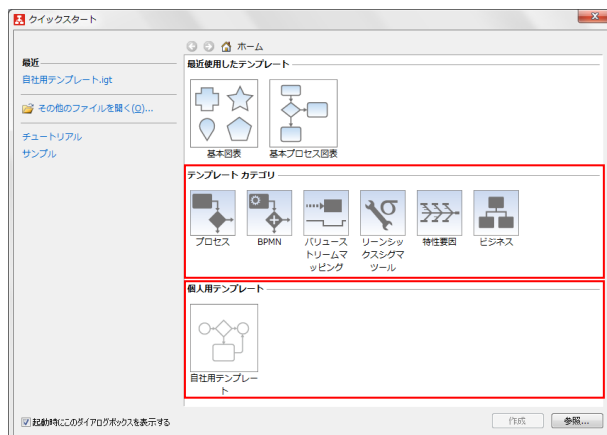
iGrafx FlowCharter には「基本図表」「プロセス図表」「BPMN 図表」など、さまざまな種類の図表があり、図表ごとに持っている機能は異なります。基本となる図表は「基本図表」です。「基本図表」はあらゆる用途に合わせて自由に描画することができます。図表が持つ特徴の違いについては、後述の「図表の種類」をご覧ください。

3) テンプレート

フローチャートを作成するための雛形となるファイルを iGrafx テンプレートといえます。

iGrafx テンプレートには用途に応じてあらかじめ用意されているテンプレートとユーザーが各々の規約に準じて作成するテンプレートがあります。

フローチャートのレイアウトや書式を整えて iGrafx テンプレートとして保存しておく、同じレイアウトや書式を繰り返し利用してフローチャートを作成することができます。



あらかじめ用意されている規定のテンプレート

ユーザー作成のテンプレート

4) コレクション、サブジェクト

iGrafx FlowCharter で使用する図形は、用途に合わせてシートに集約されています。

そしてそれらのシートは用途に合わせてフォルダに集約して格納されています。

これらのフォルダを「コレクション」、フォルダの中のシートを「サブジェクト」といいます。

サブジェクトを開いて表示させた状態は「図形パレット」といい、フローチャートを作成する時は「図形パレット」の図形をクリックして図表に配置します。

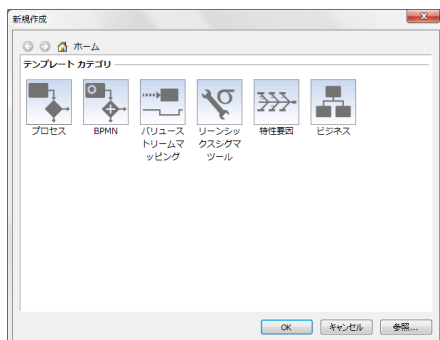
5) Swimlane

フローチャートを構成する業務において、その業務の組織を表わす枠組みを「Swimlane」といいます。

Swimlane に図形を配置すると、Swimlane と図形が関連付けられます。図形を配置した後に、Swimlane の位置を移動すると図形は自動的に Swimlane とともに移動します。

1.3 図表の種類

iGrafx FlowCharter では、さまざまな用途に対応した図表が利用できます。これらを使用してフローチャートやプロセスマップなどを自由に作成することができます。それぞれの図表を開くと関連する図形パレットが開きます。すべての図表の種類はカスタマイズすることができ、新しいテンプレートとして保存できます。



カテゴリ	主な図表	説明
ビジネス	基本図表	自由な形式で図表を描画することができます。
	組織図	組織図を作成するのに特化した操作性を保持しています。
プロセス	クロスファンクショナルプロセス	プロセスカテゴリには3つの図表が用意されています。これらの図表を総称して「プロセス図表」といいます。プロセス図表に配置するすべての図形はアクティビティを表し、動作に関する情報を定義することができます。「iGrafx Process」を使用してシミュレーションを行う場合はプロセス図表を利用します。
BPMN	BPMN 基本コラボレーション	BPMN カテゴリには6つの図表が用意されています。これらの図表を総称して「BPMN 図表」といいます。BPMN 図表では BPMN2.0 の規格をサポートしています。BPMN2.0 の仕様においては、以前の仕様で導入された概念が含まれているため、iGrafx では 2.0 規格と矛盾しない限り以前の仕様もサポートしています。 BPMN 標準に準拠した Correct-by-Construction 機能とリアルタイムエラー検査機能を使用して、プロセスをマップ、モデル、シミュレーションできます。
バリューストリームマッピング	リーンバリューストリームマップ	リーン アクティビティに割り当てられたカスタム リーン データを使用して、現在のプロセスのリーン バリューストリーム マップ (VSM) を描画します。タクト タイムや距離線など、分析用にさまざまなグラフを表示します。
	リーン拡張バリューストリームマップ	子プロセスから親図形へのデータ ロールアップを使用して、リーン拡張バリューストリーム マップ (例: 完全なサプライ チェーンのマップなど) を描画します。 ※この図表は、リーン VSM 図表を使用したテンプレートです。
リーンシックスシグマツール	レイアウト図表	現在の業務のレイアウト、すなわちリーン分析の物理的な構造を描画します。レイアウト図表を使用してスパゲッティ図を描画することもできます。 ※この図表は、基本図表を使用したテンプレートです。
	選択チャート	ラベルが表示された四分選択チャートを使用して、最適なオプションおよびソリューションを特定します。 ※この図表は、基本図表を使用したテンプレートです。
特性要因	特性要因図	特性要因図を作成するのに特化した図表です。

1) 基本図表

もっともシンプルな図表で、用途にかかわらず自由に描画することができます。

業務フローチャートを作成する場合は、基本図表を推奨します。

他の既定義の図表は基本図表をベースにしているものも多く、基本図表で作成したフローチャートは「プロセス図表」「BPMN 図表」「組織図」に変換することができます。

他の図表から「基本図表」に変換することはできません。

2) プロセス図表と BPMN 図表

プロセス図表と BPMN 図表はモデリング機能があり、「iGrafx Process」を使用してシミュレーションすることができます。ただし、BPMN 図表は BPMN 規格をサポートするため、以下の点で動作が異なります。

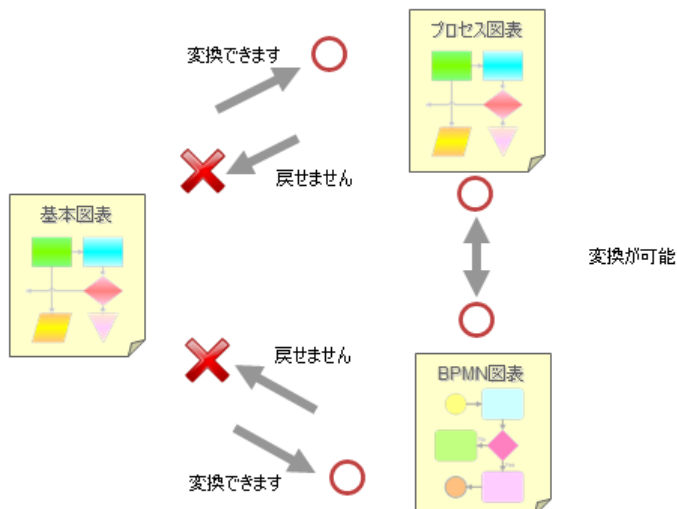
- ① 接続された図形の意味を表わすため、接続線のスタイルが変化します。これにより、メッセージ線、シーケンスフロー線、および補正の関連付けが影響を受けます。
- ② フローティング Swimlane は BPMN プールを作成する際の初期設定となります。
- ③ 動作によってインジケータが異なる場合があります。たとえばイベントトリガ（開始、中間、終了）の枠線のスタイルやイベントの種類（タイマーイベントの時計など）、埋め込みサブプロセスなどのスタイルがあります。
- ④ BPMN は「スロー」または「キャッチ」スタイルインジケータを使用して、メッセージを受信するイベントと送信するイベントを区別します。iGrafx では送信または受信したメッセージ、エラー（障害）のスローとキャッチなどに対してインジケータを選択できます。

3) 図表の変換

基本図表で作成した図表は、プロセス図表、BPMN 図表、組織図に変換することができます。

BPMN 図表に変換する場合は、できる限り BPMN の規格に準じて自動的に変換されます。

変換した図表はもとに戻すことはできませんが、プロセス図表と BPMN 図表は互いに変換可能です。



2. 起動と終了

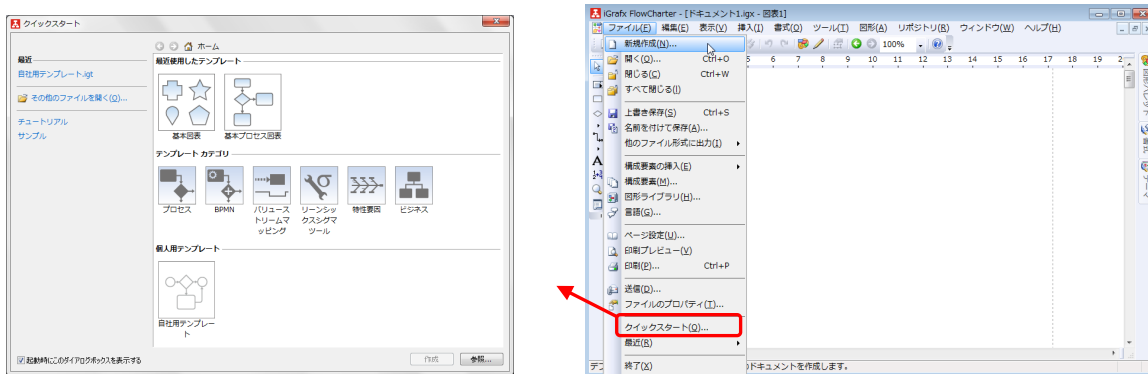
2.1 ファイルを開く

iGrafx FlowCharter では、以下の方法でファイルを開く、または新規作成することができます。

1) クイックスタート

「クイックスタート」は iGrafx FlowCharter を起動した時に最初に表示される画面です。

この画面から新規ファイルを作成、または既存のファイルを開いて操作を開始することができます。画面左下の「起動時にこのダイアログボックスを表示する」のチェックを外すと、次回起動時より「クイックスタート」は表示されず、自動的に新規ファイル「基本図表」が開きます。「クイックスタート」は「ファイル」メニューよりいつでも開くことができます。



メニュー項目	説明
最近	最近開いたファイルが表示されます。 「ファイル」メニューの「最近」にも表示されます。
その他のファイルを開く	既存のファイルを開きます。 「ファイル」メニュー「開く」からでも同様に開くことができます。
最近使用したテンプレート	最近使用したテンプレートが表示されます。 右クリックをして表示されるコンテキストメニューより、テンプレートリストに固定、削除、または固定が解除されたテンプレートをまとめてリストから削除することができます。
テンプレートカテゴリ	6つのテンプレートカテゴリが表示されます。 任意のカテゴリをクリックすると、テンプレートが表示されます。
個人用テンプレート	個人用テンプレートが表示されます。

2) 新規作成

「ファイル」メニューの「新規作成」より、新規ファイルを作成することができます。

3) 既存ファイル

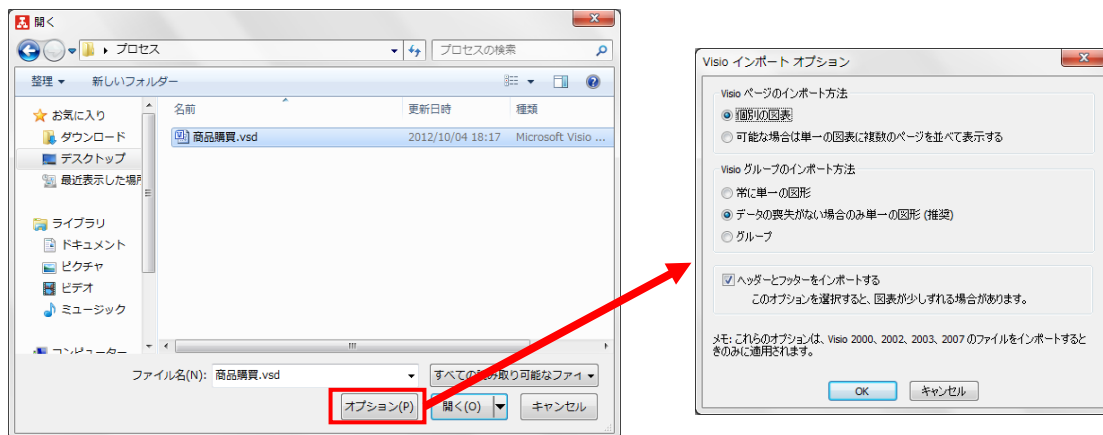
「ファイル」メニューの「開く」より、既存のファイルを開くことができます。また最近開いたファイルは、「ファイル」メニューの「最近」より開くことができます。

4) 他形式ファイルの読込

iGrafx FlowCharter では、iGrafx で作成したドキュメントおよびテンプレート以外の他形式のファイルを開くことができます。対応している他形式のファイルは以下のとおりです。

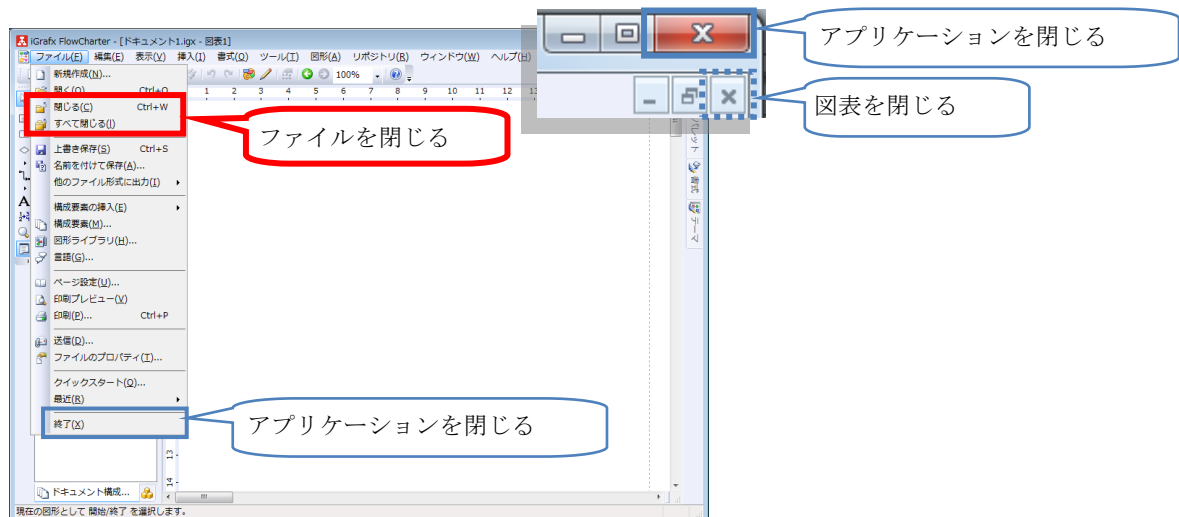
- Micrografx FlowCharter ファイル
- Micrografx Optima2.5 ファイル
- Visio ファイル

古いバージョンで作成した iGrafx ファイルを開く時は、図形や線はテキストやグラフィックの情報に沿って自動的に変換されます。Visio ファイルの各ページは 単一または複数の iGrafx 図表に変換されます。「ファイルを開く」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックして、Visio ファイルのインポート設定を指定できます。



2.2 ファイルを閉じる

「ファイル」メニューまたは右上の×ボタンより、図表単位、ファイル単位、アプリケーション単位で閉じることができます。

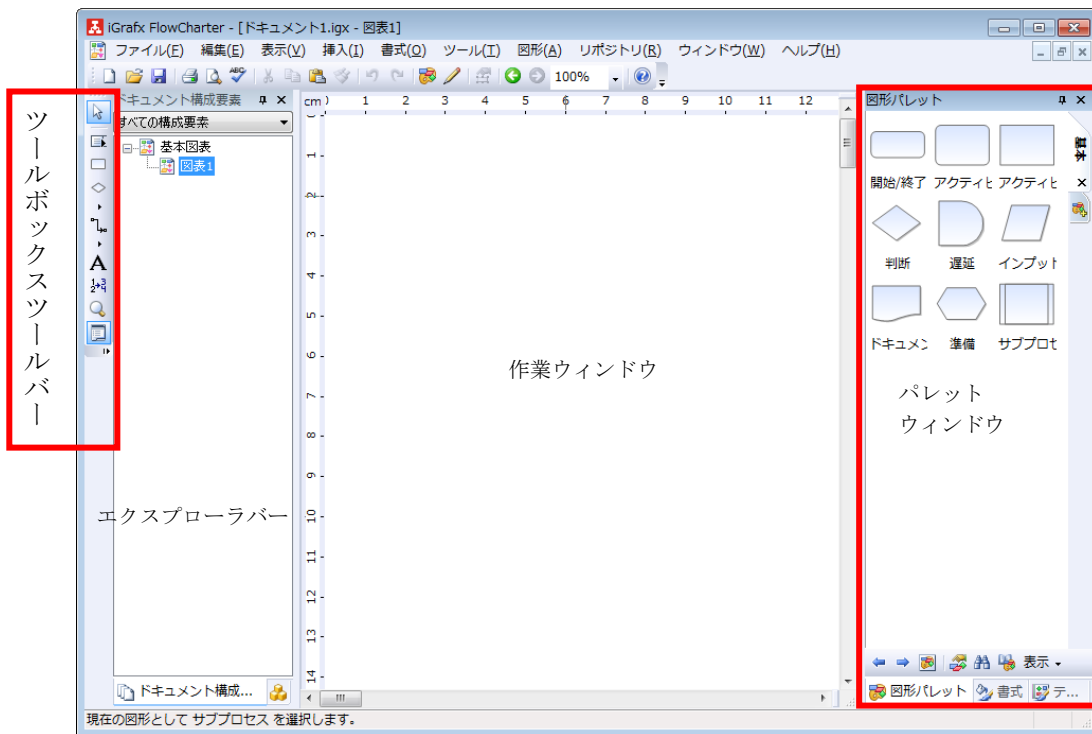



メニュー項目	説明
内側の×ボタン	最前面に表示されている図表のみを閉じます。
閉じる	最前面に表示されている図表を含むファイルを閉じます。
すべて閉じる	開いている複数の図表を含むすべてのファイルを閉じます。
終了または外側の×ボタン	アプリケーションを閉じます。

3. ユーザーインターフェースの理解

3.1 画面構成

iGrafx FlowCharter には、作図のための各種ツールバーやウィンドウが用意されています。ここでは頻繁に利用するツールバーとウィンドウの名称、表示方法をご説明します。



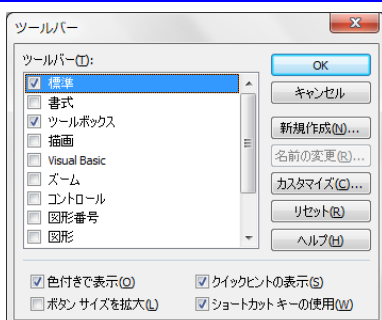
「パレットウィンドウ」および「explorer」には、タイトルバーにピンアイコン  が用意されています。ピンアイコンをクリックすると「固定」「自動非表示」が切り替わります。

1) ツールバーの利用

ツールバーは、さまざまなショートカットアイコンの集合体です。用途に応じたツールバーを表示しておくことで、アイコンからスムーズに作業を行うことができます。ツールバーはカスタマイズが可能であり、必要なアイコンを集めてオリジナルのツールバーを作成することもできます。






【表示手順】

「表示」メニュー - 「ツールバー」



2) 「ツールボックス」 ツールバー

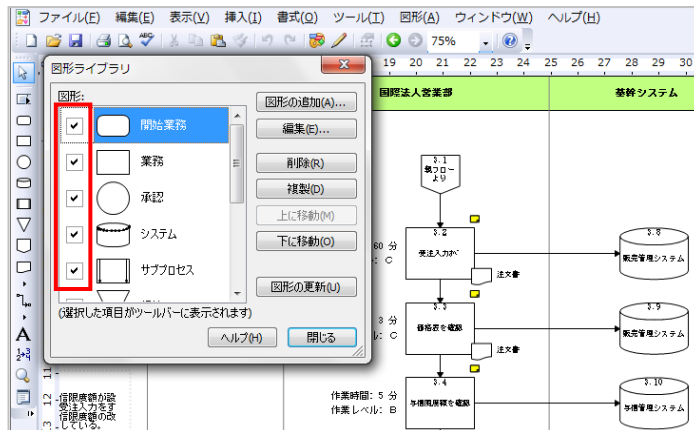
図表を作成するうえで、よく使用するアイコンが用意されています。

アイコン	説明
	選択ツール 描画した要素を選択、移動、サイズ変更します。また、図形間に線を描画します。
	Swimlane Swimlaneを追加または編集するための「Swimlane」ダイアログボックスを開きます。
	開始 プロセス 決定 その他の図形 図形パレット同様、選択した図形を配置します。 ※開始図形は、プロセス図表のみ表示されます。 *図形下の矢印をクリックすると、図形ライブラリが開きます。
	接続線ツール 現在登録されている接続線の種類を表示します。選択した接続線で図形を接続します。 *接続線ツール下の矢印をクリックすると、線ライブラリが開きます。
	テキストツール テキストを入力または変更します。選択した図形にテキストを追加する場合は必要ありません。
	図形番号 図形番号の表示、非表示、書式設定、付け直しを行います。
	ズーム 画面の縮小拡大を行うズームツールを選択する場合に使用します。
	エクスプローラバー iGrafx エクスプローラ バーの表示と非表示を切り替えます。

◆ 図形ライブラリ

図形を登録、編集することができます。図形ライブラリには、登録した図形および図表に配置している図形が表示されます。図形にチェックを入れると「ツールボックス」ツールバーに表示されます。

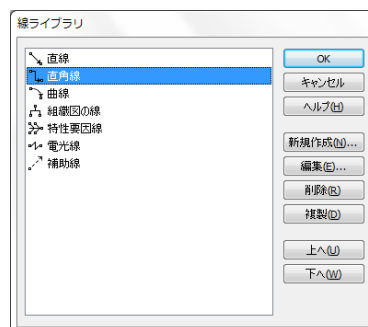
※詳細は P92 をご覧ください。



◆ 線ライブラリ

接続線を作成、編集することができます。

※詳細は P93 をご覧ください。



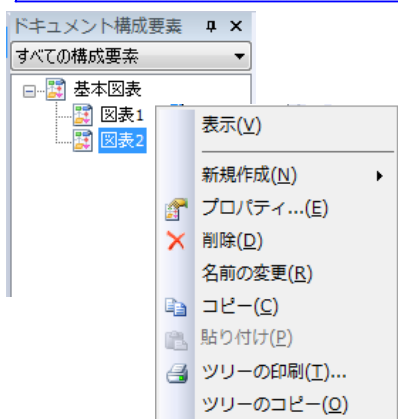
3.2 エクスプローラバーの利用

エクスプローラバーは、ファイルの構成要素を整理および表示することができます。

エクスプローラバーの中で右クリックした時に表示されるコンテキストメニューより、構成要素の表示、新規作成、削除、名前の変更、コピー、貼り付けなどができます。

【表示手順】

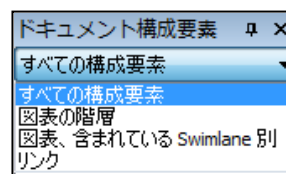
- ・「ツールボックス」 ツールバー 「エクスプローラバー」 アイコン
- ・「表示」メニュー 「エクスプローラバー」



コンテキストメニュー項目	説明
表示	選択した構成要素を作業ウィンドウに表示します。
新規作成	新しい構成要素を追加します。
プロパティ	図表レベルのプロパティを表示します。
削除	選択した構成要素を削除します。
名前の変更	選択した構成要素の名前を変更します。
コピー	選択した構成要素をコピーします。
貼り付け	コピーした構成要素を貼り付けます。
ツリーの印刷	エクスプローラバーのツリービュー全体を印刷します。
ツリーのコピー	エクスプローラバーのツリービュー全体をコピーします。

◆ 構成要素の表示を切替える

エクスプローラバーの初期設定は、「すべての構成要素」で表示しています。ドロップダウンリストで表示方法を変更することによって、ファイルの構成要素の表示を切り替えることができます。



表示方法	説明
すべての構成要素	ファイルに管理されている図表の種類と図表名を階層で表示します。
図表の階層	ファイル内のリンク関係にある図表を階層で表示します。
図表、含まれている Swimlane 別	ファイルに存在する Swimlane を主体に、それらの Swimlane を含む図表を階層で表示します。
リンク	リンク関係にあるファイルを階層で表示します。

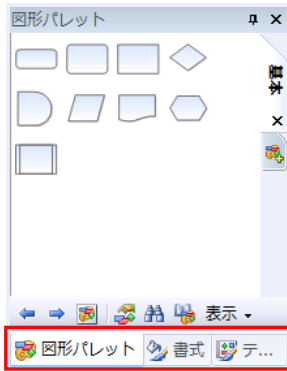
3.3 パレットウィンドウの利用

パレットウィンドウには、標準では「図形パレット」「書式」「テーマ」が表示されます。

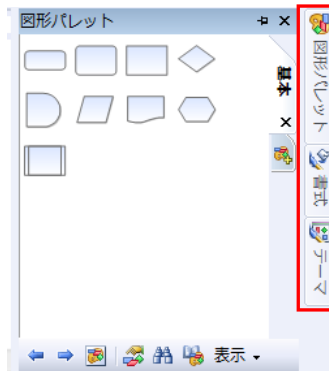
【表示手順】

「表示」メニューー「図形パレット」、「書式」、「テーマ」

【固定されている場合】



【自動非表示の場合】



1) 図形パレット

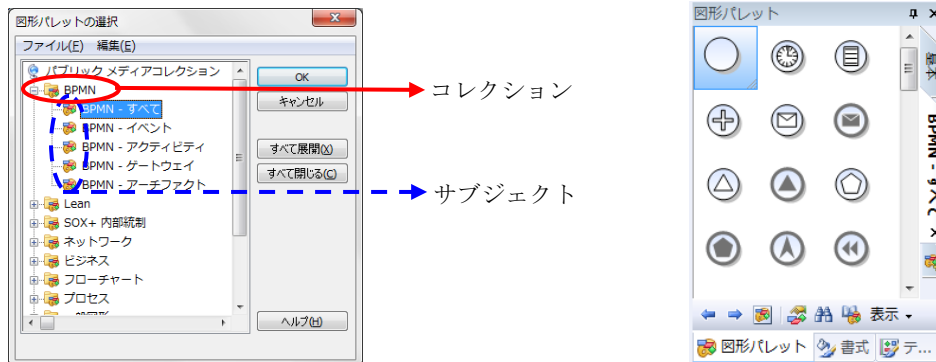
図形パレットには、さまざまな図表の種類に対応できるよう、多種多様な図形が用意されています。

図形パレットでは既存の図形を利用するだけでなく、目的に応じたオリジナルの図形集を作成することもできます。

◆ 図形パレットの構成

図形パレットは以下の構成で整理されています。

図形パレットウィンドウには、選択した「サブジェクト」が表示されます。



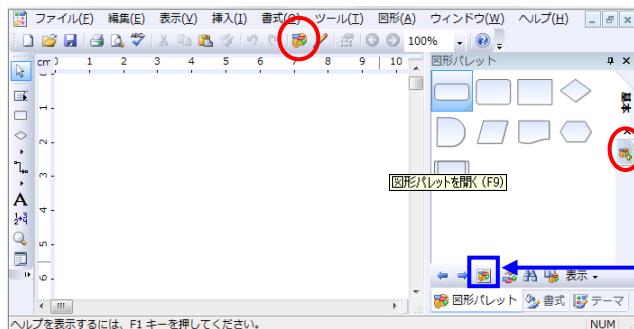
項目名	説明
パブリックメディアコレクション	iGrafx と同時にインストールされる図形集です。 ※図形の追加・編集はできません。
コレクション	インストールされる図形集を管理するフォルダです。
サブジェクト	インストールされる図形集です。「図形パレット」とも呼びます。
個人用メディアコレクション	ユーザーが作成したオリジナル図形集を登録できます。 ※図形の追加・編集ができます。
コレクション	ユーザーが作成した図形集を管理するフォルダです。複数のサブジェクトを登録できます。
サブジェクト	ユーザーが作成した図形集です。「図形パレット」とも呼びます。

◆ 図形パレットの表示

図形パレットウィンドウには、複数の図形パレット（サブジェクト）を表示させることができます。

図形パレット（サブジェクト）を開く方法は以下のとおりです。

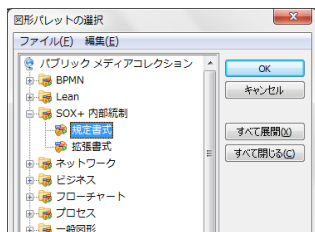
- ① 「図形パレットを開く」アイコンまたは「F9」ボタンを押下します。



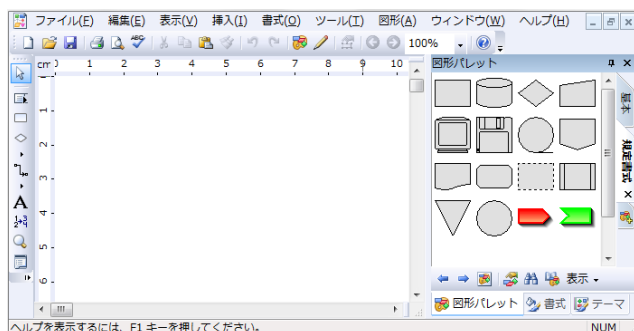
現在開いている図形パレットを別の図形パレットに変更します

- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスが表示されます。

サブジェクトを選択し「OK」ボタンをクリックします。



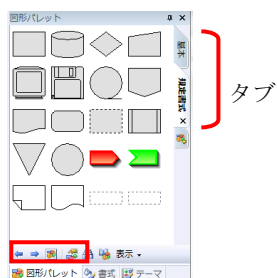
- ③ 図形パレットウィンドウに選択したサブジェクトが追加されます。



◆ 図形パレットの切り替え

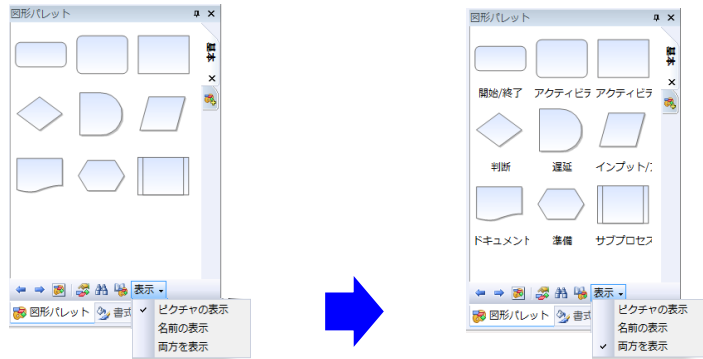
図形パレットの切り替え方法は以下のとおりです。

- ・ タブをクリックすると、開いている図形パレットを切り替えることができます。
- ・ 矢印アイコンをクリックすると、現在開いている図形パレットを基準に「前のサブジェクト」「次のサブジェクト」が表示されます。
- ・ 「図形パレットを開く」アイコンをクリックすると「図形パレットの選択」ダイアログボックスが開き、選択したサブジェクトに切り替えることができます。



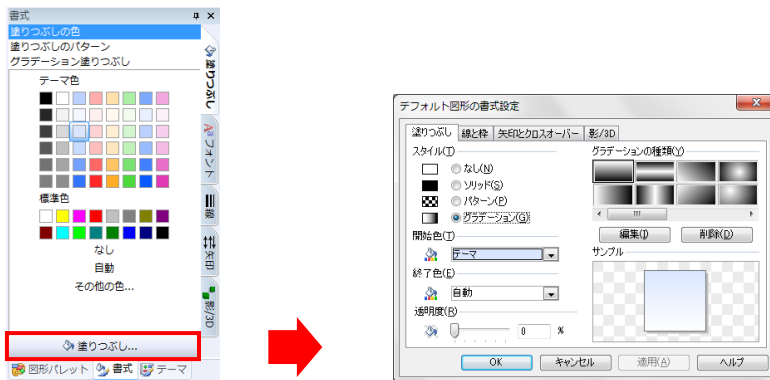
◆ 図形名称の表示

図形は、すべて名前を持っています。図形パレットウィンドウの「表示」メニューより「両方を表示」を指定すると、図形の下に図形名称が表示されます。



2) 書式

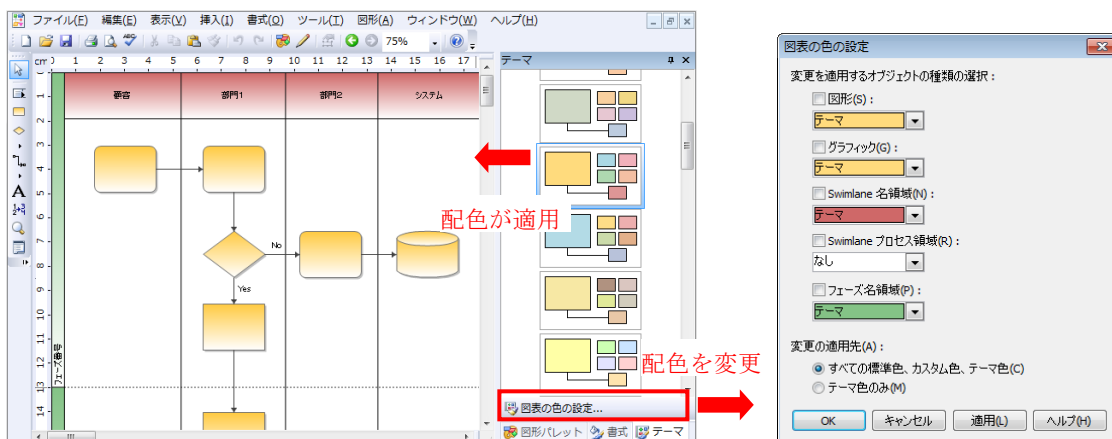
「書式」ウィンドウを利用すると、選択したオブジェクトに対して少ない手順でスムーズに書式の変更を行うことができます。「書式」ウィンドウでは「塗りつぶし」「フォント」「線」「矢印」「影/3D」のタブを切り替えて設定します。それぞれタブごとに詳細な書式設定ができるダイアログボックスを開くことができます。



オブジェクトを選択せずに「書式」ウィンドウで設定を変更すると、初期設定値を変更したことになります。初期設定値を変更してしまった場合は、再度オブジェクトを選択せずに元の値を選択してください。

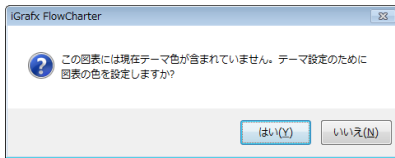
3) テーマ

テーマは、図表全体をあらかじめ用意された調和のとれた配色に関連付けることができる機能です。テーマを選択し描画すると、選択したテーマの配色が描画するオブジェクトに適用されます。また配色を変更することもでき、外観の調和を簡単に管理することができます。

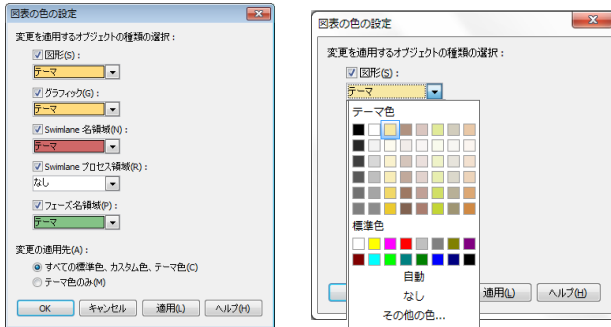


◆ 既存の図表にテーマを適用する

既存の図表を表示しテーマを指定すると以下のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。

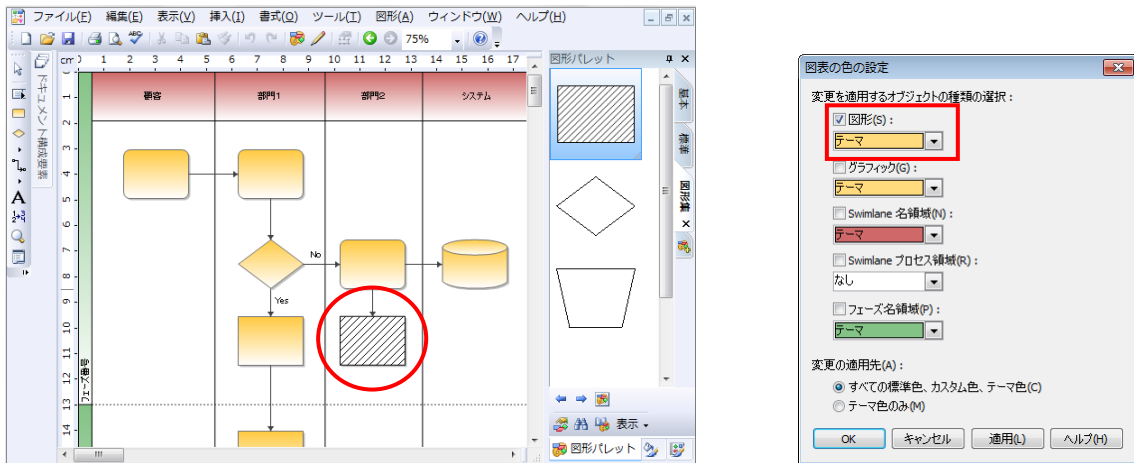


「図表の色の設定」ダイアログボックスが表示されます。チェック対象のオブジェクトにテーマが適用されます。また、それぞれのカラーパレットから色を変更することも可能です。



◆ 図形にテーマが適用されない場合

初期設定の書式を使用していない図形およびグラフィックは、選択したテーマが適用されません。「図表の色の設定」ダイアログボックスを開き、対象のオブジェクトにチェックを入れ適用してください。



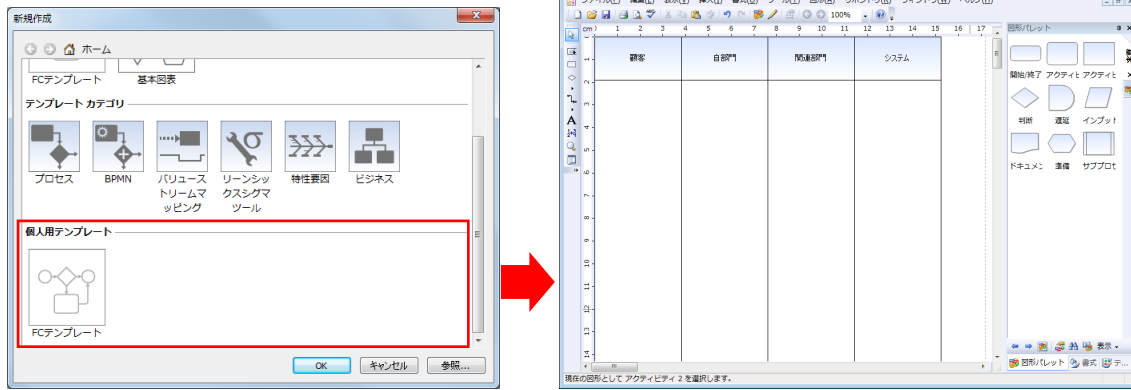
4. 業務フローチャートを作成する前に

4.1 個人用テンプレートの利用

iGrafx FlowCharter では、業務フローチャートを作成する時に頻繁に使用する図形や書式、ツール機能の設定などをあらかじめファイルに設定し、iGrafx テンプレートとして保存しておくことができます。

iGrafx テンプレートは「クイックスタート」や「新規作成」より新規文書として開き、繰り返し使用することができます。

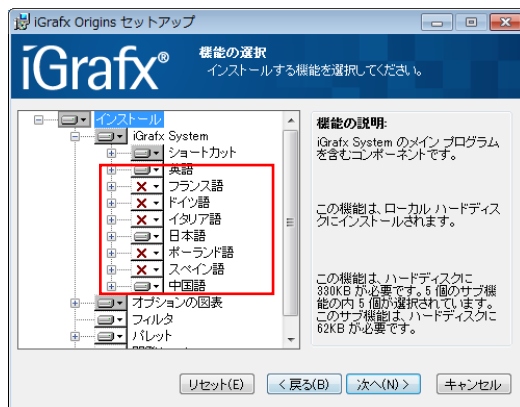
※詳細は P90 をご覧ください。



4.2 言語設定

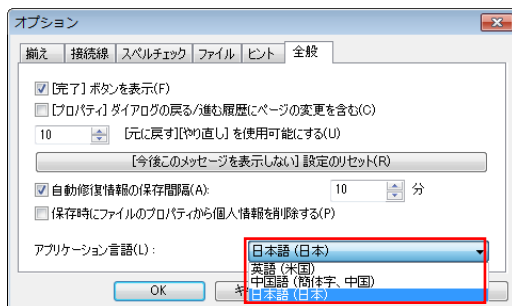
1) アプリケーションの言語切替

iGrafx FlowCharter は 8 か国語に対応していますが、標準インストールでは「日本語」と「英語」のみ言語切替が可能です。その他の言語切替をしたい場合は、Windows の「コントロールパネル」の「プログラムと機能」より iGrafx のインストールプログラムを変更し、必要な言語をインストールしてください。



◆ アプリケーションの言語切替手順

- ① 「ツール」メニューー「オプション」をクリックします。
- ② 「オプション」ダイアログボックスが開きます。「全般」タブをクリックし、「アプリケーション言語」のリストから言語を選択します。
※上記でインストールした言語がリストに表示されます。
- ③ 「OK」ボタンをクリックし、iGrafx FlowCharter を再起動します。

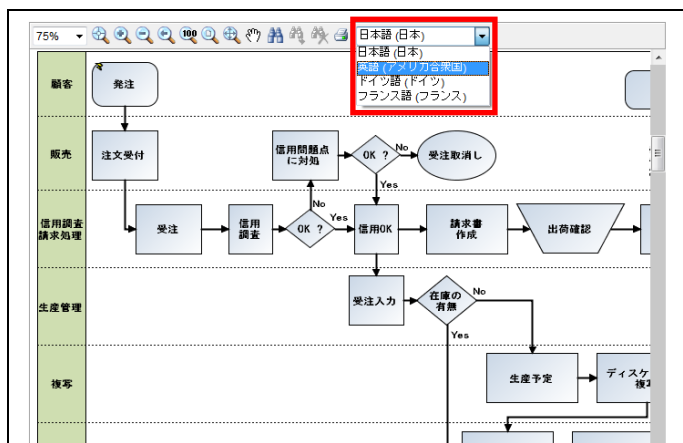


2) 言語の設定

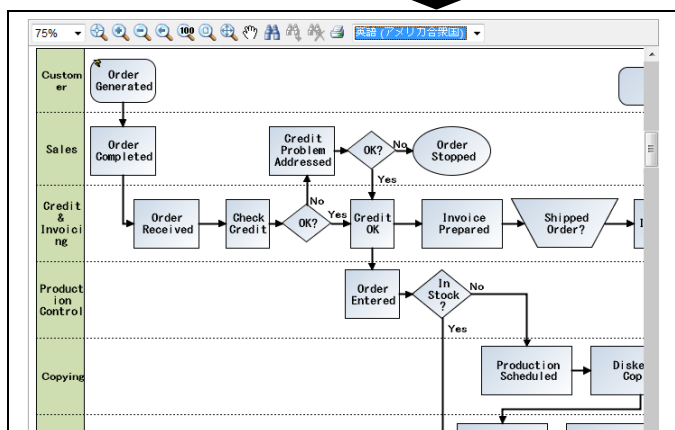
iGraX ファイルを Web 形式で参照する場合に、フローチャートの各オブジェクトの言語表示を他言語に切替えて表示することができます。多言語表示は、事前に言語翻訳を登録する必要があります。自動的に翻訳はされません。また iGrafx FlowCharter の編集画面に言語翻訳の切替え機能はありません。

Web 形式で保存すると、言語のドロップダウンリストが表示され、言語を切り替えることができます。

※Web 形式の保存方法については P81 をご覧ください。



ドロップダウンリストから「英語」を選択

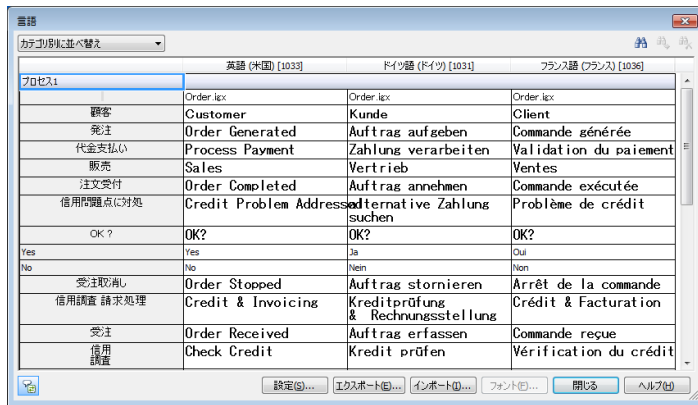


◆ 登録手順

- ① 「ファイル」メニューー「言語」をクリックして「言語の設定」ダイアログボックスを表示します。
- ② 「追加」ボタンをクリックし、「言語の選択」ダイアログボックスを表示します。
- ③ 翻訳に要する言語を選択し「OK」ボタンをクリックします。
- ④ 言語が追加されたことを確認して「OK」ボタンをクリックします。



- ⑤ 「言語」ダイアログボックスに図表内のオブジェクトに使用されている WORD が表示されます。追加した言語の列に各オブジェクトの WORD の翻訳を入力します。

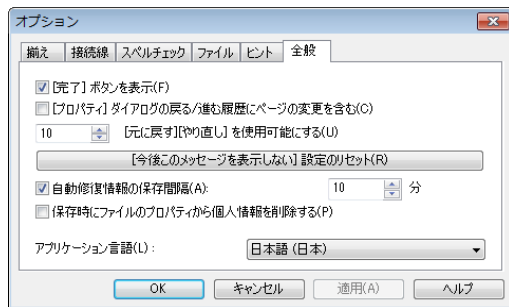



- ⑥ 「閉じる」ボタンをクリックします。

4.3 自動保存

iGrafx FlowCharter では、システムが異常終了した際にデータを損失しないよう、一定の保存間隔で自動保存を行っています。

- ① 「ツール」メニューー「オプション」をクリックします。
- ② 「オプション」ダイアログボックスが開きます。「全般」タブの「自動修復情報の保存間隔」に自動保存する時間の間隔を設定します。初期設定は 10 分間隔です。
「自動修復情報の保存間隔」のチェックを外すと自動保存はされません。



-  サイズの大きなファイルの場合、自動修復情報が保存されるタイミングで動作が重くなることがあります。

第2章 フローチャートを作成する

iGrafx FlowCharter では、自由形式の図表や体系化された図表はもちろんのこと、ネットワーク、処理工程、ソフトウェア、プレゼンテーションに至るまで、あらゆる用途の図表を作成することができます。なかでも処理工程を表すプロセスフロー図の作成を行うために最適な機能を多数持っています。

ここでは主に業務フローチャートを作成する方法について説明します。一通りの学習を行うことにより iGrafx FlowCharter の機能を効果的に利用し、迅速かつ効率的に業務フローチャートを作成できるようになります。

1. 共通操作

業務フローチャートを作成するにあたり、iGrafx を迅速に使用できるように、あらかじめ理解しておいて頂きたいツールの仕様や基本的な操作を説明します。

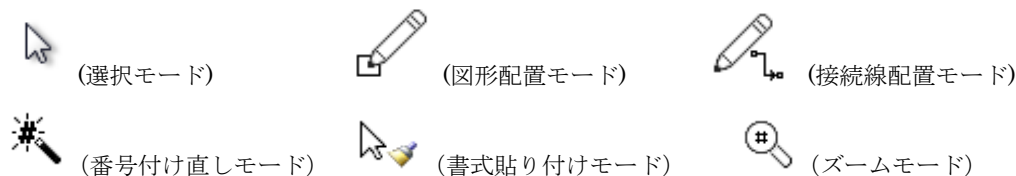
1.1 マウスポインタ

1) マウスポインタのモード

iGrafx FlowCharter ではメニューやツールバーアイコン、図表の余白をクリックすると、マウスポインタの形がコマンドに応じて変化することがあります。

このようにマウスポインタの形が「選択モード」以外に変化している場合、オブジェクトを選択することはできません。コマンドが実行されるとマウスポインタは自動的に「選択モード」に戻ります。

意図せずマウスポインタの形が変わってしまった場合は、「Esc」キーまたは「ツールボックス」ツールバーの「選択ツール」をクリックすると「選択モード」に戻すことができます。



2) 連続操作機能

iGrafx FlowCharter には描画特有の機能として、図表の空白部分をクリックして簡単に連続した操作を行うことができます。たとえば図形を配置した直後に図表の空白部分をクリックすると、図形の配置を繰り返します。また接続線を引いた直後に図表の空白部分をクリックすると、再度同じ種類の接続線を引くことができます。

1.2 グリッド

グリッドとは図表上に一定の間隔において格子状に配置されたドットのことで、通常オブジェクトはこれらのグリッドドットに吸着して配置されます。

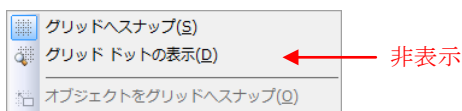
1) グリッドドットの表示

グリッドドットは初期設定で非表示です。グリッドドットを表示すると、図形を整列しながら配置する目安として利用できます。

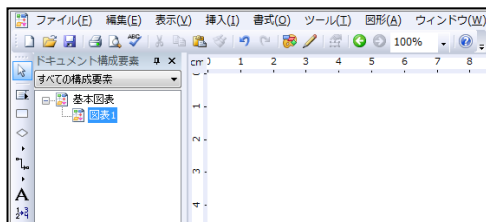
◆ 表示・非表示の切替え

「図形」メニュー→「グリッド」→「グリッドドットの表示」をクリックし、表示と非表示を切り替えます。

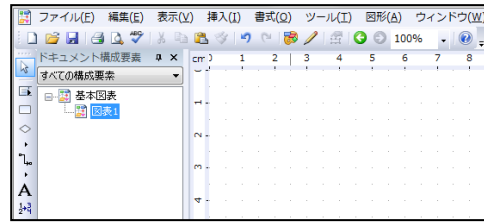
「グリッドドットの表示」アイコンがフラットな状態の時は、非表示の状態であることを示しています。表示の状態でもメニューを選択すると非表示になり、非表示の状態でもメニューを選択すると表示になります。



◆グリッドドットが非表示になっている場合



◆グリッドドットが表示になっている場合

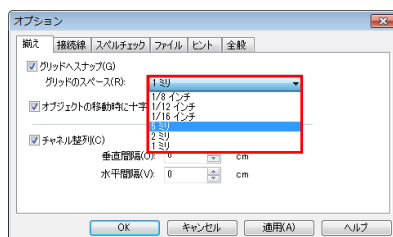


2) グリッドの利用

グリッドは初期設定で配置する図形が 5mm 間隔にスナップ(吸着)される設定になっています。「グリッドヘスナップ」がオンの状態で、図形を矢印キーで移動するときに、1 度の操作で移動できる幅のことをグリッドのスペースといいます。

◆ グリッドのスペースを変更する

グリッドのスペースは、「ツール」メニュー→「オプション」→「揃え」タブで変更することが可能です。微妙な幅で図形を移動したい場合や、意図する図形のサイズに拡大縮小することができない場合は、グリッドのスペースを小さくすることにより、より細かく図形の配置をコントロールできるようになります。

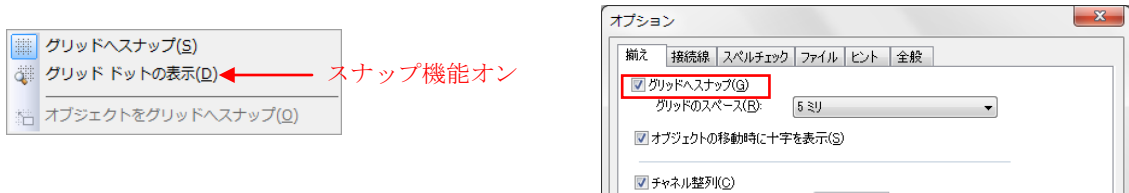


 グリッドのスペースをテンプレートに設定しておく、毎回変更することなく作業がスムーズです。

◆ グリッドへのスナップを適用する

初期設定ではグリッドへスナップされる設定になっていますが、「グリッドへスナップ」をオフにした状態で図形を配置すると自由に配置することができます。「グリッドへスナップ」は、以下の操作で、機能のオンとオフを切り替えます。

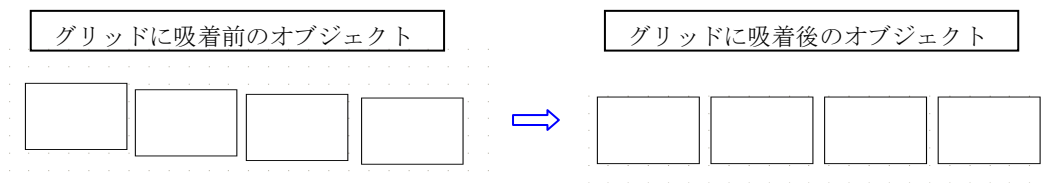
- ・「図形」メニュー－「グリッド」－「グリッドへスナップ」をクリックする。
- ・「ツール」メニュー－「オプション」－「揃え」タブで「グリッドへスナップ」をチェックする。



スナップ機能をオフにして配置した図形は、以下の手順でグリッドにスナップさせることができます。

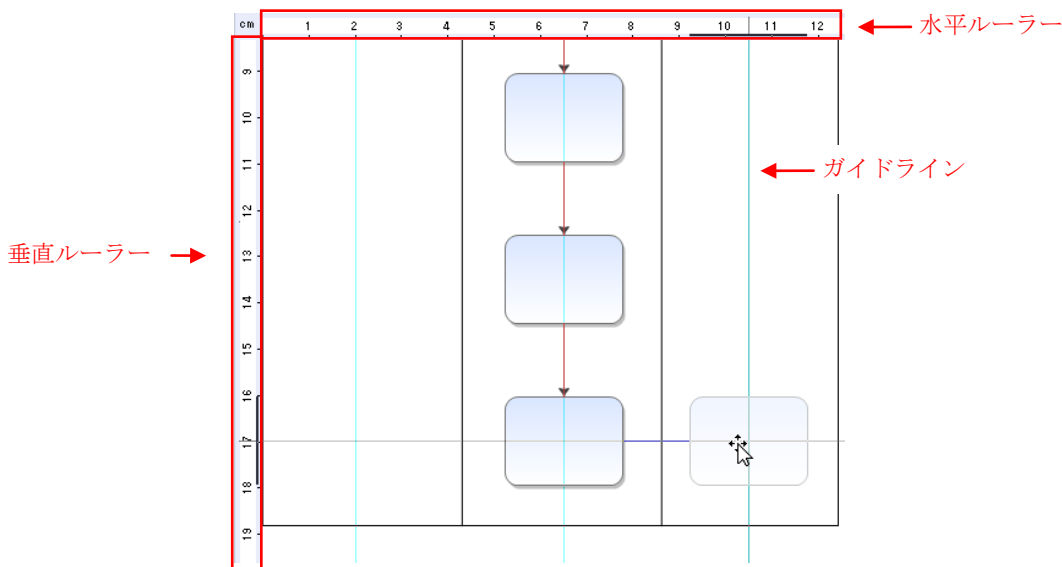
- ① 「グリッドへスナップ」をオンにします。
- ② グリッドにスナップする1個以上の図形を選択します。
- ③ 「図形」メニュー－「グリッド」－「オブジェクトをグリッドへスナップ」をクリックします。

一番近いグリッドに吸着されます。



1.3 ガイドライン

図形を整列して配置するための目安として表示することができます。水平ルーラーあるいは垂直ルーラーにマウスポインタを合わせ、図表内にドラッグすると水色の線が表示されますので、任意の場所まで移動します。ガイドライン近くに図形を配置すると、図形がガイドラインにスナップします。



ガイドラインを削除するには、ガイドラインをルーラーに向かってドラッグします。

1.4 オブジェクトの複数選択

オブジェクトは複数選択することができます。

オブジェクトを選択する場合は、マウスポインタを選択モードにします。



1) 範囲選択

- ① マウスポインタを選択する範囲の左上から右下に向かって斜めにドラッグし、長方形で囲みます。
- ② 完全に長方形で囲まれたオブジェクトだけが選択されます。

2) 任意選択

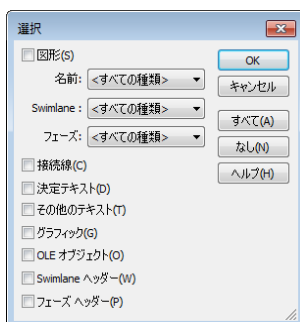
- ① 選択対象の最初の図形を選択します。
- ② 「Shift」キーを押したまま、順にオブジェクトをクリックします。

3) 選択ダイアログボックスの活用

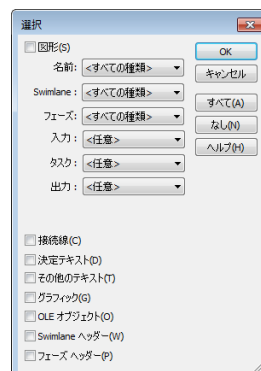
オブジェクトを種類ごとに選択することができます。

- ① 「編集」メニューー「選択」をクリックし、「選択」ダイアログボックスを開きます。
- ② 対象のオブジェクト（図形、接続線、決定テキストなど）をチェックし「OK」ボタンをクリックします。
- ③ 選択対象が図形の場合、さらに条件を設定することができます。すべての図形を選択したい場合は、条件を入れないでください。

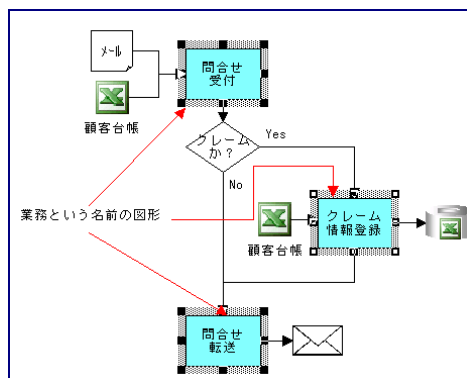
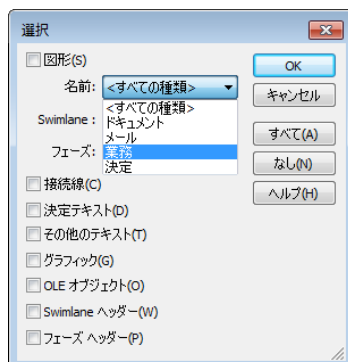
【「基本図表」の場合】



【「プロセス図表」の場合】



例) 「図形」にチェックを入れて「名前」で選択条件を絞り込んだ場合は下図のようになります。



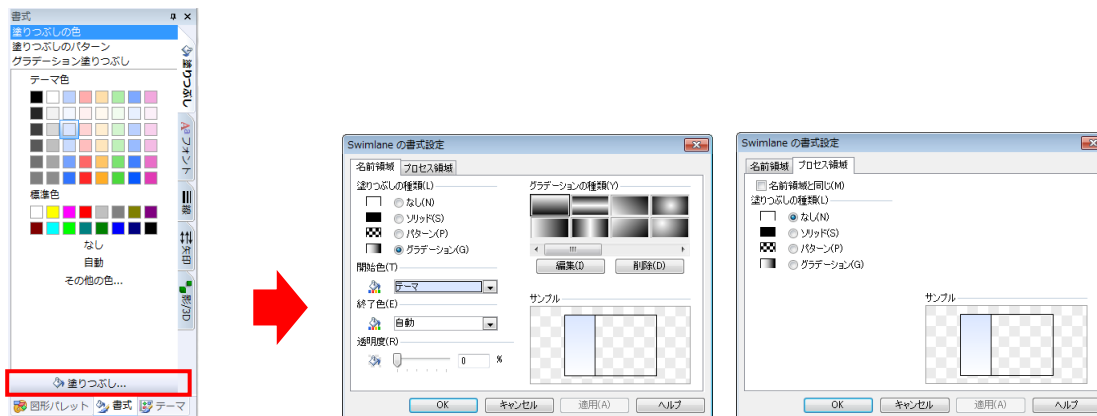
1.5 書式の変更

Swimlane や図形、接続線の書式を変更できます。

1) Swimlane の書式変更

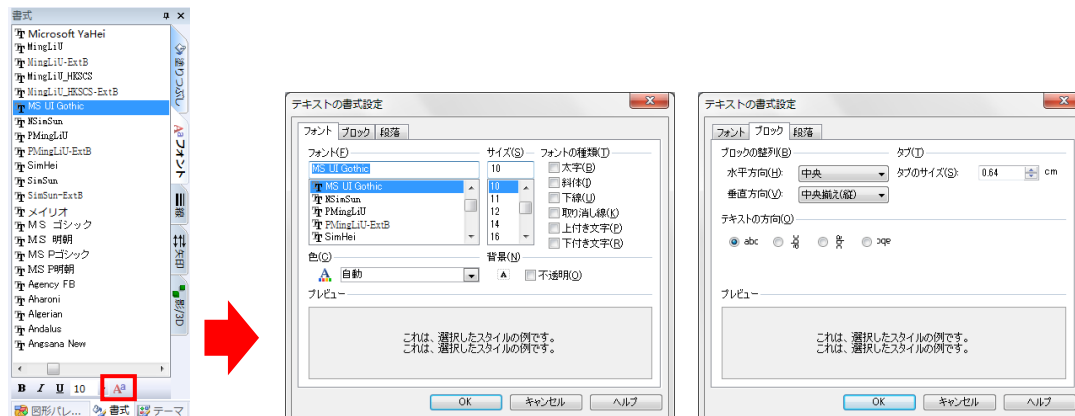
◆ 塗りつぶし

Swimlane を選択し、「書式」パレットウィンドウ「塗りつぶし」タブで Swimlane 名が表示されている領域と、プロセス領域の背景色をそれぞれ変更できます。「書式」パレットウィンドウ下部の「塗りつぶし」ボタンをクリックすると、詳細な書式設定ができます。



◆ フォント

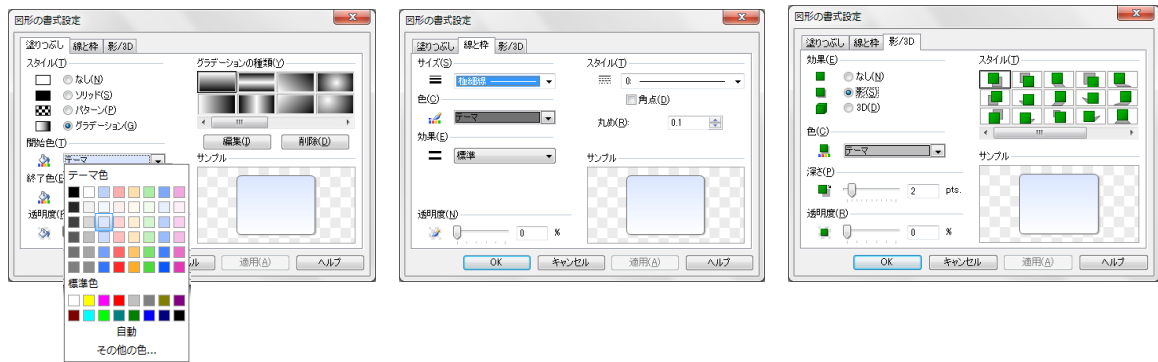
Swimlane を選択し、「書式」パレットウィンドウ「フォント」タブで Swimlane や図形のテキストフォントやサイズ、向き、揃えを変更できます。「書式」パレットウィンドウ下部の「フォント」ボタンをクリックすると、「テキストの書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式設定ができます。



2) 図形の書式変更

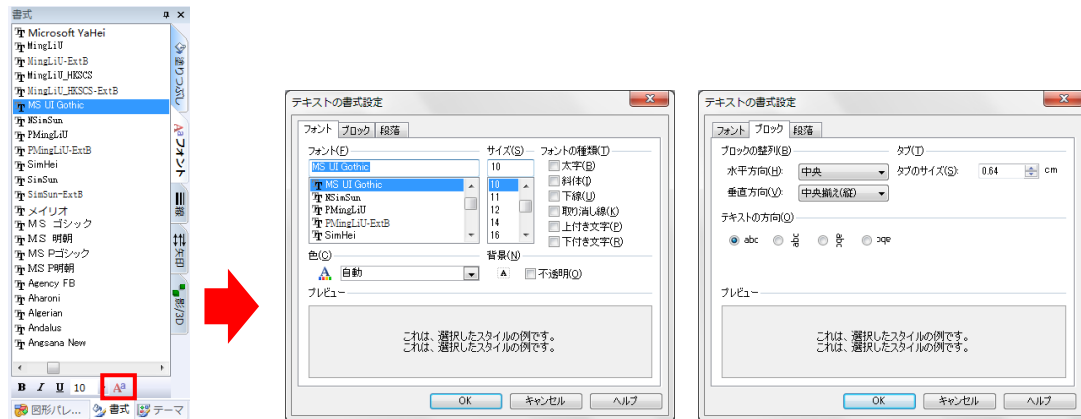
◆ 塗りつぶし

図形を選択し、「書式」パレットウィンドウ「塗りつぶし」タブで図形の色や影付き効果、図形の枠線スタイルを変更できます。「書式」パレットウィンドウ下部の「塗りつぶし」ボタンをクリックすると、詳細な書式設定ができます。



◆ フォント

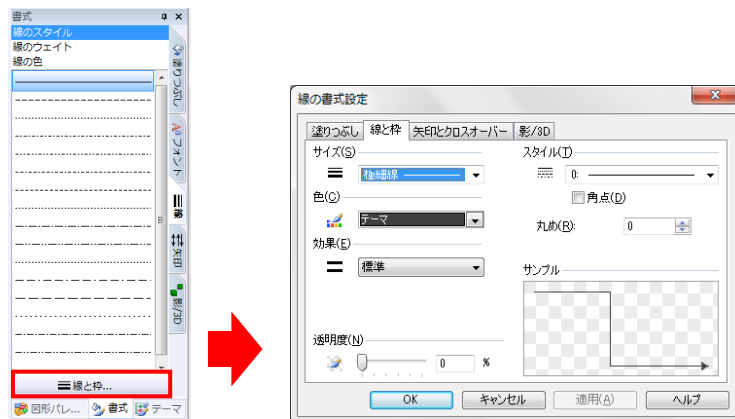
図形を選択し、「書式」パレットウィンドウ「フォント」タブで図形の塗りつぶしと、枠線スタイル、影付き効果などを設定できます。「書式」パレットウィンドウ下部の「フォント」ボタンをクリックすると、「テキストの書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式設定ができます。



3) 接続線の書式変更

◆ 線のスタイル、太さ、色

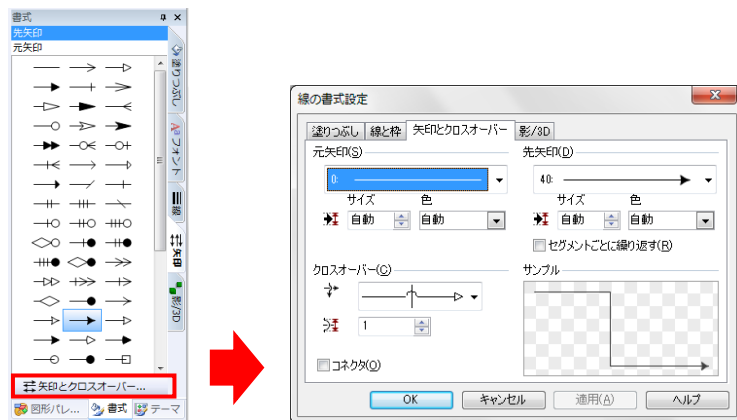
接続線を選択し、「書式」パレットウィンドウ「線」タブで線のスタイル、太さ、色を変更できます。「書式」パレットウィンドウ下部の「線と枠」ボタンをクリックすると、「線の書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式設定ができます。



◆ 先矢印、元矢印

接続線を選択し、「書式」パレットウィンドウ「線」タブで矢印の種類や色、サイズなどを変更できます。

「書式」パレットウィンドウ下部の「矢印とクロスオーバー」ボタンをクリックすると、「線の書式設定」ダイアログボックスを開き、詳細な書式設定ができます。



1.6 書式のコピー／貼り付け

オブジェクト（図形や線など）のフォント、揃え、線のスタイル、塗りつぶしスタイル、枠、フィールドテキストなどの書式は、他のオブジェクトに簡単にコピーすることができます。

- ① 他のオブジェクトに適用するスタイルが設定されたオブジェクトを選択します。
- ② 「標準」ツールバーの「書式コピー／貼り付け」アイコンをクリックします。マウスポインタが「書式コピー／貼り付け」モードに変わります。



- ③ コピー先のオブジェクトをクリックします。
- ④ 「完了」ボタンをクリックし、「書式コピー／貼り付け」モードを終了します。

1.7 キーボードショートカットキーの利用

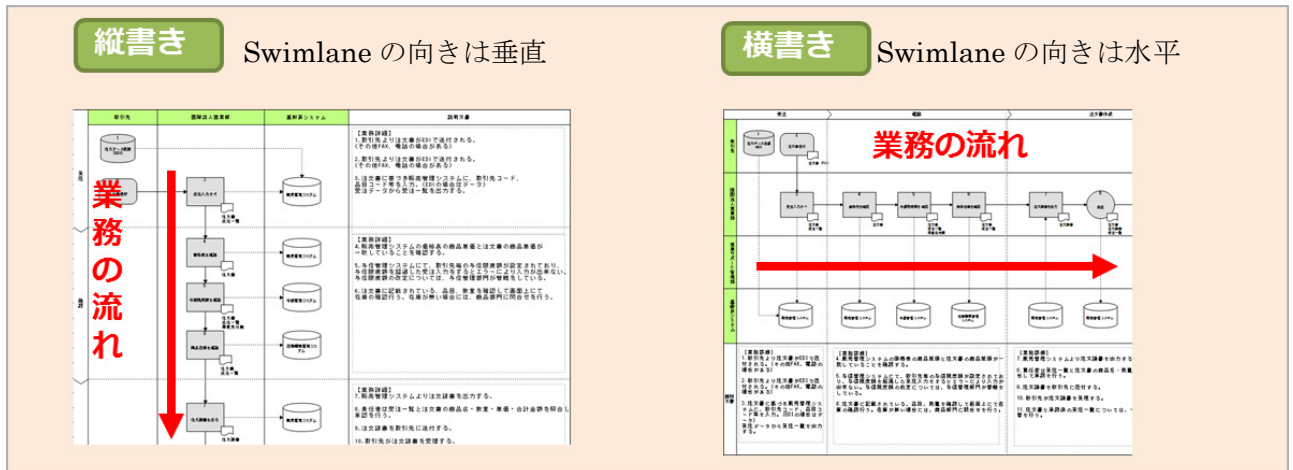
ショートカットキーは、状況に応じて使用すると迅速に作業を進めることができます。

ここでは使用頻度の高い便利なショートカットキーをご紹介します。

ショートカットキー	説明
Ctrl+C	コピー
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+A	すべて選択
Ctrl+Z	もとに戻す
Ctrl+Y	Ctrl+Z で戻した動作の再実行
Ctrl+S	上書き保存
F2	テキスト編集
F9	「図形パレットの選択」ダイアログボックスの表示
Ctrl+矢印キー(←↑→↓)	選択した図形の左、上、右、下に図形を配置

2. Swimlane

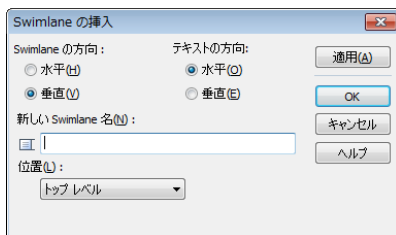
最初に業務フローチャートを描く方向を決めます。



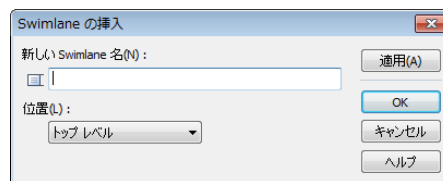
図形の配置後は、Swimlane の向きを変更できません。

図形の配置前と配置後で、Swimlane を作成する「Swimlane の挿入」ダイアログボックスは異なります。

【図形配置前】

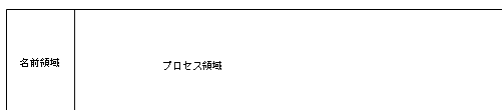


【図形配置後】



Swimlane は、Swimlane 名が表示される「名前領域」と図形を配置する「プロセス領域」で構成されています。

Swimlane の名前領域で右クリックするとコンテキストメニューが表示され、「Swimlane の名前の変更」「Swimlane の移動」「Swimlane の挿入」「Swimlane マネージャ」より簡単に編集することができます。



2.1 Swimlane の作成

1) 新規 Swimlane の作成

- ① 下記、どちらかの方法で「Swimlane の挿入」ダイアログボックスを開きます。
 - ・「ツールボックス」 ツールバー 「Swimlane 部門」 アイコンー 「Swimlane の挿入」 をクリックする。
 - ・「挿入」メニューー 「Swimlane」 をクリックする。
- ② 「Swimlane の方向」と「テキストの方向」をチェックします。
- ③ 「新しい Swimlane 名」に登録する Swimlane 名を入力し「OK」ボタンをクリックします。

連続で複数の Swimlane を追加する場合は、「適用」ボタンをクリックします。

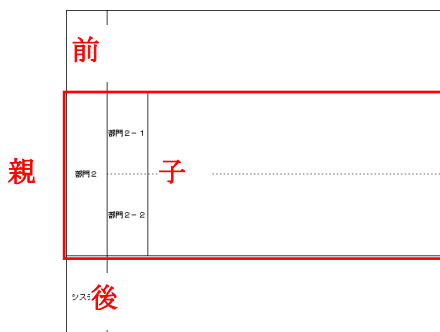
項目	説明
Swimlane の方向	Swimlane の方向を変更できます。ただし、図形の配置後は変更できません。
水平	横向きの Swimlane を作成します。(初期設定値)
垂直	縦向ききの Swimlane を作成します。
テキストの方向	テキストの方向を変更できます。
水平	Swimlane の名前を横書きで表示します。
垂直	Swimlane の名前を縦書きで表示します。(初期設定値)
新しい Swimlane 名	登録する Swimlane 名を入力または既存の Swimlane 名をドロップダウンリストより選択します。 以下の場合に、テキストボックスが自動的にドロップダウンリストとなり、既存の Swimlane が表示されます。 ・同じファイルの他の図表に既に Swimlane が存在する場合 ・ Process Central リソースモデルを持つリポジトリに接続している場合
位置	新しい Swimlane 名の追加を、既存の Swimlane から見た Swimlane の位置に指定することができます。
トップレベル	・ Swimlane の方向が水平の場合、最上位レベルの一番下に追加します。(初期設定値) ・ Swimlane の方向が垂直の場合、最上位レベルの一番右に追加します。(初期設定値)
前	・ Swimlane の方向が水平の場合、選択した既存 Swimlane の上に追加します。 ・ Swimlane の方向が垂直の場合、選択した既存 Swimlane の左に追加します。
後	・ Swimlane の方向が水平の場合、選択した既存 Swimlane の下に追加します。 ・ Swimlane の方向が垂直の場合、選択した既存 Swimlane の右に追加します。
子	・ Swimlane の方向が水平の場合、選択した既存 Swimlane の右に追加します。 ・ Swimlane の方向が垂直の場合、選択した既存 Swimlane の下に追加します。
親	・ Swimlane の方向が水平の場合、選択した既存 Swimlane の左に追加します。 ・ Swimlane の方向が垂直の場合、選択した既存 Swimlane の上に追加します。
既存 Swimlane リスト	追加する図表の既存 Swimlane リストが表示されます。 ※「トップレベル」を選択している場合は表示されません。

2) 指定場所へ追加

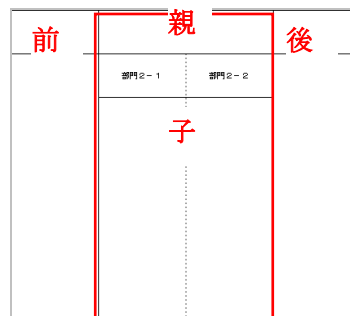
登録済みの Swimlane に対して、「前」「後」「親」「子」で場所を指定して新しい Swimlane を追加します。

「前」「後」「親」「子」は Swimlane の向きによって、追加される場所が異なります。

【Swimlane の方向が「水平」の場合】



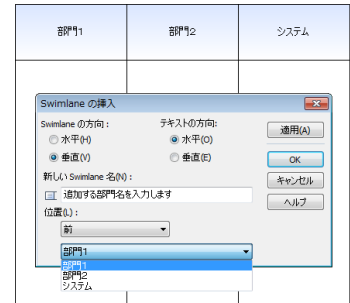
【Swimlane の方向が「垂直」の場合】



◆ 同レベルの Swimlane 追加

「部門 1」と「部門 2」の間に新しい Swimlane を追加する場合、「部門 1」の「後」または「部門 2」の「前」を指定します。

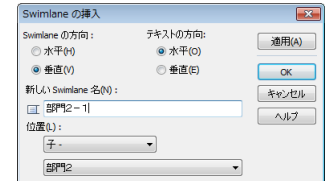
- ① 「位置」で「前」または「後」を選択します。
- ② ①で「位置」を選択すると既存 Swimlane のリストが表示されます。対象の Swimlane を選択します。



◆ 階層レベルの Swimlane 追加

「部門 2」に子 Swimlane を追加する場合、「子」を指定し、対象となる親 Swimlane 「部門 2」を指定します。

- ① 「位置」で「子」を選択します。
- ② ①で「位置」を選択すると既存の Swimlane リストが表示されます。親 Swimlane となる対象の Swimlane を選択します。



既存の Swimlane を集約して親 Swimlane を作る場合、「親」を指定し、対象となる子 Swimlane を選択します。

- ① 「位置」で「親」を選択します。
- ② ①で「親」を選択すると既存の Swimlane リストが表示されます。子 Swimlane とする対象の Swimlane を選択します。



2.2 Swimlane 名称の変更

1) Swimlane 名の変更

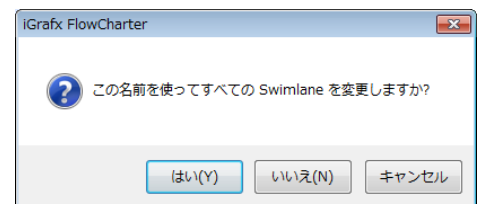
Swimlane の名前領域を選択し、直接修正します。

配置した Swimlane を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。入力した内容は、「Esc」キーまたは図表の空白部分をクリックするか、次の操作（Swimlane 選択をするなど）を行なって確定します。

入力されているテキストの一部を修正したい場合には、選択した Swimlane の中をクリックするか、「F2」キーを押すと、入力されているテキストを上書きせずに必要な箇所だけ変更することができます。

2) Swimlane 名の一括変換

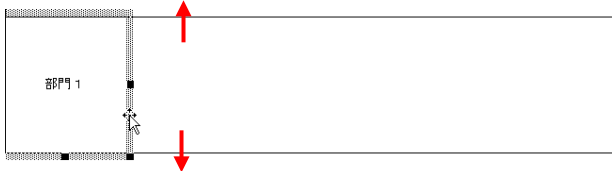
iGrafx FlowCharter では、ファイル単位に Swimlane の名称を一括管理しているため、1つの Swimlane の名称を変更すると、ファイル内のすべての図表を検索し、同期をとるメッセージが表示されます。



2.3 Swimlane の移動

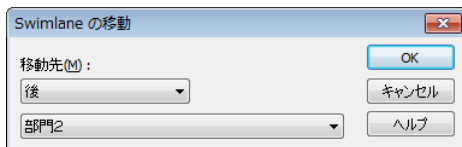
1) ドラッグによる Swimlane の移動

Swimlane は、図表内で移動することができます。Swimlane の名前領域を選択し、枠線上の網かけ部分を移動したい方向にドラッグします。同じレベルの範囲で移動することができます。Swimlane を移動すると、その Swimlane に配置された図形なども一緒に移動します。Swimlane を移動しても、図形の関係は保たれます。



2) ダイアログボックスを利用した Swimlane の移動

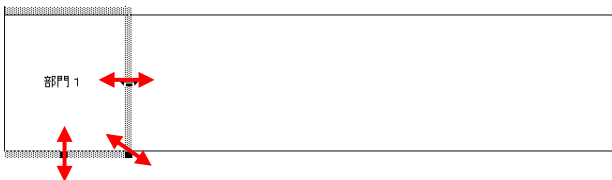
親 Swimlane と子 Swimlane などレベル間の違う Swimlane の移動は、「Swimlane マネージャ」または「Swimlane の移動」より行うことができます。



2.4 Swimlane のサイズ変更

1) 手動で変更

Swimlane の名前領域を選択し、枠線上の黒いハンドルをドラッグします。



2) 自動拡張機能による調整

Swimlane のサイズは、配置した図形を必ず Swimlane の枠内に収めようとするため、配置した図形の位置により自動的に変更されます。Swimlane の下部の線から、一番近い図形までの距離が設定された距離になるように、自動で調整されます。

※Swimlane の下部の線から一番近い図形までの距離を変更することができます。変更方法は P95 をご覧ください。

2.5 Swimlane の削除

1) Swimlane の削除

Swimlane の名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。

Swimlane を削除すると、Swimlane 内のオブジェクトはすべて図表から削除されます。

※「編集」メニューー「切り取り」をクリック、または「Ctrl」+「X」キーで削除することもできます。

2) 階層 Swimlane の削除

階層構造になっている Swimlane を作成する場合も、Swimlane の名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。子 Swimlane を削除した場合は、Swimlane 内のオブジェクトはすべて図表から削除されます。

親 Swimlane を削除した場合は、メッセージが表示されます。



【子 Swimlane を削除する】

親 Swimlane ごと削除されます。



【子 Swimlane を保持する】

親 Swimlane のみ削除され、子 Swimlane の階層が上がります。

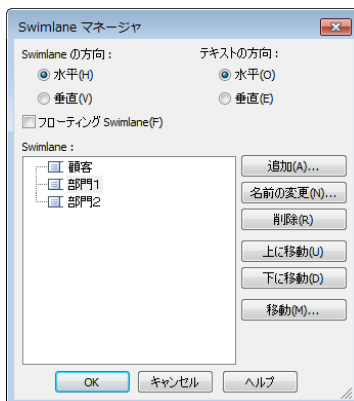


2.6 Swimlane マネージャの利用

図表単位で Swimlane 全体を構成および管理することができます。

【表示手順】

「ツールボックス」ツールバー「Swimlane 部門」アイコン「Swimlane マネージャ」

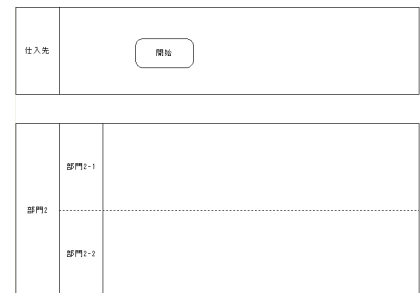



項目	説明
Swimlane の方向	Swimlane の方向を変更できます。ただし、図形の配置後は変更できません。
水平	横向きの Swimlane を作成します。(初期設定値)
垂直	縦向きの Swimlane を作成します。
テキストの方向	テキストの方向を変更できます。
水平	Swimlane の名前を横書きで表示します。
垂直	Swimlane の名前を縦書きで表示します。(初期設定値)
フローティング Swimlane	最上位レベルの Swimlane と Swimlane の間にスペースが入り、それぞれが独立した Swimlane 関係を表現できます。

項目	説明
追加	「Swimlane の挿入」ダイアログボックスを利用して、Swimlane を追加できます。
Swimlane	現在作成されている Swimlane が表示されます。この Swimlane を選択して以下の操作を行います。
名前の変更	「Swimlane の名前の変更」ダイアログボックスを利用して、選択した Swimlane の Swimlane 名称を変更できます。
削除	選択した Swimlane を削除できます。
上に移動	選択した Swimlane の配置を上に移動できます。Swimlane の方向が「垂直」の場合、フロー上の Swimlane は左に移動して配置されます。
下に移動	選択した Swimlane の配置を下に移動できます。Swimlane の方向が「垂直」の場合、フロー上の Swimlane は右に移動して配置されます。
移動	「Swimlane の移動」ダイアログボックスを利用して、選択した Swimlane を移動できます。

◆ フローティング Swimlane の表示

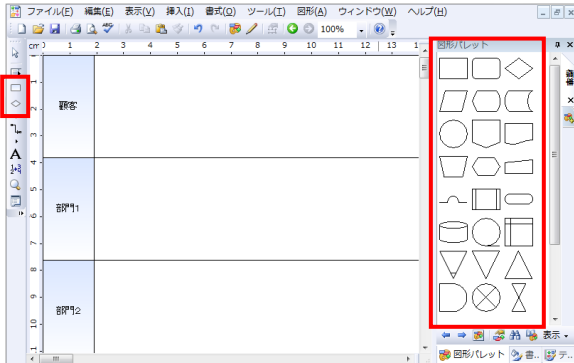
Swimlane と Swimlane の間にスペースを空けて表現することが可能です。このような Swimlane をフローティング Swimlane と呼び、最上位レベルで独立した Swimlane を表現できます。（主に BPMN 図表で利用されています。）



 「トップレベル」で登録されているすべての Swimlane の間にスペースが生まれます。その様な状況を避けたい場合、離したくない Swimlane 同士を同じ親を持つ子 Swimlane として登録します。

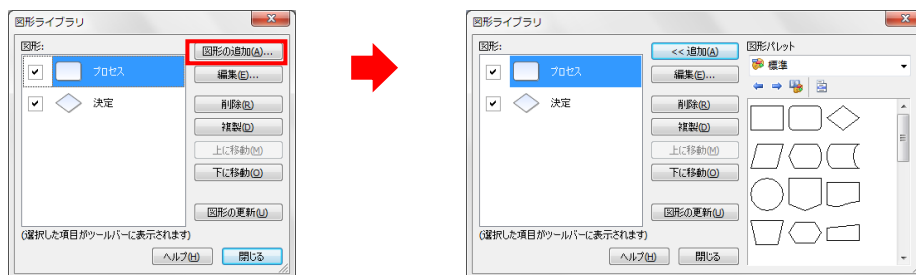
3. 図形

図形は「ツールボックス」ツールバーの図形ライブラリに登録されている図形、または図形パレットに登録されている図形から選択します。



◆ 図形ライブラリと図形パレットの違い

図形ライブラリは、あらかじめよく使う図形を図形パレットから選択し、ツールボックスツールバーに登録することができます。図形ライブラリは図表単位で管理されるので、テンプレートとして利用すると便利です。図形パレットはファイルに依存しないので、どのファイルを編集しているときでも同じパレットの図形を使用することができます。



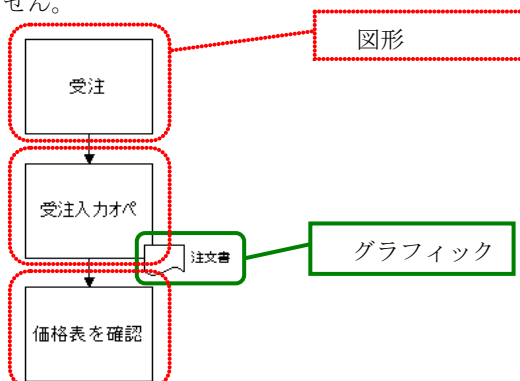
3.2 図形とグラフィック

1) 図形とグラフィックの違い

図形の種類は、「図形」と「グラフィック」の2種類があります。

「図形」は、主に図形と図形を接続線で結び、作業の順番を明確に表現するために使用します。

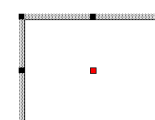
「グラフィック」は、主に図形や接続線に紐付けて、情報を補う表現に使用します。グラフィックに接続線を引くことはできません。



【図形が選択された状態】



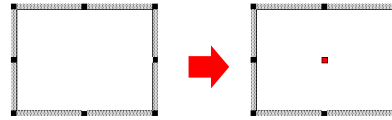
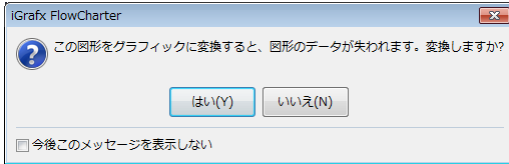
【グラフィックが選択された状態】




2) グラフィックの作成

任意の図形をグラフィックに変換できます。

- ① 図形を作業ウィンドウに配置します。
- ② 図形を選択し、「図形」メニュー→「変換」→「グラフィック」をクリックします。
- ③ メッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



 グラフィックの書式設定については、図形と同じです。

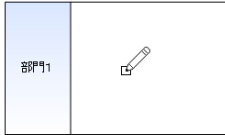
3.3 図形の配置方法

1) 基本の配置方法

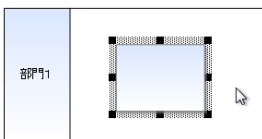
図形と図形を接続線で繋ぎながら図形を配置し、スムーズにフローチャートを描画します。

- ① 図形ライブラリまたは図形パレットより図形をクリックします。
- ② 作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタは、図形配置モード(鉛筆に図形がついた形)に変わります。

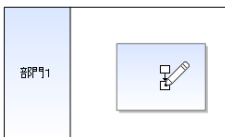
※選択した図形をドラッグで作業ウィンドウに移動した場合は、このマウスポインタの形になりません。



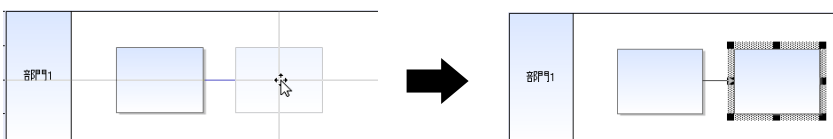
- ③ 作業ウィンドウでクリックします。選択した図形が配置されます。
図形が配置されると、ポインタは白い矢印(選択モード)に戻ります。



- ④ 空白部分をクリックし、マウスポインタを図形配置モードにします。
- ⑤ 既に配置している図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動します。マウスポインタは鉛筆に図形が2つ接続された形に変わります。



- ⑥ 図形を配置したい方向にドラッグし、マウスの左ボタンを離します。



2) 連続した配置方法 (1)


マウスポインタを図形配置モードに保ち、同じ図形を連続して配置します。

- ① 図形ライブラリに登録している図形をダブルクリックします。「完了」ボタンが表示されます。



「完了」ボタンが表示されている間は、マウスポインタの図形配置モードが維持されます。

- ② 既に配置している図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動し、図形を配置したい方向にドラッグします。
- ③ 図形の配置が終わったら、「完了」ボタンをクリックします。マウスポインタは選択モードに戻ります。

 図形パレットの図形については、ダブルクリックしても「完了」ボタンは表示されません。

3) 連続した配置方法 (2)

キーボードの矢印キーを使用して、同じ図形を接続線付きで連続して配置します。

- ① 図形ライブラリまたは図形パレットより図形をクリックします。
- ② 「Ctrl」キーを押しながら矢印キーを押すと、矢印キーの方向に同じ図形が接続線付きで配置されます。
※矢印キーを押すごとに、矢印キーの方向に連続して配置できます。


3.4 図形の移動

1) マウスで移動

選択枠のグレー部分にマウスポインタを合わせてドラッグすると図形を移動することができます。

ハンドルの黒い部分にマウスポインタを合わせてドラッグすると図形サイズが変更されます。



 Swimlane と Swimlane をまたぐ図形を配置する場合は、「Swimlane をまたいだ図形配置」P40 をご覧ください。

2) キーボードで移動

図形を選択し、キーボードの矢印キー「←」「↑」「→」「↓」を押します。1度に移動する幅はグリッドのスペースに設定された幅です。グリッドのスペースについては「グリッドのスペースを変更する」P23 をご覧ください。

3.5 グラフィックの配置

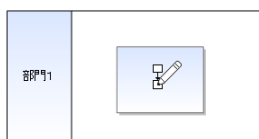
グラフィックの配置方法は、図形の配置方法と同じです。グラフィックを配置すると、中央に赤いハンドルが表示されます。この赤いハンドルをドラッグすると線が表示されます。この線をコールアウト線といいます。

コールアウト線は、図形または接続線に紐付けることができます。

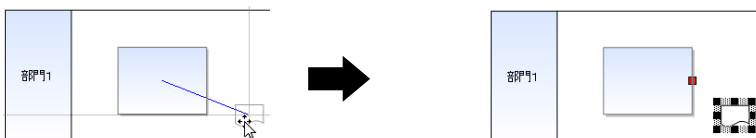
1) 図形に紐付けて配置

図形に紐付けてグラフィックを配置することができます。

- ① グラフィックをクリックし、既に配置している図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動します。マウスポインタは鉛筆に図形が2つ接続された形に変わります。

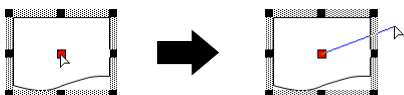


- ② 図形を配置したい方向にドラッグします。



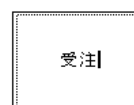
2) 配置してから図形または接続線に紐付ける

グラフィックを配置してからコールアウト線を図形または接続線に紐付けます。



3.6 図形テキストの入力

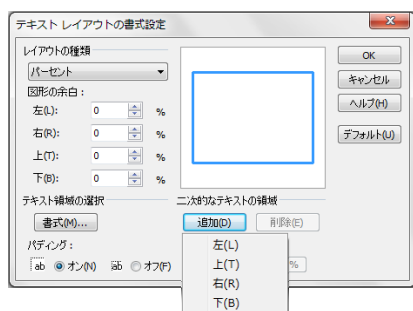
配置した図形を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。選択した図形の中を再度クリックまたは、「F2」キーを押すと部分修正ができます。入力した内容は「Esc」キー、または図表の空白部分をクリック、次の操作（図形選択をするなど）を行なって確定させます。



1) 図形テキストのレイアウト編集

図形のテキストレイアウトを変更することができます。テキストレイアウトでは、テキストの余白、テキストの書式、および二次的なテキスト領域の追加などを設定することができます。

- ① 図形を選択し、「書式」メニューー「テキストのレイアウト」をクリックします。
- ② 「テキスト レイアウトの書式設定」ダイアログボックスが開きます。「図形の余白」にテキストの余白（図形の端からの距離）をセンチ単位（固定）として入力するか、またはパーセント値で値を入力します。この操作は、4つの余白に対して行うことができます。また、余白を図形の初期設定にすることもできます。
- ③ 「二次的なテキストの領域」では、図形内に複数のテキスト領域を設けることができ、それぞれのテキストに異なる書式を設定できます。



3.7 図形の追加

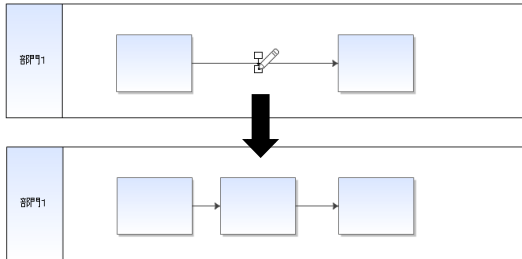
図形と図形の間に図形を追加する場合、接続線の上に図形を配置すると自動的に接続線が接続されます。

図形を追加する時は、事前に図形を配置できるスペースを作ります。

1) 接続線上に図形を配置

接続線で繋がった図形の間新しい図形を追加します。

図形を選択し、マウスポインタを接続線上に重ねるように移動します。マウスポインタが鉛筆に図形が2つ接続された形に変わったことを確認し、クリックします。



2) 追加するスペースを作って図形を配置

図形を追加するスペースがない場合は、周りの図形を移動してスペースを作る必要があります。「フェーズ」の機能を利用すると簡単にフローにスペースを作ることができます。「フェーズ」の利用方法については P58 をご覧ください。

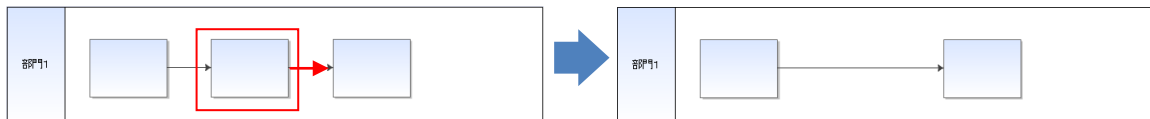
3.8 図形の削除

図形の削除は、削除対象とする図形を選択し「Delete」キーまたは「Backspace」キーを押します。

フローの間に位置する図形を削除した場合、削除図形の前で自動的に接続線が接続、または削除されるケースがあります。

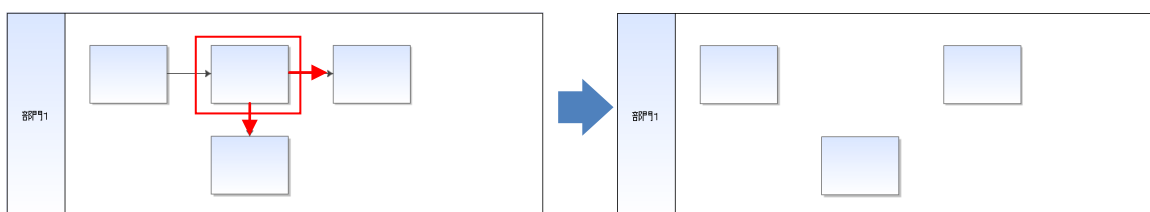
1) 1本の接続線を出力している図形を削除

1本の接続線を出力している図形を削除した場合、削除した前後の図形が自動的に接続されます。



2) 2本以上の接続線を出力している図形を削除

2本以上の接続線を出力している図形を削除した場合、その図形に接続されている接続線は図形と一緒に削除されます。

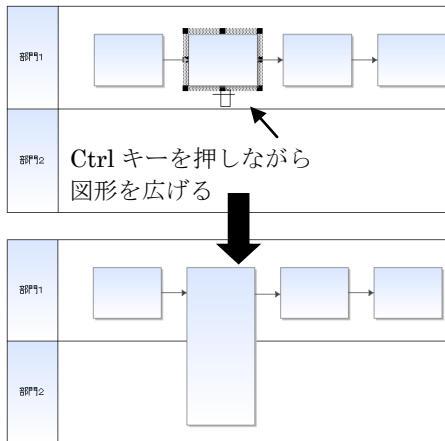


3.9 Swimlane をまたいだ図形配置

1) Swimlane をまたいだ配置

複数 Swimlane で同一の作業を行っていることを表現する場合、Swimlane をまたいで図形を配置します。

- ① 図形を選択し、「Ctrl」キーを押しながらマウスポインタを選択枠の黒いハンドルの近くに移動します。
- ② マウスポインタが下図の様な形になったことを確認し、図形を広げます。



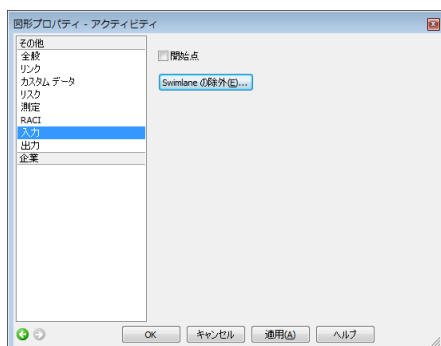
フローティング Swimlane 間をまたぐことはできません。

2) 無関係な Swimlane の除外方法

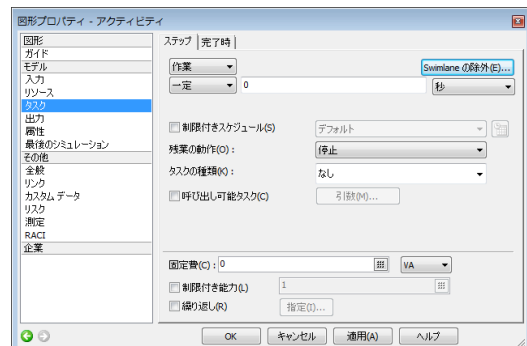
複数 Swimlane をまたぐ際、Swimlane の並び方によっては関係のない Swimlane もまたいでしまうことがあります。その場合、関係のない Swimlane を除外することができます。

- ① Swimlane をまたいだ図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。
- ② 「図形プロパティ」ダイアログボックスの「入力」カテゴリを選択し、「Swimlane の除外」ボタンをクリックします。プロセス図表の場合は、「タスク」カテゴリに「Swimlane の除外」ボタンがあります。

【基本図表】



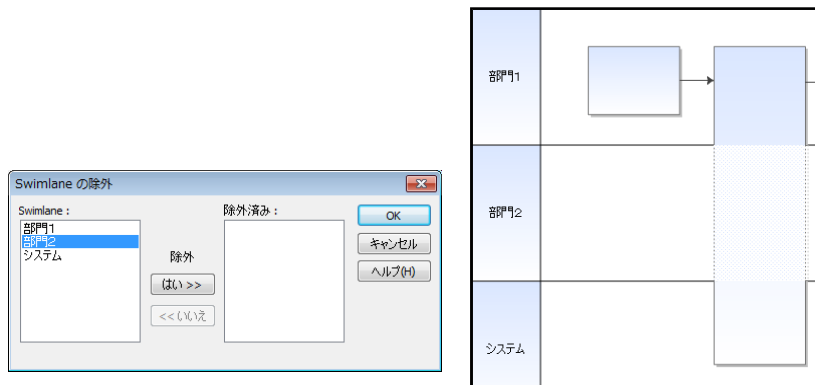
【プロセス図表】



- ③ 「Swimlane の除外」ダイアログボックスが開きます。Swimlane リストより、除外する Swimlane を選択し「はい」ボタンをクリックします。

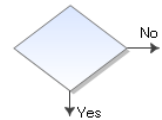
- ④ 選択した Swimlane が「除外済み」に移動したことを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

除外された Swimlane は点線で表示されます。



3.10 判断図形の利用

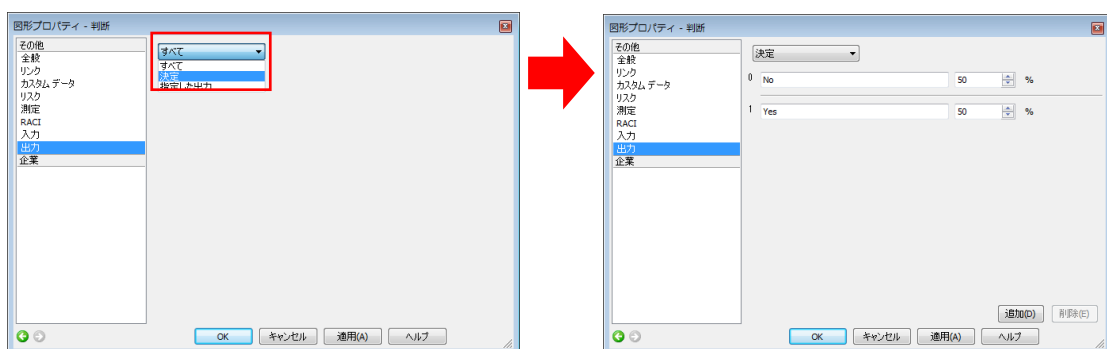
判断図形は、判断条件によって業務が2通り以上に分かれる場合に利用します。判断図形を利用すると、接続線を出力した際に「Yes」や「No」のケーステキストがラベルとして自動的に表示されます。



1) 判断図形とは

判断図形とは、判断動作を持つ図形から接続線を出力した場合にラベルが表示される図形です。図形パレットに登録されているひし形の図形には、あらかじめラベルを表示する設定がされています。ラベルが表示されない図形も以下の手順で設定を変更して、ラベルを表示することができます。

- ① 図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。
- ② 「図形プロパティ」ダイアログボックスの「出力」カテゴリを選択します。
- ③ ドロップダウンリストの「すべて」を「決定」に変更します。

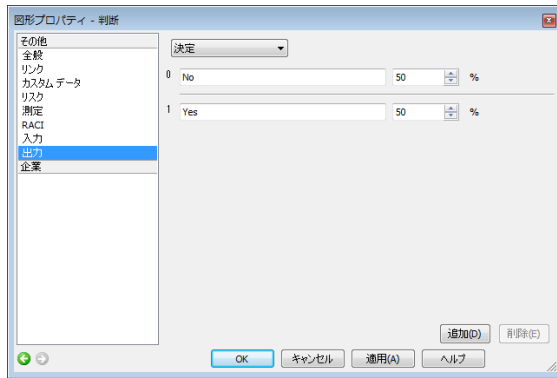


2) ケーステキストの追加と編集

ケーステキストは、「基本図表」と「プロセス図表」または「BPMN 図表」で編集方法が異なります。

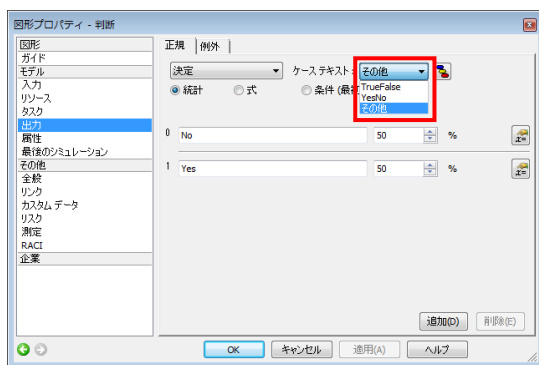
◆ 「基本図表」の場合


ケーステキストは直接編集可能です。右下の「追加」ボタンをクリックし、ケーステキストを増やすことができます。



◆ 「プロセス図表」「BPMN 図表」の場合

ケーステキストを「その他」に変更し、編集できる状態にします。右下の「追加」ボタンをクリックし、ケーステキストを増やすことができます

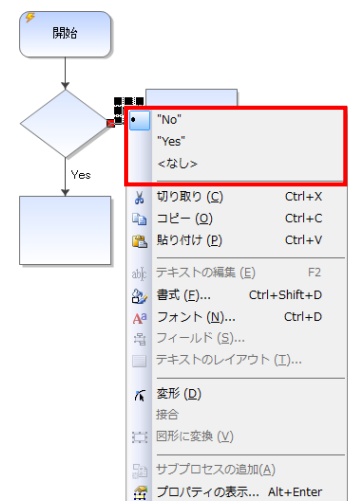


 決定ポイントの割合は、トータル 100%になるように自動で計算され調整されます。この割合は、シミュレーション機能で利用する項目です。

3) ケーステキストの入れ替え

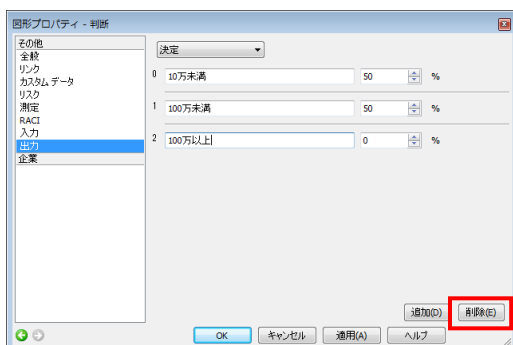
ケーステキストを入れ替えたい場合は、ラベルの上または接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューよりラベルを選択することによって簡単に入れ替えることができます。

ケーステキストが3つ以上ある場合でも同じ操作で切り替えができます。



4) ケーステキストの削除

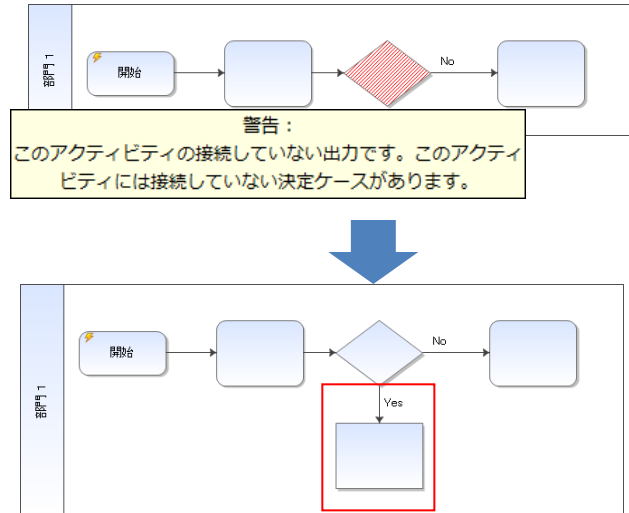
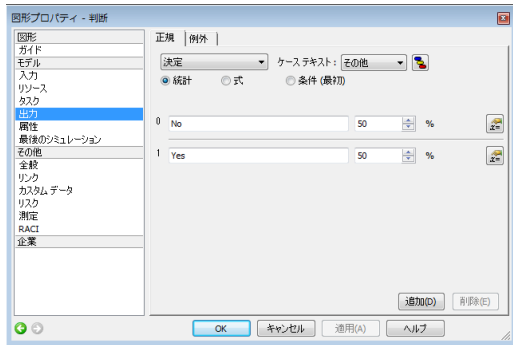
ケーステキストを選択し、「削除」ボタンをクリックします。



5) エラーケース

プロセス図表または BPMN 図表をご利用の場合、定義された判断条件を満たしていない場合は、判断図形に赤斜線が入ります。また判断図形にポインタを合わせると警告が表示されます。

ケーステキストに「Yes」と「No」と定義しているにも関わらず、判断を「Yes」とした場合の先の図形（アクティビティ）がないためです。定義した判断条件を満たしたフローになっているかご確認ください。



3.11 図形の置換

配置した図形を別の図形に置換することができます。図形ライブラリ、図形パレット、またはクリップボードに登録されている図形と置き換えることができます。




項目	説明
[図形ライブラリ] タブ	[図形ライブラリ] に含まれている図形が表示されます。
[図形パレット] タブ	[図形パレット] に含まれるコレクションから、図形を選択することができます。
[クリップボード] タブ	クリップボード内のオブジェクトが表示されます。

- ① 図表に配置している図形を選択し、「図形」メニューー「図形の置換」をクリックします。
- ② 「図形の置換」ダイアログボックスより置換したい図形を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

目的に合わせて置換する範囲を切り替えます。初期設定ではシンボルだけしか置換されません。

項目	説明
シンボルだけ置換	シンボルのみを置換えます。(初期設定値)

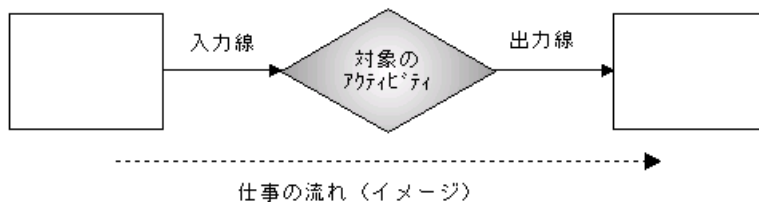
項目	説明
すべてのプロパティを置換	シンボルと、そのシンボルが持つすべてのプロパティ（色、名前、塗りつぶし、枠など）を置き換えます。 ※SOX+図形の情報、カスタムデータの情報は維持されます。

 プロセス図表または BPMN 図表を利用している場合、「すべてのプロパティを置換」を選択して置換すると、モデリング情報は上書きされますのでご注意ください。

4. 接続線

接続線は、2つの図形を接続するもので、プロセスにおける仕事の流れを表します。それぞれの図形には、各辺の中心に4つの接続点があります。ただし、接続線は接続点以外の場所からでも引くことができます。

接続線は自動的に配置され、図形を移動した場合でも自動的に再描画されます。

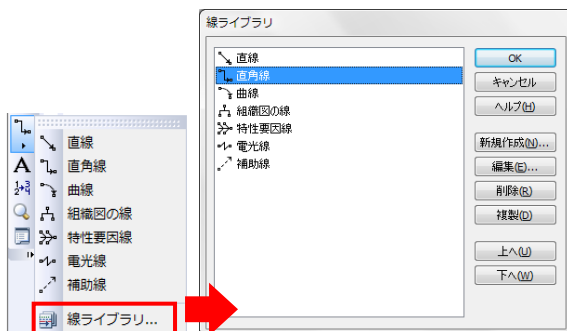


入力線：対象のアクティビティから見て矢印の先が自分に向いている線

出力線：対象のアクティビティから見て矢印が自分から出ている線

4.1 図形の接続

iGrafx FlowCharter では、接続線の種類が複数用意されています。「ツールボックス」ツールバーの「接続線」ツールで接続線の種類を変更することができます。



線種	説明
直線	斜めに線を引いた時に、一直線になる線です。
直角線 (初期設定)	斜めに線を引いた時に、直角に折れる線です。
曲線	ベジェ曲線です。
組織図の線	組織図などを作成する時に最適な線です。
特性要因図線	特性要因線図を作成する時に最適な線です。

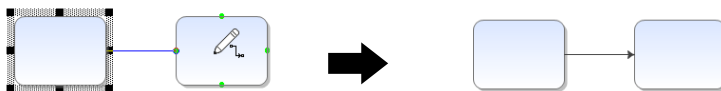
線種	説明
電光線	稲妻のように折れた線です。
補助線	プロセス図表または BPMN 図表を利用してシミュレーションを実行する場合、トランザクションはこの線を通りません。 ※テキストと図形を結ぶ接続線としてご利用できます。
線ライブラリ	簡単に選択できるように保存された線のカスタムコレクションです。新しい線の作成、または既存の線を削除または変更することができます。

1) 図形と図形の接続

2つの図形を接続線で結びます。マウスポインタが「選択」モードになっていることを確認します。



- ① 接続線を引き始める図形の内側から、接続先の図形の内側までドラッグします。
- ② マウスの左ボタンを離すと、図形間に接続線が描かれます。



2) 複数図形の一括接続

選択した複数の図形を、一度に接続線で結ぶことができます。

- ① 接続線を引き始める図形から順番に、「Shift」キーを押しながらクリックして選択します。
※「Shift」キーを押しながら図形をクリックすると、複数の図形を選択できます。
- ② 「図形」メニューー「図形の接続」をクリックします。

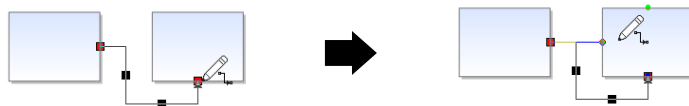
4.2 接続線の編集

図形間を接続している接続線を編集します。

1) 接続点の移動

図形間を接続している線の接合点を移動することができます。

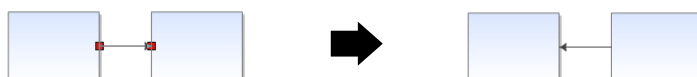
- ① 接続線を選択します。
- ② 線の接合点（赤い点）をクリックし、新しい接続点にドラッグします。



2) 矢印の向きを変更

図形間を接続している線の向きを切り替えることができます。

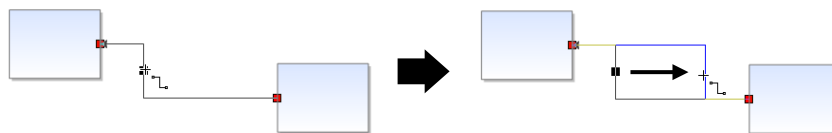
- ① 図形に接続した線を選択し、「図形」メニューー「矢印の切り替え」をクリックします。



3) セグメントの移動

接続線は、図形間に自動的に配置されます。接続線のセグメントは、手動で特定の場所に移動、または配置することができます。

- ① 接続線を選択し、黒いハンドルにマウスポインタを重ねると十字になります。
- ② 線のセグメントを別の場所にドラッグします。



4) 頂点の追加

接続線に頂点を追加して別の線セグメントを作成できます。

- ① 接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューより「頂点の追加」をクリックします。マウスポインタが頂点ポインタになります。
- ② 頂点ポインタでクリックすると、クリックした位置に新規の黒いハンドルが追加されます。
- ③ ハンドルを移動し、接続線の位置を変更します。



5) 線の経路を元に戻す

セグメントを手動で移動した線や、頂点を追加した線を、自動経路の線に戻すことができます。

接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューより「線の経路」をクリックします。接続線が初期配置に戻ります。

4.3 接続ルールの変更

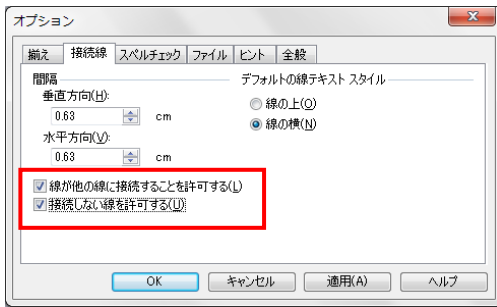
通常、接続線は図形と図形を繋ぐために引きますが、作図上、図形に繋がらない線や、線に接続した線を引きたい場合に接続線が持つルールを変更することができます。

1) 接続線のルール変更

「オプション」ダイアログボックスで接続線のルールを変更すると、iGrafx FlowCharter で利用するすべての接続線に適用されます。

【表示手順】

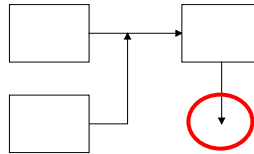
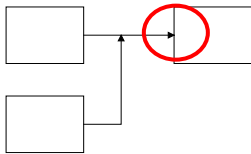
「ツール」メニュー - 「オプション」 - 「接続線」タブ



【線が他の線に接続することを許可する】

【接続しない線を許可する】

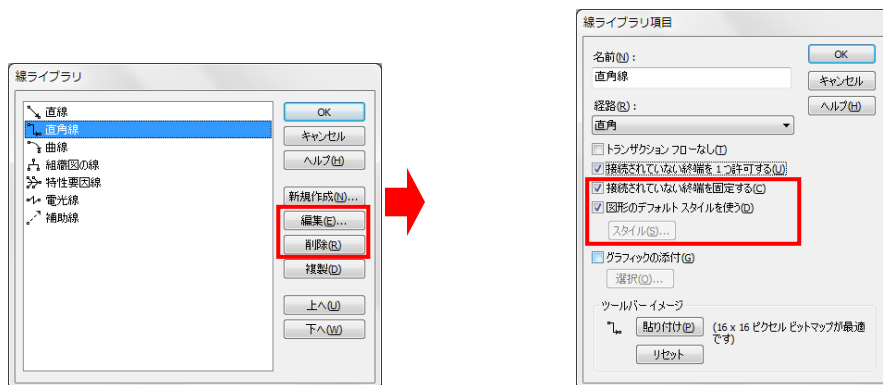
接続線に接続線を接続することができます。図形に接続していない線を描くことができます。



2) 接続線のルールを特定の接続線に適用

「線ライブラリ項目」ダイアログボックスで接続線のルールを変更すると、接続線ルールを変更した図表のみに適用されます。

- ① 「ツールボックス」 ツールバー—「線ライブラリ」をクリックします。
- ② 「線ライブラリ」ダイアログボックスが開きます。接続線を選択し「編集」ボタンまたは「新規作成」ボタンをクリックします。
- ③ 「線ライブラリ項目」ダイアログボックスが開きます。



第3章 フローチャートを整える

図形をきれいに整列させる機能や、図形の間隔を等しくする機能などについて説明します。

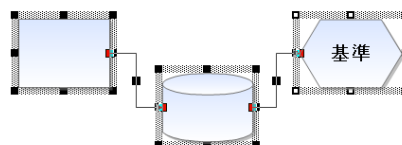
1. 配置・整列

図形は、基準図形に合わせて整形されます。「Shift」キーを押しながら整形したい対象の図形を選択した場合、最後に選択した図形に白いハンドルが表示されます。これが基準図形です。基準としたい図形に白いハンドルが表示されていない場合は、「Shift」キーを押しながら一旦選択を解除し、再度選択しなおしてください。

1.1 図形の整列

図形をきれいに揃えます。

- ① 揃えたい図形を複数選択します。
- ② 基準図形に白いハンドルが表示されていることを確認します。
- ③ 「図形」メニュー→「揃え」をクリックし、以下の項目から選択します。




項目	説明
左揃え	基準図形の左のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
中央揃え（横）	基準図形の中央ラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
右揃え	基準図形の右のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
上揃え	基準図形の上のラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。
中央揃え（縦）	基準図形の中央ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。
下揃え	基準図形の下ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。

1.2 図形のサイズ揃え

図形の大きさを同一にします。

- ① 同一サイズにする図形を全て選択します。
- ② 「図形」メニュー→「同一サイズにする」をクリックし、以下の項目から選択します。

項目	説明
幅	選択したすべての図形を基準図形と同じ幅にします。
高さ	選択したすべての図形を基準図形と同じ高さにします。
両方	選択したすべての図形の幅と高さを基準図形と等しくします。
テキストに合わせる	テキストに合わせて選択した図形にサイズを揃えます。

 図形または接続線に紐付いているグラフィックは、この機能が使えません。グラフィックを選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「グラフィックを図形から接合解除」をクリックしてからサイズを整えてください。

1.3 図形の均等配置

図形を等間隔に配置します。

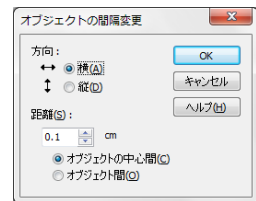
- ① 均等配置する図形を全て選択します。
- ② 「図形」メニュー「均等配置」をクリックし、以下の条件から選択します。

項目	説明
中心を基準に横方向等間隔	図形の中心を基準にして、選択した図形を図表内で横方向に均等配置します。
中心を基準に縦方向に等間隔	図形の中心を基準にして、選択した図形を図表内で縦方向に均等配置します。
端を基準に横方向等間隔	図形の端を基準にして、選択した図形を図表内で横方向に均等配置します。
端を基準に縦方向等間隔	図形の端を基準にして、選択した図形を図表内で縦方向に均等配置します。
オブジェクトの間隔変更	「オブジェクトの間隔変更」ダイアログボックスが表示されます。図形の間隔を直接数値で入力します。


- ③ 選択した条件に合わせて、図形が均等配置されます。

◆ 「オブジェクトの間隔変更」の場合

「オブジェクトの間隔変更」を選択すると、「オブジェクトの間隔変更」ダイアログボックスが開きます。以下の条件を指定し、「OK」ボタンをクリックします。



項目	説明
方向	[横] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が水平方向に適用されます。 [縦] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が垂直方向に適用されます。
距離	[距離] フィールドに値 (センチ) を入力します。 [オブジェクトの中心間] を選択すると、図形の中心から中心までの間隔を指定します。 [オブジェクト間] を選択すると、選択した図形の端から端までの間隔を指定します。

 図形または接続線に紐付いているグラフィックは、この機能が使えません。
グラフィックを選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「グラフィックを図形から接合解除」をクリックしてから均等配置をしてください。

1.4 図形の回転・反転

1) 図形の回転

図形を右、左、または一定の角度で回転することができます。

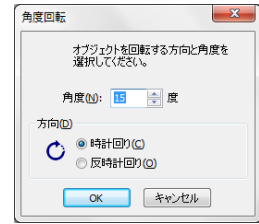
- ① 1 個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニュー「回転/反転」をクリックし、以下の項目から回転オプションを選択します。


項目	説明
右回転	図形が、時計回りに 90 度回転します。
左回転	図形が、反時計回りに 90 度回転します。
回転ツール	図形に表示される緑の回転ハンドルをドラッグし、図形を自由自在に回転させます。
角度指定	「角度回転」ダイアログボックスが表示されます。回転する角度を 0~360 度の間で選択し、回転方向を時計回りまたは反時計回りのいずれかを指定します。

- ③ 選択した条件に合わせて、図形が回転されます。

◆ 「角度指定」の場合

「角度指定」を選択すると、「角度回転」ダイアログボックスが開きます。
指示条件を指定し、「OK」ボタンをクリックします。




 図形内のテキストも一緒に回転します。

2) 図形の反転

垂直線（上下）または水平線（左右）に沿って、図形を反転することができます。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニューー「回転／反転」をクリックし、以下の項目から反転オプションを選択します。

項目	説明
水平に反転	図形の中心を通る水平線を基準にして図形が反転します。
垂直に反転	図形の中心を通る垂直線を基準にして図形が反転します。

 図形内のテキストは反転されません。テキストを変更するには「テキスト揃え」を使います。

1.5 重なる図形の順序変更

図形を重ねて配置する場合は、重ねる順番を変更することができます。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニューー「順番」をクリックし、以下の項目からオプションを選択します。

項目	説明
1番下へ移動	図形は重なった図形の一番下へ移動します。
1番上へ移動	図形は重なった図形の一番上へ移動します。
1つ下へ移動	図形は重なった図形の中で1つ下へ移動します。
1つ上へ移動	図形は重なった図形の中で1つ上に移動します。

2. 図形番号

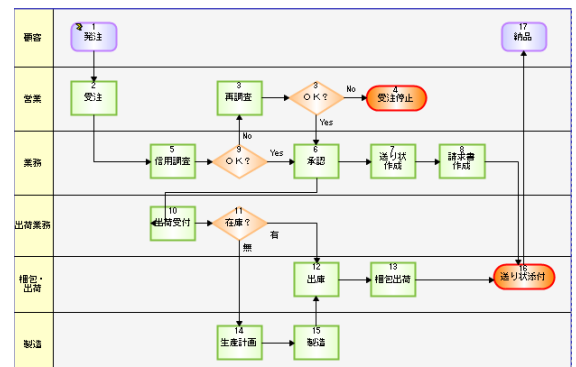
すべての図形は、図形を特定する図形番号を持ちます。削除した図形が持つ図形番号は欠番となりますが、図形番号の付け直し機能で採番しなおすことができます。

2.1 図形番号の表示方法

1) 図形番号の表示

初期設定では、図形番号が表示されていません。

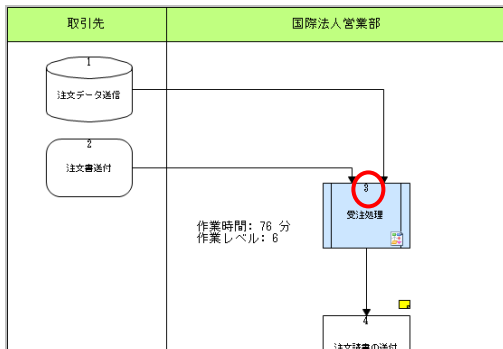
「ツールボックス」ツールバーー「図形番号」アイコンー
「すべての図形番号を表示」をクリックし、図形番号を表示
します。



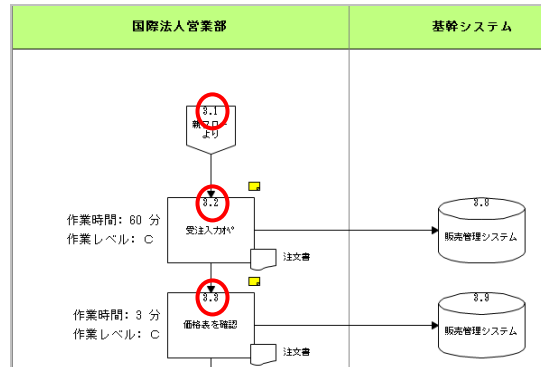
◆ 階層図表の図形番号

階層関係にある業務フローチャートはリンクされています。このような関係の場合、サブプロセスの図形番号はリンク元である親図形の図形番号を頭につけて表示されます。

【リンク元】

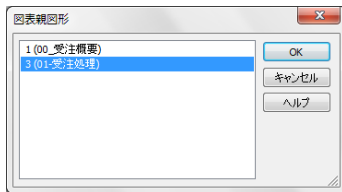


【リンク先】



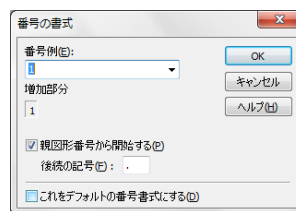
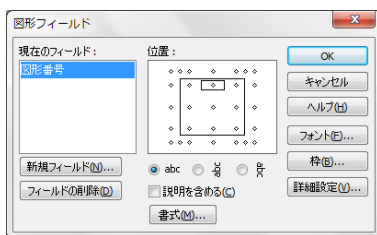
➤ リンク元が複数存在する場合


「ツールボックス」 ツールバー 「図形番号」 アイコン 「図表親図形」 をクリックし、リンク元の表示を選択します。



➤ リンク元の図形番号を表示したくない場合

- ① 図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「フィールド」をクリックします。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスの「書式」ボタンをクリックし、「番号の書式」ダイアログボックスを表示します。
- ③ 「親図形番号から開始する」のチェックを外します。



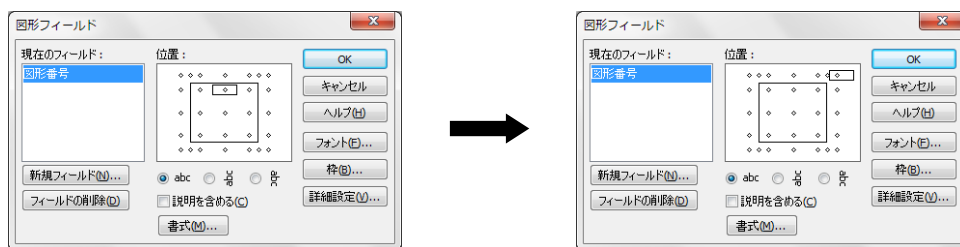
 この番号書式を初期設定にしたい場合は、「これをデフォルトの番号書式にする」にチェックを入れます。変更以降に追加した図形の書式に設定内容が反映されます。


2) 図形番号の表示位置の変更

図形番号は、初期設定では図形の上部中央に表示されますが、表示位置を変更することができます。

- ① 図形番号の表示位置を変更したい図形を選択し、「ツールボックス」 ツールバー 「図形番号」 - 「番号書式」 をクリックします。または、対象の図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「フィールド」 をクリックします。

② 「図形フィールド」ダイアログボックスが表示されます。番号を表示したい位置をクリックします。



 図形番号の「フォント」や「書式設定」も変更できます。

2.2 図形番号の付け直し

図形番号を指定した開始番号から順に並べ替えることができます。

1) 自動番号付け直し

図形の番号を自動的に付け直します。

- ① 「ツールボックス」 ツールバー「図形番号」アイコン「自動番号付け」をクリックします。
- ② 「自動番号付け直し」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 「番号の付け直し」の対象、「開始番号」、「番号付け方法」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



2) 手動番号付け直し

任意の図形に意図した番号を付けます。

- ① 「ツールボックス」 ツールバー「図形番号」アイコン「手動番号付け直し」をクリックします。
- ② 「番号の付け直し」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 「番号の付け直し」ダイアログボックスに番号を入力し、その番号を付与する図形をクリックします。
- ④ 付与する番号が既に他の図形に存在する場合、自動的に重複しない番号にずれて採番されます。
- ⑤ 番号を付与し終えたら「完了」ボタンをクリックします。

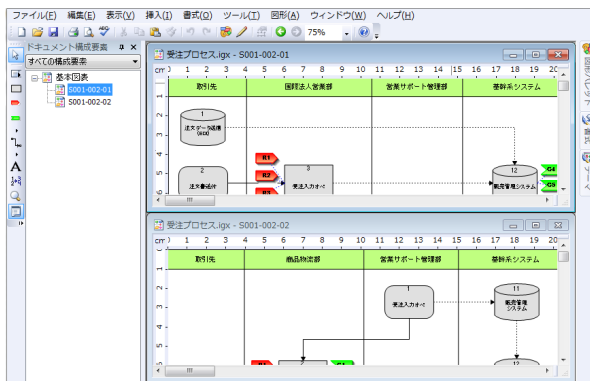


第4章 画面を操作する

1. ウィンドウ操作

1.1 複数図表の表示

「ウィンドウ」メニューには、「左右に並べて表示」、「上下に並べて表示」、「重ねて表示」などの表示形式があります。これらの表示形式を選択すると同じウィンドウに複数の図表を同時に表示することができます。

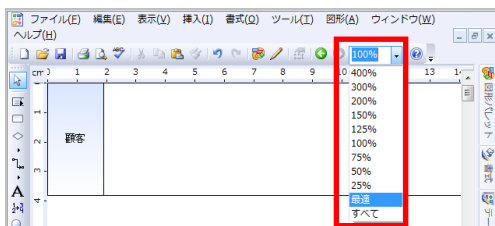


1.2 画面表示の拡大と縮小

図表画面の表示は拡大／縮小することができます。表示のパーセント値を変更しても、印刷される図表のサイズは変わりません。

1) 表示倍率の変更

「ズームコントロール」ドロップダウンリストより、表示倍率を変更することができます。



◆ 倍率を指定

表示倍率は5%～1600%の間で任意に設定できます。

「ズームコントロール」ドロップダウンリストで倍率を選択するか、任意の値を入力して「Enter」キーを押します。拡大（または縮小）表示したいオブジェクトがある場合、オブジェクトを選択してから上記の操作を行なうと、選択したオブジェクトを中心に指定した倍率で表示されます。

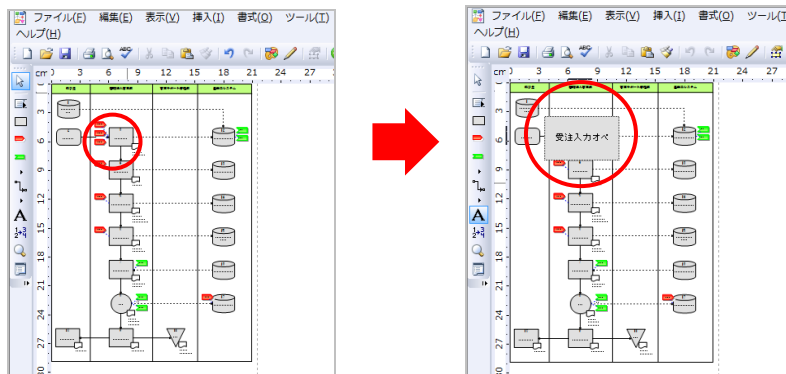
◆ 「最適」

オブジェクトを選択し、「最適」を選択すると、選択したオブジェクトが画面中央に100%の倍率で表示されます。100%の表示倍率では画面に収まらない場合は、自動的にスケールされます。

オブジェクトを選択せずに「最適」の操作をすると、図表全体が画面に収まるように表示されます。

◆ 「すべて」

図表全体が画面に収まるように表示されます。「すべて」の操作は、オブジェクトが選択されていても選択されていなくても、表示結果は同じです。



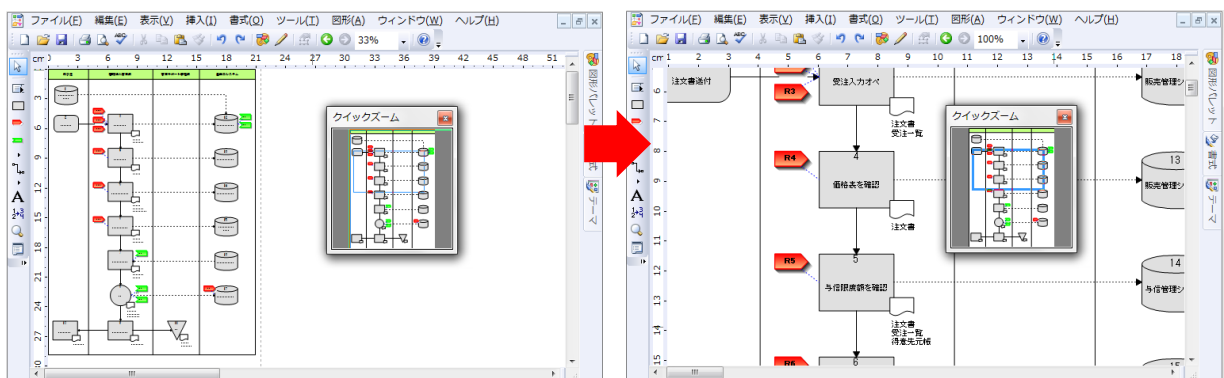
- 表示倍率を小さく指定して表示している時は、入力されているテキストも小さく表示されます。図形などを選択してテキストの編集を開始すると、入力フィールドが拡大して表示され、入力を補助します。表示倍率が 50%以下のときに有効です。

2) クイックズーム

クイックズームは、クイックズームウィンドウのパン機能（表示位置の左右・上下への移動）を使って、ズームインビュー（青色の枠）で選択範囲した部分を拡大または縮小表示します。

「表示」メニュー「クイックズーム」をクリックし、クイックズームウィンドウを表示します。

虫眼鏡のマウスポインタで範囲を指定すると、選択範囲を画面全体に表示します。選択範囲のサイズによって拡大または縮小の範囲が決まります。青色の枠を再描画してズームインビューを変更するまで、表示倍率は一定に保たれます。



3) 全画面表示

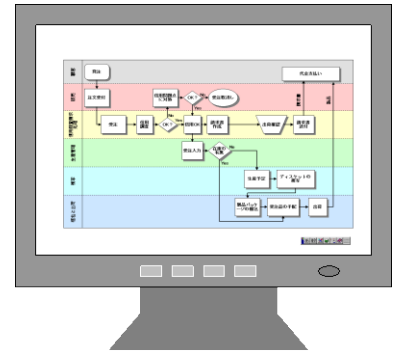
図表を画面全体に表示し、図表に注釈線を引くことができます。（下図イメージ画）


プレゼンテーションなどで、プロセス図だけを強調してみせたい時に便利な機能です。

「表示」メニューー「全画面表示」をクリックし、全画面表示にします。

全画面表示には以下の機能があります。

- ・左クリックでドラッグ：赤い線が引けます。
- ・右クリックでドラッグ：緑の線が引けます。
- ・左右両方クリックでドラッグ：黄色の線が引けます。
- ・「Delete」キーまたは「Backspace」キー：図表に加えた注釈を削除します。
- ・「Tab」キーまたは「Page Down」キー：次の図表ウィンドウに移動します。
- ・「Shift」+「Tab」キーまたは「Page Up」キー：前の図表ウィンドウに戻ります。
- ・「Esc」キー：元の画面に戻ります。



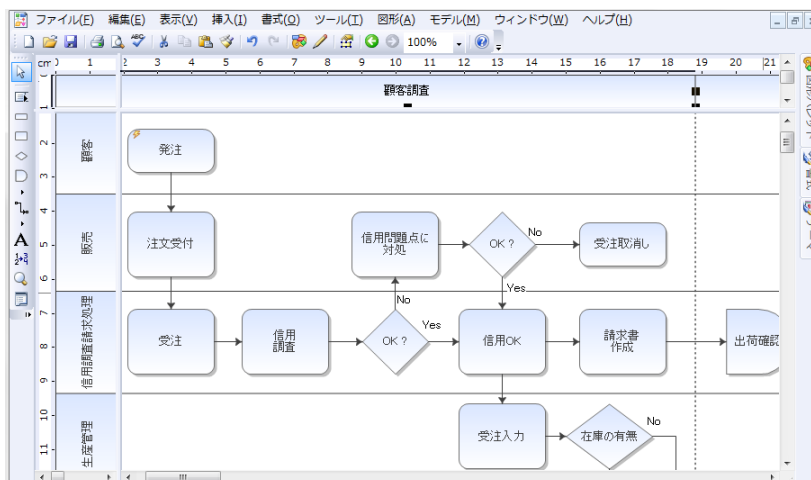
 iGrafx FlowCharter の機能では全画面表示で引いた線は残せませんが、Windows 標準の Print Screen の機能を利用して、クリップボードに全画面表示時の画像をキャプチャーすることができます。

1.3 画面の分割

画面を分割して表示することができます。画面を分割すると、大きな図表を扱っている場合でも図表の右端と左端を同時に確認することができ、図形を配置しやすくなります。また、分割された画面の一つを Swimlane の幅で固定すれば、常に画面内に Swimlane を表示することもできます。

- ① 「ウィンドウ」メニューー「分割」をクリックします。
- ② 画面を縦横に分割するグレーの線が表示されます。Swimlane とフェーズが交差している場所でクリックし、決定します。画面が4分割されます。
- ③ 「ウィンドウ」メニューー「ペインの固定」をクリックします。1つの画面のように表示されます。
- ④ 画面を元に戻す場合は、「ウィンドウ」メニューー「ペインの固定」をクリックし、固定を外します。
- ⑤ 「ウィンドウ」メニューー「分割の解除」をクリックします。

分割バーをウィンドウの外に向かってドラッグ&ドロップする、または、分割バーをダブルクリックしても同じように解除できます。



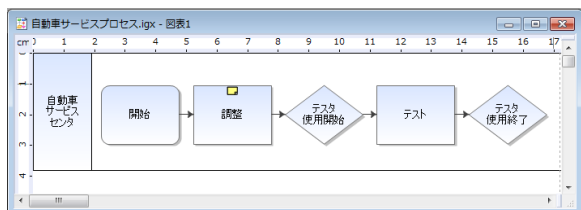
2. 図表の操作

2.1 図表と表形式

図表は表形式で表示することができます。表形式は、プロパティの設定内容を一覧で表示することができるので、設定内容をチェックするのに便利です。

表形式の情報はエクスポートすることができます。表のエクスポートについては P71 をご覧ください。

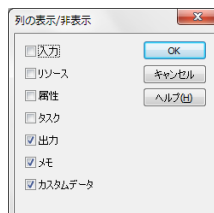
【標準形式で表示】




【表形式で表示】

A	自動車サービスセンタ	出力	メモ
A1	1開始		
A2	2調整		××××に注意する
A3	3テスト使用開始	決定 50	No
A4	4テスト		
A5	5テスト使用終了	決定 50	Yes

- ① 「表示」メニュー「表」をクリックします。
- ② 「表」形式で表示されます。画面上で右クリックし、コンテキストメニューより「列」をクリックします。
- ③ 「列の表示/非表示」ダイアログボックスが表示されます。表示したい列を選択することができます。
表示する列にチェックを付け「OK」ボタンをクリックします。

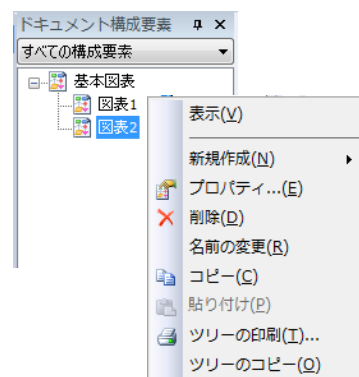


 表形式から業務フローチャートを作成することもできます。「Ctrl」キーを押しながら「Enter」キーを押すと、新しい行(図形)が挿入されます。

2.2 図表の追加

iGrafx FlowCharter では1つのファイルに複数の図表を管理することができます。例えば、同じファイルに新規図表の追加、または既存図表をコピーして追加することができます。また、異なるファイルの図表をコピー&ペーストで追加することもできます。

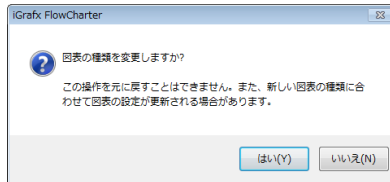
同じファイルに図表を追加する場合は、エクスプローラバーの中で右クリックし、コンテキストメニューを表示します。コンテキストメニューの詳細については「エクスプローラバーの利用」(P22) をご覧ください。



2.3 図表の変換

「基本図表」で作成した図表を、「プロセス」「BPMN 図表」「組織図」に変換します。変換後は、元に戻せません。自由書式で描いた業務フローを「BPMN 図表」に変換した場合、できる限り BPMN の規格に準じた業務フローに自動変換されます。

- ① 「ツール」メニューー「図表の種類を変更」をクリックし、変更したい図表を選択します。
- ② 下記メッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



2.4 図表の表示切替

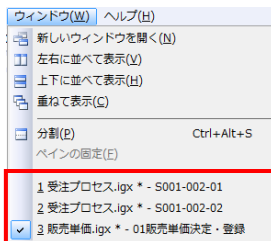
iGrafx FlowCharter では、複数のファイルまたは、図表を同時に開くことができます。「ウィンドウ」メニューより、複数の図表の表示切り替えや、ウィンドウの表示形式を指定することができます。

1) ファイル内の図表の表示切替

エクスプローラバーより、表示したい図表名の上でダブルクリックします。

2) 別ファイルの図表への表示切替

ウィンドウリストには、現在開いているファイルの一覧が表示されます。現在開いている図表には、チェックマークがついています。別のウィンドウに切り替えたい場合には、開きたい図表を選択します。



iGrafx FlowCharter では、表示した図表の順番を記憶しています。ツールバーの矢印アイコンを利用すると、表示した順番に前の図表に戻ったり、次の図表に進めたり、簡単にウィンドウを切り替えることができます。



第5章 フローチャートを活用する

1. さまざまな表記機能

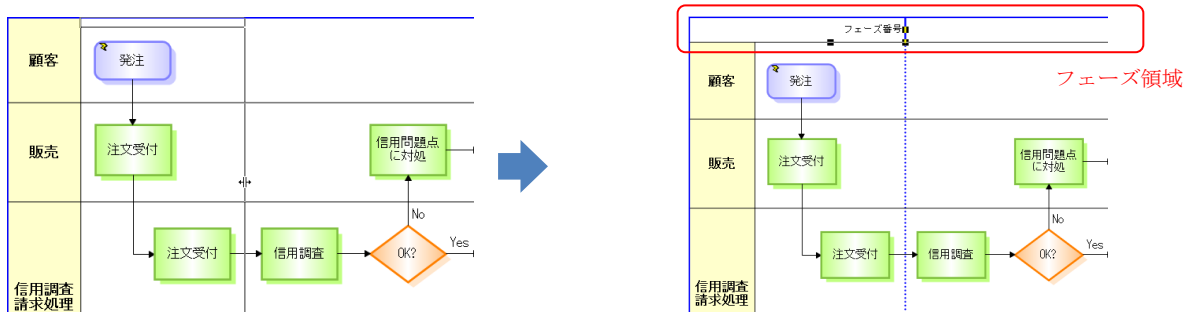
業務フローチャートを組織で管理するのに、より充実した便利な機能を説明します。

1.1 フェーズ

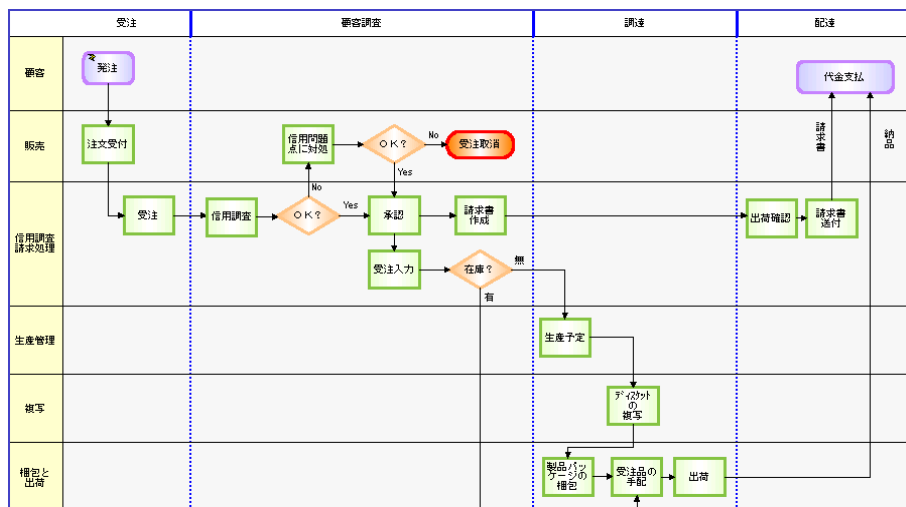
Swimlane を利用している時に限り、Swimlane の区切りと垂直に交わる線をフェーズとして引くことができます。プロセスの段階や区分を表すのに便利です。フェーズの挿入と削除については、業務フローに影響を与えるものではありません。

1) フェーズの挿入

- ① 「挿入」メニュー「フェーズ」をクリックします。Swimlane の枠に垂直な線（まだグレーで確定されていない線）が表示されます。
- ② フェーズを引きたい場所でクリックします。
- ③ 「フェーズ」領域をクリックして「フェーズ名」を変更します。

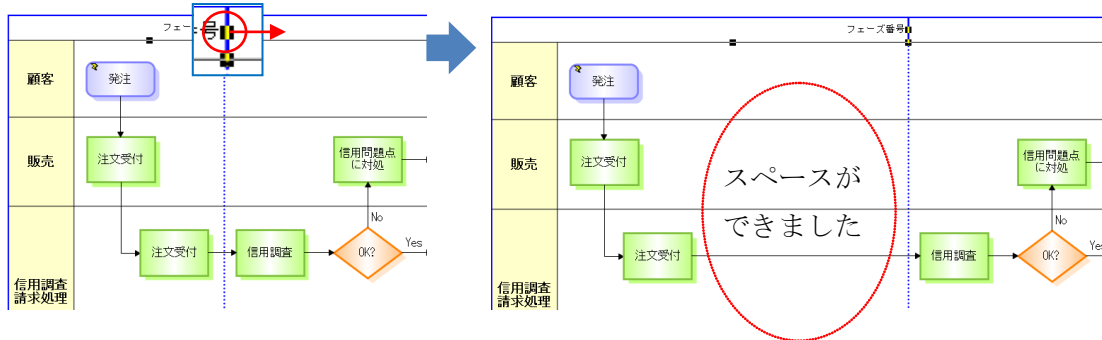


- ④ 複数のフェーズを挿入したい場合には、上記の操作を繰り返します。



2) フェーズの活用

フェーズ領域のハンドルをドラッグすると幅や高さを調整できます。この機能を活用すると業務を追加するスペースを簡単に作ることができます。



3) フェーズの削除

フェーズ領域を選択して「Delete」キーをクリックします。

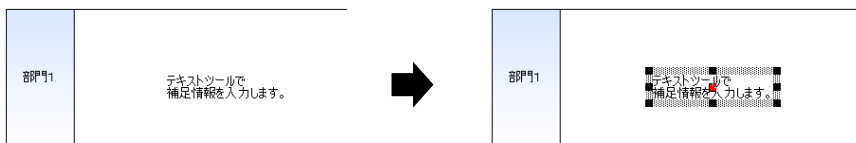
1.2 テキスト

図表にテキストを追加して、補足情報を付けることができます。

1) テキスト入力

テキストブロックは、テキストを入力した領域が自動的にテキストブロックとして作成されます。

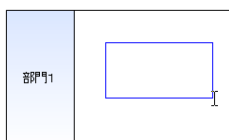
- ① 「ツールボックス」 ツールバーの「A」（テキストツール）をクリックし、作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタが「I」の形になります。
- ② 作業ウィンドウでクリックすると、カーソルが点滅します。テキストを入力すると、入力した文字に合わせてテキストボックスが自動的に拡張されます。
- ③ テキストを入力後、図表の空白部分をクリックするか、「ツールボックス」 ツールバーの「選択」 ツールをクリックして、テキストツール選択を解除します。



◆ 領域を定義したテキスト入力

テキストブロックの領域をあらかじめ定義してからテキストを入力します。

- ① 「ツールボックス」 ツールバーの「A」（テキストツール）をクリックし、作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタが「I」の形になります。
- ② 作業ウィンドウでドラッグすると、テキストボックスの領域が定義されます。テキストボックスの領域を定義するとその範囲で文字入力ができます。後から大きさを調整することも可能です。



2) テキストブロックの移動

テキストブロックは、配置した位置に固定されます。

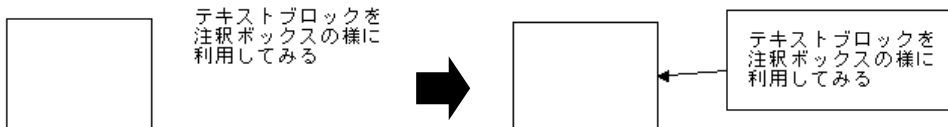
テキストブロックの位置は、テキストブロックを選択しドラッグすると移動することができます。



3) テキストブロックの書式変更

テキストブロックの書式は、図形テキストの書式と同じ方法で設定できます。

コールアウト線や、テキストの枠線の色を設定することにより、注釈図形の様に利用することも可能です。



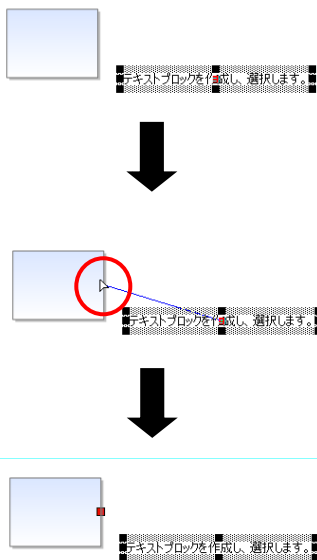
「表示」メニュー「非表示の線」を選択すると、書式を設定せずにテキスト線が表示／非表示と切り替わります。

4) コールアウト線

◆ テキストを図形や接続線に紐付ける

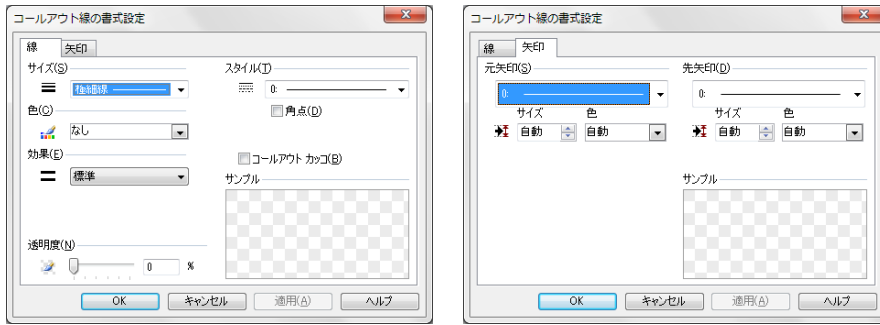
テキストブロックは、「コールアウト線」を使って図形や接続線に紐付けることができます。図形または接続線を移動すると、テキストも一緒に移動し、図形または接続線との相対的な位置関係を保ちます。

- ① テキストブロックを選択します。中央に赤いハンドルが表示されます。
- ② 赤いハンドルにマウスポインタを合わせ、添付したい図形や線までドラッグします。



◆ コールアウト線の書式変更

「書式」メニューー「コールアウトの線」をクリックし、書式を設定します。

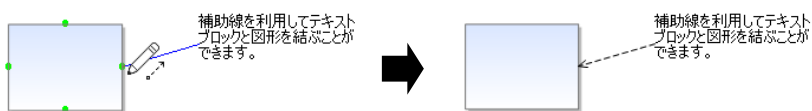


5) 補助線の利用

接続線ツールの「補助線」を利用すると、テキストブロックと図形を簡単に結ぶことができます。

初期設定では「ツールボックス」ツールバーの接続線ツールから補助線を選択することができます。

- ① 補助線を選択します。
- ② テキストブロックから図形にドラッグします。

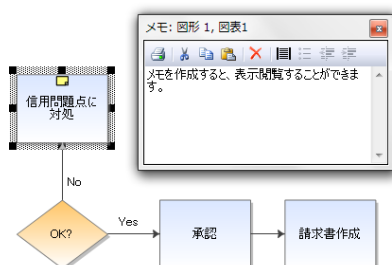



1.3 メモ

図形およびグラフィックにメモを登録することができます。

1) メモの追加と削除

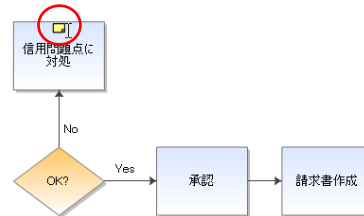
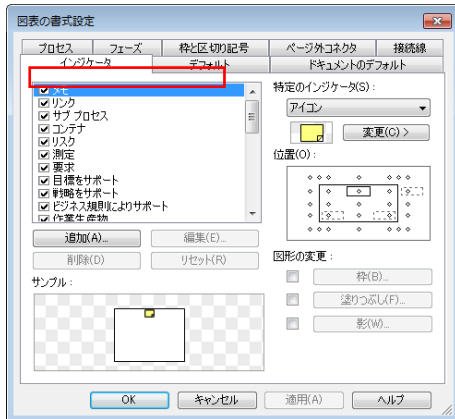
- ① 図形を選択し、「表示」メニューー「メモ」または「F6」ボタンを押します。
- ② 「メモ」ダイアログボックスが開きます。メモを入力すると図形に「メモ」アイコンが表示されます。
「メモ」ダイアログボックスを開き、メモ内容を削除すると「メモ」アイコンは表示されません。



 iGrafx FlowCharter のアドオンツールである SOX+ のポップアップ機能や、BPR+、HACCP クリエータをご利用の場合は、各図形の登録情報がメモに自動転記されるため、メモに直接内容を入力することはできません。

2) メモアイコンの表示位置変更

「書式」メニューー「図表」ー「インジケータ」タブで、「メモ」を選択します。
アイコンや表示位置を変更することができます。



iGrafx FlowCharter のアドオンツールである SOX+ のポップアップ機能や BPR+, HACCP クリエータをご利用の場合、アイコンを表示することはできません。

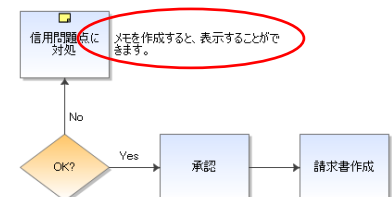
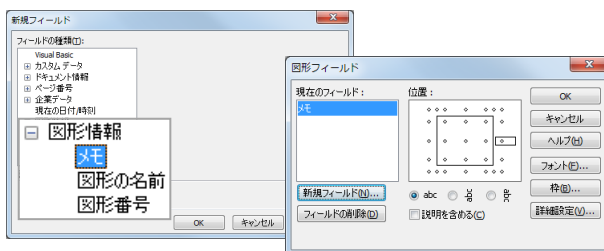
3) メモツールチップ表示

「メモ」アイコンにマウスポインタを近づけるとメモツールチップが表示されます。「表示」メニューー「メモツールチップ」をクリックすると、表示/非表示が切り替わります。



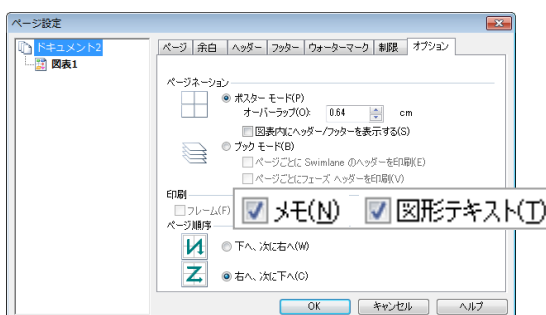
4) メモフィールド表示

フィールド機能を利用して、メモの内容を業務フロー上に固定して表示することができます。
フィールド表示の操作手順は P.67 をご覧ください。



5) メモの印刷

「ファイル」メニューー「ページ設定」ー「オプション」タブを開き、「メモ」「図形テキスト」にチェックを入れます。業務フローを印刷すると、業務フローの後に、図形に登録しているメモ内容が印刷されます。



1.4 リンク

図形に関連する文書をリンク設定することで、リンク先の文書を直接参照することができます。リンクは1つの図形に複数設定できます。

リンク先文書は、図形をダブルクリックまたは図形を右クリックしてコンテキストメニューよりリンク先を選択することによって、簡単に開くことができます。

1) リンク設定共通操作

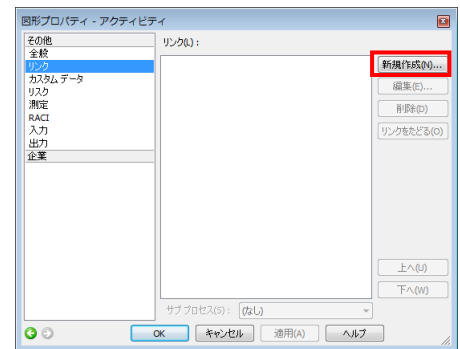
リンクの設定方法は、リンク先ファイルによって異なります。ここでは共通の操作を説明します。

◆ リンク設定画面を開く

図形を選択し、「挿入」メニュー→「リンク」をクリックします。

または、図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。

「プロパティ」画面が表示され、画面左側の「カテゴリ」から「リンク」をクリックし、「新規作成」ボタンをクリックします。



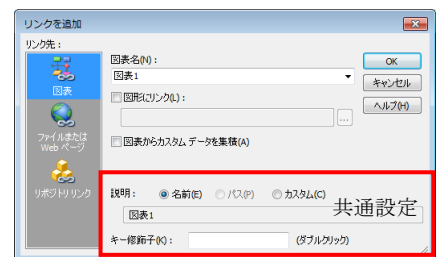
◆ リンク参照の名称設定

リンク図形を右クリックした時にコンテキストメニューに表示される名称を設定します。

「名前」: 図表名やファイル名が自動的に表示されます。

「パス」: リンク先が「ファイルまたは Web ページ」の場合、ファイルのパスが自動的に表示されます。

「カスタム」: リンク先名称を自由入力できます。

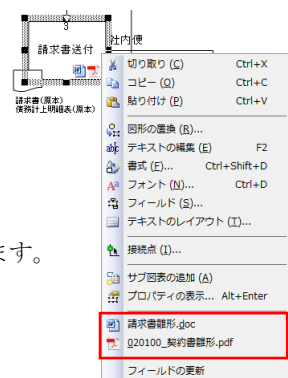


◆ リンク参照方法

図形をダブルクリックするとリンク参照することができます。


複数のリンクを1つの図形に追加する場合は、キー修飾子を入れて区別させることができます。入力可能なキーは Ctrl (コントロール)、Shift (シフト)、Alt (オルト) の3種類です。Ctrl+Shift の様に組み合わせて使うこともできます。

キー修飾子を設定した場合は、キー修飾子を押しながら図形をダブルクリックします。



図形をダブルクリックしたときに起動する動作の優先順位は以下の通りです。

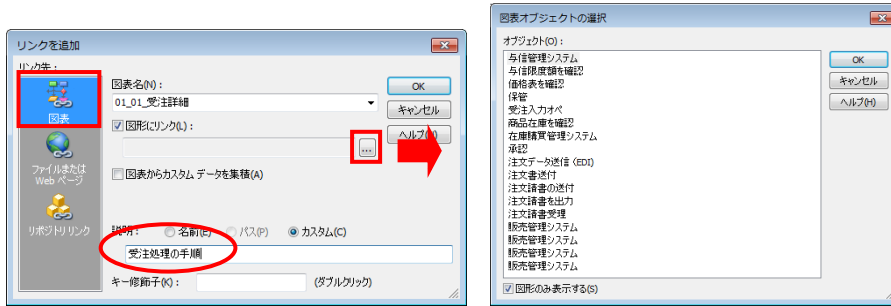
[アドオン専用ダイアログが開く] > [キーの修飾子が設定されていないリンクが開く] > [プロパティが開く]

 iGrafx FlowCharter のアドオンツールである SOX+ や BPR+、HACCP クリエータをご利用の場合、ダブルクリックすると専用のダイアログボックスが開きます。

2) 同じファイル内のリンク

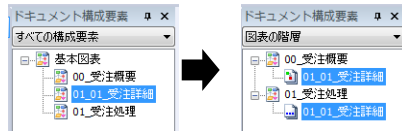
同じファイル内の別図表にリンクします。

- ① 「リンクを追加」ダイアログボックスの「図表」をクリックします。
- ② 対象の図表名を選択します。「図形にリンク」にチェックを入れると、特定の図形をリンクできます。



◆ エクスプローラバーの表示

「すべての構成要素」から「図表の階層」へ変更すると図表間の階層関係がわかりやすい形で表現されます。

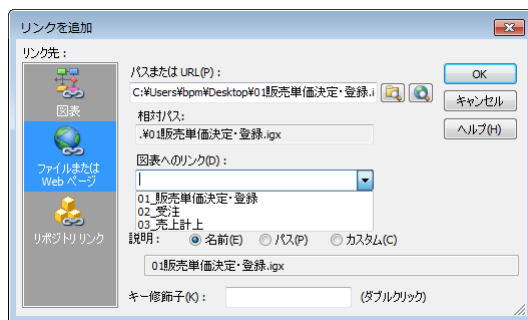



3) 別ファイルのリンク

ファイルまたは Web ページにリンクします。リンク先ファイルの種類は問いません。

- ① 「リンクを追加」ダイアログボックスの「ファイルまたは Web ページ」をクリックします。
- ② 「パスまたは URL」に、リンクするファイルパスを入力します。(ブラウザのファイル ボタンまたは URL ボタンをクリックし、指定することもできます。)

※iGrafx ファイルを指定した場合は、ファイル内の図表を指定してリンクすることができます。



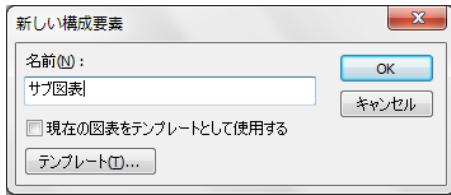
 Excel ファイルの場合は「名前つき範囲」、Word ファイルは「ブックマーク」、PowerPoint ファイルは「スライド番号」、PDF ファイルは「ページ番号」を対象とした、詳細なリンク先の指定ができます。

4) サブ図表の追加

サブ図表を追加することができます。新しく図表が追加され、リンクが張られます。

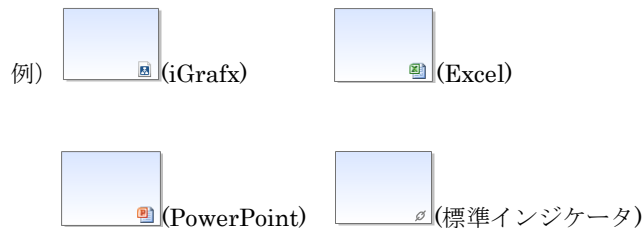
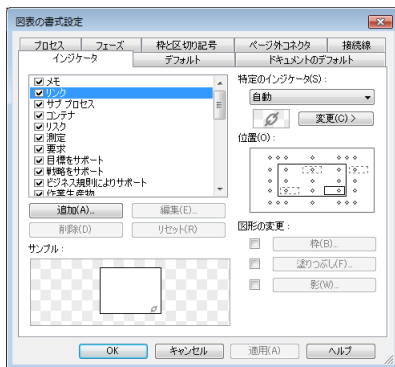
- ① サブ図表を追加したい図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「サブ図表の追加」をクリックします。「新しい構成要素」ダイアログボックスが開きます。

- ② 「名前」に任意の図表名を入力します。テンプレートを指定したい場合は、「現在の図表をテンプレートとして使用する」のチェックを外し「テンプレート」ボタンをクリックすると、「新規作成」ダイアログボックスが開き、テンプレートを指定できます。



5) リンク表示の変更

「書式」メニュー→「図表」→「インジケータ」タブで、リンクのインジケータや表示位置を変更することができます。インジケータは、初期設定では「自動」です。「自動」の場合、リンク先のアプリケーションを示すアイコンが表示されます。複数のリンクが設定されている場合は標準インジケータが表示されます。



- 🔍 「書式」メニュー→「図表」→「インジケータ」タブ→「リンク」を選択し、「変更」ボタンから「複数表示する」をクリックすると、複数リンクを設定した際に、すべてのアプリケーションアイコンを表示させることができます。

1.5 他のアプリケーションを埋め込む

他のアプリケーションファイルを iGrafx 図表内に埋め込むことができます。ファイルの内容を図表内で表示するか、またはアイコンとして表示することができます。

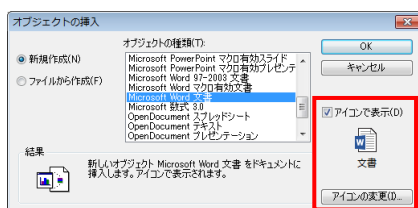
1) 共通操作

◆ オブジェクトの挿入画面を開く

「挿入」メニュー→「OLE オブジェクト」をクリックします。

◆ アイコンで表示する

「アイコンで表示」にチェックを入れると、アイコンとして表示することができます。「アイコンの変更」で、アイコンの種類とタイトルを変更することができます。チェックを入れない場合は、ファイルの内容が表示されます。



2) 新規ファイルの埋め込み

「新規作成」にチェックを入れ、「オブジェクトの種類」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

3) 既存ファイルの埋め込み

「ファイルから作成」にチェックを入れ、「参照」ボタンをクリックし既存ファイルを指定します。「リンク」にチェックを入れた場合は、指定したファイルは埋め込まれずリンクが張られます。「OK」ボタンをクリックします。

1.6 カスタムデータ

カスタムデータとは、ユーザーが任意に図形に作成することができるオリジナルのデータ項目です。カスタムデータを作成すると、すべての図形に共通のデータ項目を持たせて、データや属性値を管理することができます。入力したカスタムデータの値は、図形フィールド機能を利用し、図表上に表示することができます。

カスタムデータは、ドキュメント、図表、Swimlane、フェーズ、図形、テキストオブジェクト、グラフィックオブジェクト、線など、複数のオブジェクトに割り当てることができます。カスタムデータフィールドを利用すると、図表内のオブジェクトにさまざまな情報を関連付けることができます。

1) カスタムデータの作成

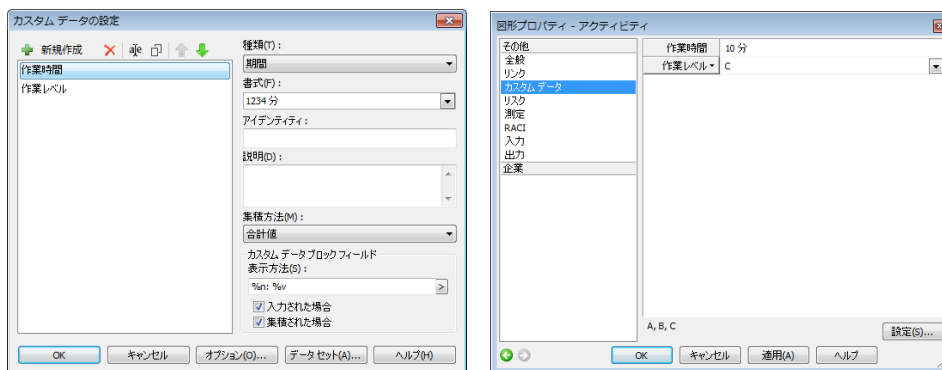
① 「ツール」メニューー「カスタム データの設定」をクリックします。

② 「カスタムデータの設定」ダイアログボックスが表示されます。

「新規作成」ボタンをクリックし、カスタムデータ名、データの種類（テキスト、期間、日付、通貨、%、数値、距離、リスト）、書式、集積方法（カスタムフィールドに表示するデータの集積方法）などを定義します。

③ 「OK」ボタンをクリックします。

図表内のさまざまなオブジェクトにフィールドが作成され、共通の書式でデータを入力することが可能になります。



2) カスタムデータフィールドの一覧表示

カスタムフィールドにデータを登録しておくことによって、データの一覧性が高まります。表形式（P56）にして表示すると、カスタムデータフィールドの内容も一覧で参照することができます。

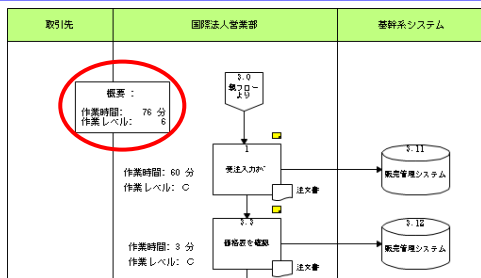
A	国際法人営業部	作業時間	作業レベル
A1	2	受注入力オペ	60分 C
A2	3	価格表を確認	3分 C
A3	4	与信限度額を確認	5分 B
A4	5	商品在庫を確認	2分 C

3) カスタムデータ概要の利用

カスタムフィールドに入力したデータを、設定した集積方法に基づいて計算または集積させることができます。カスタムデータ概要を使用すると、計算または集積の結果を画面上に表示できます。

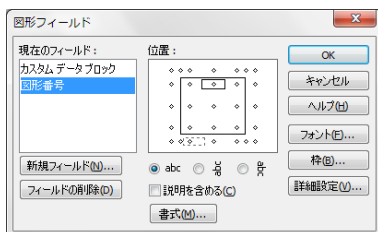
【表示手順】

「挿入」メニュー→「カスタム データ概要」



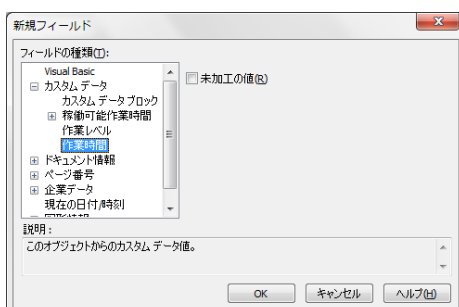
1.7 フィールド

図形の「プロパティ」ダイアログボックスに含まれるデータは、フィールドテキストとして図表に表示することができます。

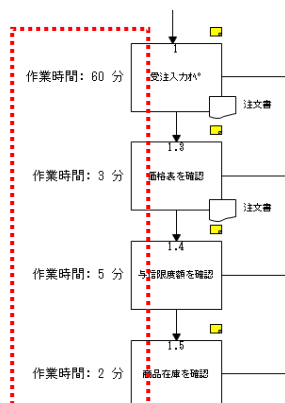
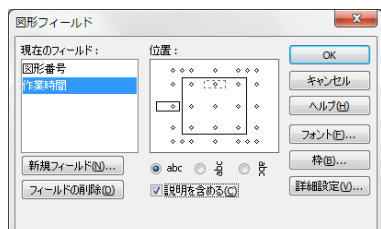


1) 新規フィールドの作成

- ① 図形を選択し、「書式」メニュー→「フィールド」をクリックします。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスが開きます。「新規フィールド」ボタンをクリックします。
- ③ 「新規フィールド」ダイアログボックスが開きます。「フィールドの種類」より表示する項目を選択し「OK」ボタンをクリックします。



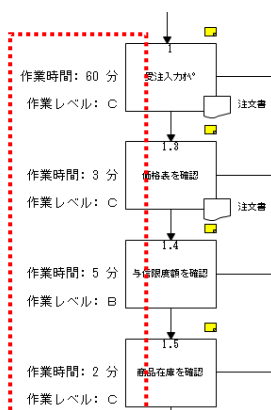
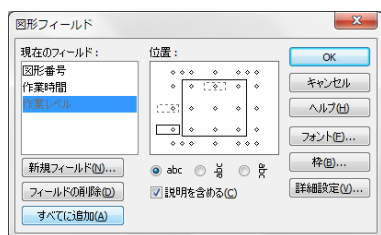
- ④ 「図形フィールド」ダイアログボックスに戻ります。「現在のフィールド」で項目が選択されていることを確認し、表示する位置を指定し「OK」ボタンをクリックします。
- ※「説明を含める」にチェックを入れると、項目名も表示されます。



2) フィールドの追加

特定の図形に設定したフィールドを、別の図形に反映させることができます。

- ① フィールド設定した図形と、その設定を反映させたい図形を選択します。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスを開きます。
共通のフィールドは黒字、一部の図形にのみ設定されているフィールドはグレーで表示されます。
- ③ 設定を反映させたいフィールドを選択し「すべてに追加」ボタンをクリックします。
- ④ 選択したすべての図形に同じフィールドが表示されます。



1.8 レイヤ

透明なシートを重ねるように、各図表レイヤにはさまざまなオブジェクトを配置することができます。

レイヤを使って次の操作を行うことができます。

- 複雑な図表を作成する時に、レイヤを使ってオブジェクトをカテゴリ別に分類して管理する
- 特定のオブジェクトを非表示にした状態で他のオブジェクトを画面に表示および印刷する
- オブジェクトの選択時や変更時の操作性を向上する。また誤って変更してしまうことを事前に防ぐ
- 背景に画像を置いてその上にフローを作成する時に、背景だけ別レイヤに置く

【レイヤ利用事例】

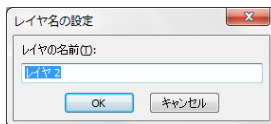
複数の業務フローを作成するときに、共通で利用できる凡例図形を別レイヤに作成した事例です。「凡例」レイヤをロックしておくことにより、フローを作成する場合に触れないようにして利用しています。



1) レイヤの追加

各図表には初期設定で1つのレイヤを持っています。

- ① 「図形」メニュー－「レイヤ」－「レイヤを追加」をクリックします。
- ② 「レイヤ名の設定」ダイアログボックスが開きます。レイヤの名前を入力し「OK」ボタンをクリックします。



2) レイヤの編集


作業ウィンドウ下部のレイヤタブを選択し、レイヤ毎に編集します。

選択したレイヤ以外に描画しているオブジェクトを編集することはできません。

◆ すべてのレイヤを編集する

レイヤタブを右クリックし、コンテキストメニューより「すべてのレイヤを編集」をクリックします。

複数のレイヤを切り替えず、すべてのレイヤに存在しているオブジェクトを一度に編集することができます。

 後方のレイヤに存在するオブジェクトを前方のレイヤに存在するオブジェクトの上に重ねることはできません。

3) オブジェクトのレイヤ移動

選択したオブジェクトを別のレイヤに移動することができます。

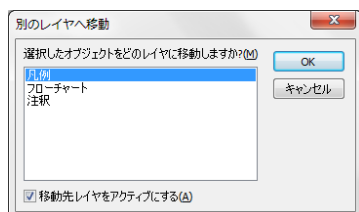
◆ 前後のレイヤに移動する

- ① オブジェクトを選択します。
- ② 「図形」メニュー－「レイヤ」－「1つ下のレイヤへ移動」または「1つ上のレイヤへ移動」をクリックします。

◆ 任意のレイヤに移動する

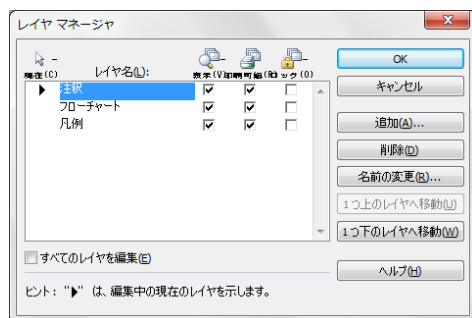
2個以上の離れたレイヤ間を移動する場合は「別レイヤへ移動」を使います。

- ① オブジェクトを選択します。
- ② 「図形」メニューー「レイヤ」ー「別レイヤへ移動」をクリックします。
- ③ 「別レイヤへ移動」ダイアログボックスが表示されます。レイヤを選択し「OK」ボタンをクリックします。



4) レイヤマネージャの利用

レイヤマネージャは、アクティブな図表に定義されたレイヤを一覧表示し、レイヤの管理、操作を行うことができます。



◆ レイヤをロックする

レイヤをロックすると、そのレイヤの表示・非表示の切り替えはできますが、変更、記録、および削除などの操作を行うことはできません。

※現在のレイヤをロックすることはできません。

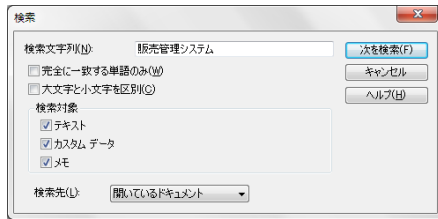
2. その他の機能

2.1 文字の検索と置換

テキスト、カスタムデータ、メモを対象に文字列を検索および別の文字列に置換する事ができます。

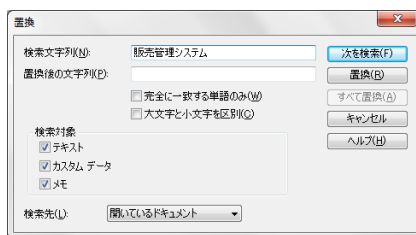
1) 検索

- ① 「編集」メニューー「検索」をクリックします。
- ② 「検索」ダイアログボックスが開きます。「検索文字列」に検索する文字列を入力します。
- ③ 検索条件、検索対象、検索先を選択し「次を検索」ボタンをクリックします。
- ④ 検索結果の値を確認します。



2) 置換

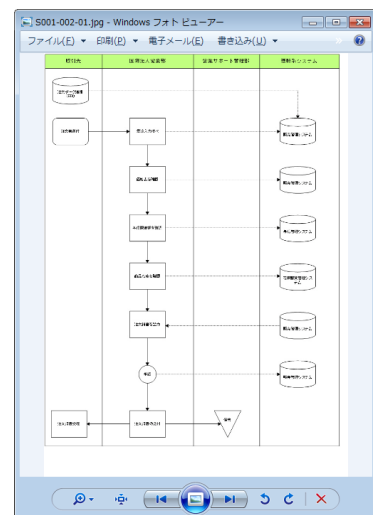
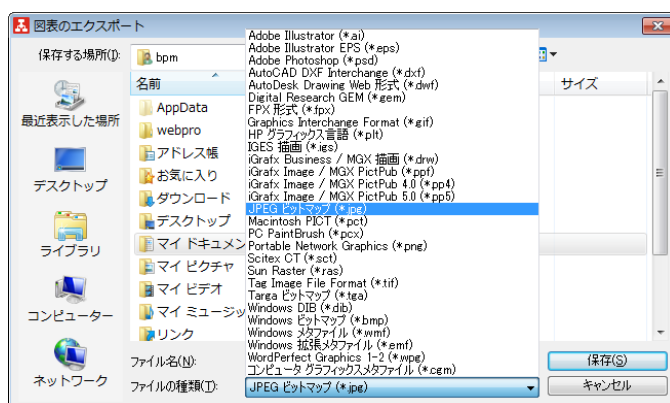
- ① 「編集」メニューー「置換」をクリックします。
- ② 「置換」ダイアログボックスが開きます。「検索文字列」に検索する文字列を入力し、「置換後の文字列」に変更する文字列を入力します。
- ③ 検索条件、検索対象、検索先を選択し「次を検索」ボタンをクリックします。
- ④ 検索結果の値を確認し、置換の場合は「置換」ボタンまたは「すべて置換」ボタンをクリックします。



2.2 図表と表のエクスポート

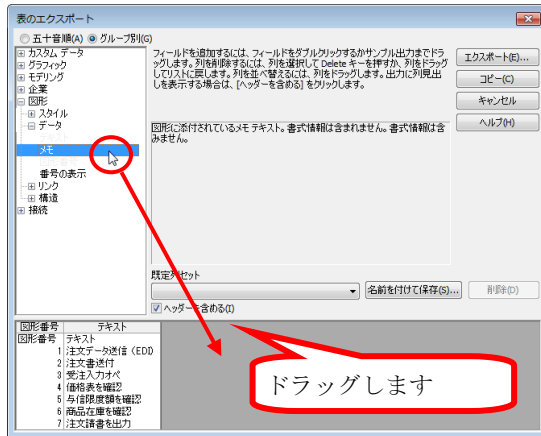
1) 図表のエクスポート

- ① 「ツール」メニューー「図表のエクスポート」をクリックします。
- ② 「図表のエクスポート」ダイアログボックスが開きます。ファイル名、ファイルの種類を指定します。
- ③ 「保存」ボタンをクリックします。



2) 表のエクスポート

- ① 「ツール」メニューー「表のエクスポート」をクリックします。
- ② 左側のリストから、表に出力したいフィールドを選び下部のウィンドウに向かってドラッグするか、あるいはフィールドをダブルクリックします。



- ③ 「エクスポート」ボタンをクリックします。「名前を付けて保存」ダイアログボックスが開き、ファイル保存先とファイル名、ファイルの種類を指定し「保存」ボタンをクリックします。
- ④ 指定した場所にファイルが保存され、選択したフィールドの内容が表に出力されます。

No	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	図形番号	テキスト	メモ										
2	1	注文データ送信 (EDD)	取引先より「注文書」がEDIで送付される。(その他FAX、電話の場合がある)										
3	2	注文書送付	取引先より「注文書」がEDIで送付される。(その他FAX、電話の場合がある)										
4	3	受注入力	「注文書」に基づき販売管理システムに、取引先コード、品目コード等を入力する。(EDIの場合はデータ)										
5	4	価格表を確認	販売管理システムの価格表の商品単価と「注文書」の商品単価が一致していることを確認する。										
6	5	与信限度額を確認	与信管理システムにて、取引先毎の与信限度額が設定されており、与信限度額を超過した受注入力をする										
7	6	商品在庫を確認	「注文書」に記載されている、品目、数量を確認して画面上にて在庫の確認を行う。在庫が無い場合には、										
8	7	注文請書を出力	販売管理システムより「注文請書」を出力する。										
9	8	承認	「業務詳細内容」責任者は「受注請書」と「注文一覧」、「注文書」の商品名・数量・単価・合計金額を照合して承認を行う。										
10	9	注文請書	「業務詳細内容」責任者は「受注請書」を受引先に送付する。										
11	10	注文請書	「業務詳細内容」責任者は「受注請書」を受引先に送付する。										
12	11	保管	「注文書」と承認後の「受注一覧」については、一対でファイリング保管を行う。										
13	12	販売管理	「業務詳細内容」販売管理システムに取引先コード、品目コードなどのデータが登録される。(EDIの場合は受信)										
14	13	販売管理	「業務詳細内容」販売管理システムの価格表マスタの商品単価が表示される。										
15	14	与信管理	「業務詳細内容」与信管理システムにて、取引先毎の与信限度額が設定されており、与信限度額を超過した受注入力をする										
16	15	在庫購買	「業務詳細内容」注文書に記載されている品目を在庫購買管理システムに入力すると、引き当て在庫分を引いた在庫量がこ										

2.3 データのインポート

既存のデータベースファイルのデータを iGrafx FlowCharter にインポートすることができます。

また、あらかじめ図表にカスタムデータを作成してインポートすると、データベースファイル内のフィールドをカスタムデータとしてインポートすることができます。

インポートできるファイルの種類は、以下の通りです。

- dBase ファイル (*.dbf)
- Microsoft Office Excel ファイル (*.xls)
- Microsoft Office Access ファイルのテーブル (*.mdb, *.accdb)

以下の手順は、Microsoft Office Excel の場合で説明します。他のファイル形式でも、ほぼ同様の操作手順です。

▼ インポートする Excel ファイル例

No	A	B	C	D	E	F
1		業務名	業務内容			
2	1	注文データ送信 (EDI)	取引先より「注文書」がEDIで送付される。(その他FAX、電話の場合がある)			
3	2	注文書送付	取引先より「注文書」がEDIで送付される。(その他FAX、電話の場合がある)			
4	3	受注入力	「注文書」に基づき販売管理システムに、取引先コード、品目コード等を入力する。(EDIの場合はデータ) 受注データから「受注一覧」を出力する。			
5	4	価格表を確認	販売管理システムの価格表の商品単価と「注文書」の商品単価が一致していることを確認する。			
6	5	与信限度額を確認	与信管理システムにて、取引先毎の与信限度額が設定されており、与信限度額を超過した受注入力をするエラーにより入力できない。与信限度マスタの設定については、与信管理部門が管轄している。			
7	6	商品在庫を確認	「注文書」に記載されている、品目、数量を確認して画面上にて在庫の確認を行う。在庫が無い場合には、商品部門に問合せを行う。			
8	7	注文請書を出力	販売管理システムより「注文請書」を出力する。			

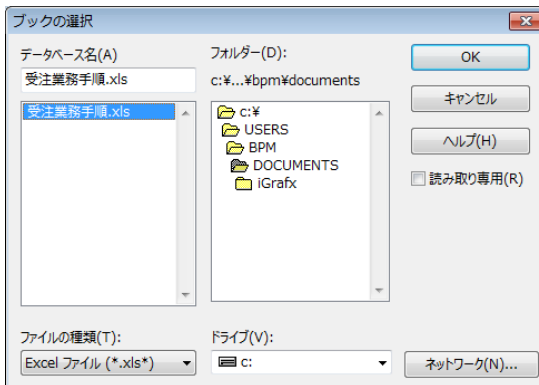
- ① iGrafx テンプレートを利用して、新規ファイルまたは新規図表を作成します。必要に応じて、Swimlane を追加します。
- ② 「表示」メニューー「表」をクリックし、表ビューに切り替えます。予めインポートするデータ数の行を、「Ctrl」 + 「Enter」キーで追加します。

※標準ビューのまま、インポートするデータ数の図形を追加しても構いません。

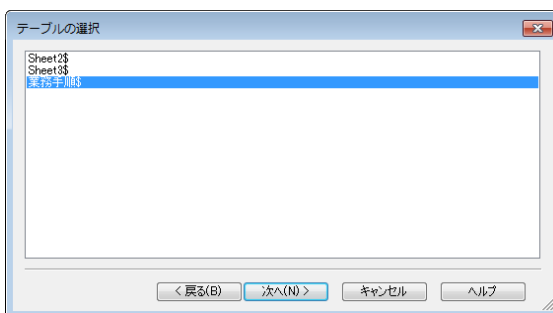
※行数がデータ数に満たないとすべてのデータがインポートされませんので、多めに行を追加しておくことをお勧めします。

A	営業部	出力				
A1	1					<input type="checkbox"/>
A2	2					<input type="checkbox"/>
A3	3					<input type="checkbox"/>
A4	4					<input type="checkbox"/>
A5	5					<input type="checkbox"/>
A6	6					<input type="checkbox"/>

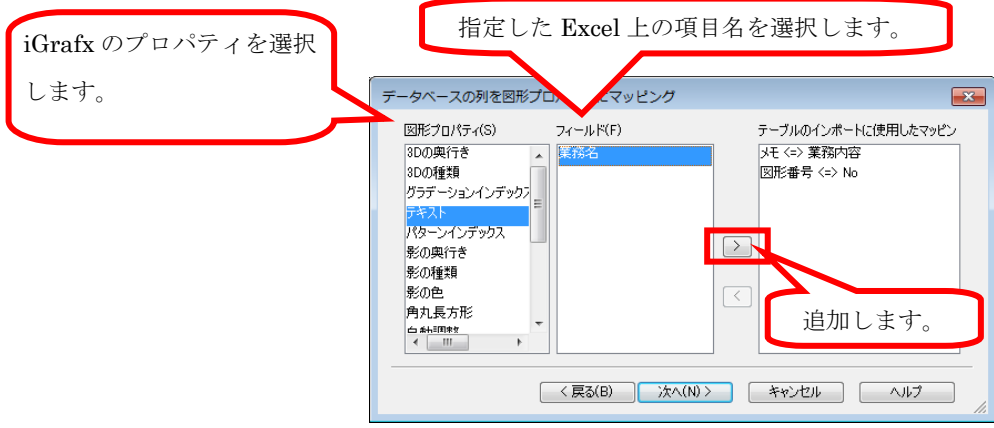
- ③ 「ツール」メニューー「データベースのインポート」をクリックします。
- ④ 「Excel Files」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
- ⑤ 「ブックの選択」ダイアログボックスが開きます。「フォルダ」「データベース名」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- ⑥ 「テーブルの選択」ダイアログボックスが表示されます。「シート名」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑦ 「データベースの列を図形プロパティにマッピング」ダイアログボックスが表示されます。「図形プロパティ」と「フィールド」をそれぞれ選択し、「追加」ボタンでマッピングします。
 ※「図形プロパティ」のリストには、カスタムデータも表示されます。

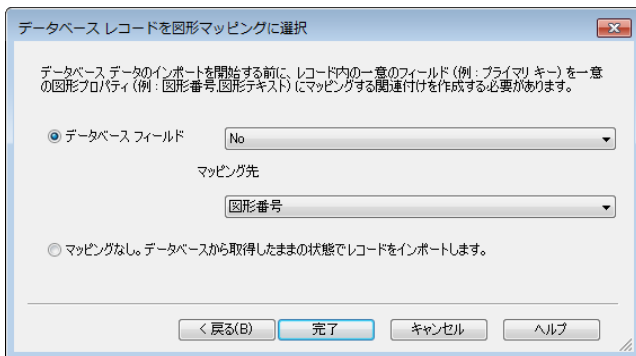


- ⑧ マッピングをすべて設定し、「次へ」ボタンをクリックします。
- ⑨ 「データベース レコードを図形マッピングに選択」ダイアログボックスが表示されます。「データベース フィールド」と「マッピング先」を指定します。または、「マッピングなし」を選択します。「完了」ボタンをクリックします。

※データベースファイルの一意のフィールドと図形の一意のプロパティをマッピングすることにより、関連付けを作成することができます。

例) データベースファイルの「No」 ⇔ 図形フィールドの「図形番号」

マッピングすると、「No」が「1」のレコードは、「図形番号」が「1」の図形にインポートされます。



- ⑩ インポートが完了します。「表示」メニュー「標準」をクリックして標準ビューに切り替え、業務フローチャートを確認します。



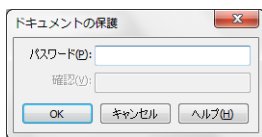
第6章 フローチャートを公開する

作成したフローチャートを公開する前の準備と、公開の手段について説明します。

1. ドキュメントの保護

作成しているドキュメントを編集できないよう保護を設定することができます。

- ① 「ツール」メニューー「ドキュメントの保護」をクリックします。
- ② 「ドキュメントの保護」ダイアログボックスが表示されます。パスワードを2回入力します。
- ③ 「OK」ボタンをクリックします。



2. 印刷

iGrafx FlowCharter は、Windows 標準の印刷ユーティリティとドライバを使用しますが、iGrafx 特有の機能も保有しています。

2.1 ページ設定

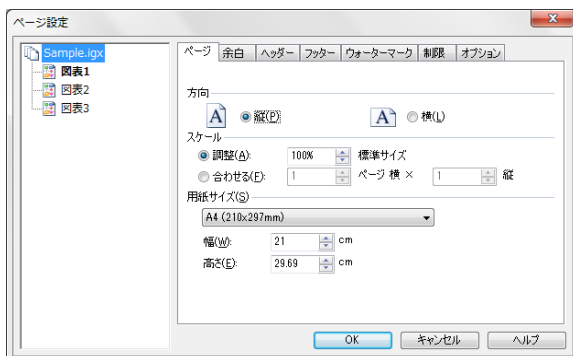
【表示手順】

「ファイル」メニューー「ページ設定」

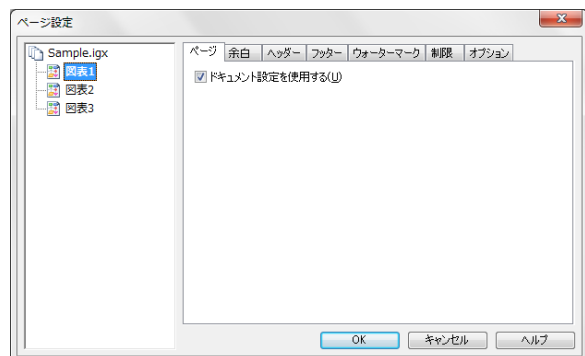
ページ設定をファイルと図表に、それぞれ設定することができます。

ファイル名を選択して行ったページ設定を「ドキュメント設定」といいます。各図表でドキュメント設定の利用を選択できます。

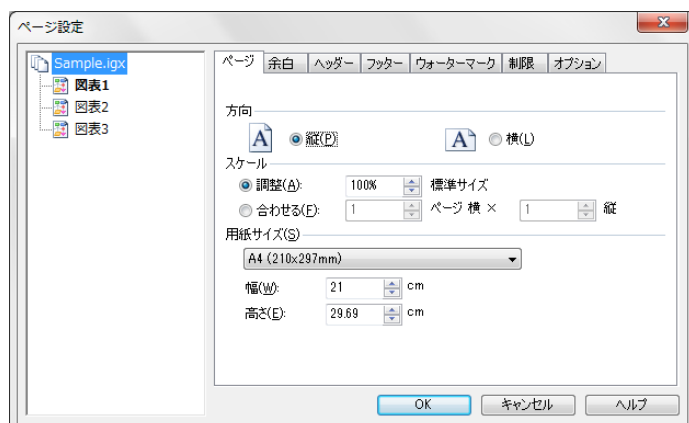
【ドキュメント設定】



【図表設定】



1) ページ



項目	説明
方向	縦 - 垂直方向に印刷します。 横 - 水平方向に印刷します。
スケール	<p>図表の大きさを手動または自動で制御できます。</p> <p>調整：パーセント値を入力して図表を拡大または縮小する割合を指定できます。スケールの初期設定は100%です。</p> <p>合わせる - ページ数を指定して印刷内容（図表）が自動的にスケールされるように設定できます。</p> <p>例) 横に2枚分の幅がある図表を1枚の図表として印刷したい時に、2ページ横×1縦となっている値を、1ページ横×1縦に変更することによって、1ページに縮小されて印刷されます。</p> <p>その逆に大きく何枚かに印刷したい場合にも縦横の枚数を多く指定すれば可能です。</p> <p>ページ数を指定した後に、図表にオブジェクトを追加することにより、図表全体のサイズが大きくなった場合、改ページが自動調整され、縮小して印刷されます。</p>
幅と高さ	図表スペースの上のルーラーガイドで指定した設定に基づいて、ページのカスタム幅と高さをインチまたはセンチメートル単位で指定します。

2) 余白・ヘッダー・フッター

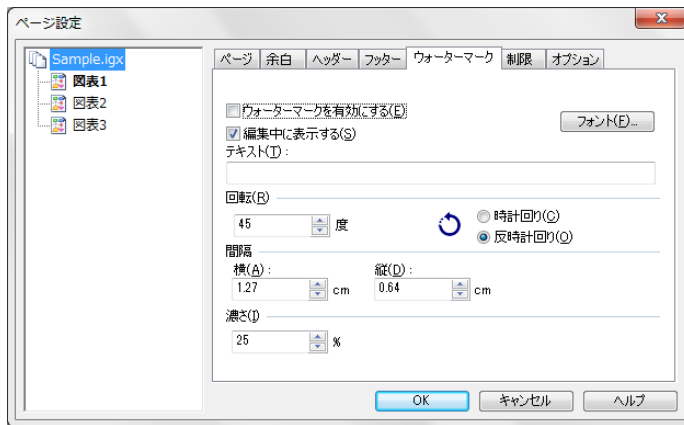
基本的には他のツールと同じような利用方法になります。

SOX+でご利用の場合は、【ヘッダー】、【フッター】のタブで、SOX+特有の機能がありますので、

「SOX+ ユーザーズガイド」をご参照ください。

3) ウォーターマーク

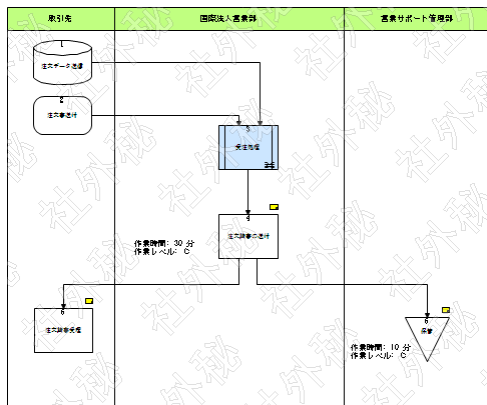
ウォーターマーク（透かし）を入れるかどうかを設定します。



項目	説明
ウォーターマークを有効にする	すべての出力形式でウォーターマークを表示します。印刷プレビューを使用した場合や、[編集中に表示する] が選択されていない場合にも表示します。
編集中に表示する	iGrafx で図表を編集および表示しているときにウォーターマークを表示します。
回転	度 - ウォーターマーク テキストの表示角度を指定します。 テキストの回転が 0 度の場合は、水平に表示されます。 時計回り/反時計回り： 時計回り - テキストを時計回りに指定の角度で傾けます。 反時計回り - テキストを反時計回りに指定の角度で傾けます。
間隔	図表スペースの上のルーラー ガイドで指定した設定に基づいて、テキスト行の間隔をインチまたはセンチメートル単位で設定します。
濃さ	図表の前景にウォーターマークを不透明度の強弱を変えて表示します。 濃さが強くなると、図表オブジェクトの表示が不明瞭になる場合があります。

【ウォーターマークを有効にした場合】

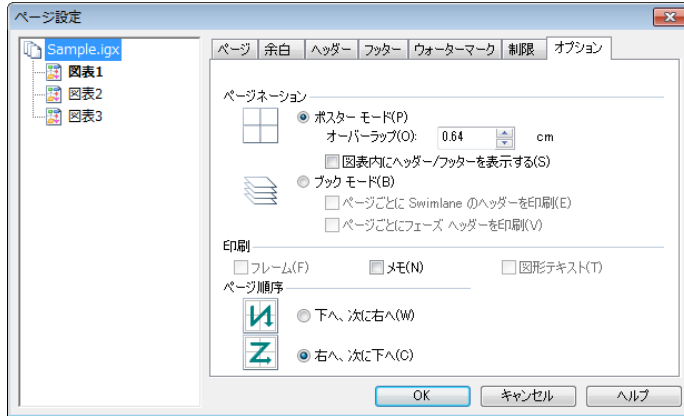
「社外秘」と透かしで表示されています。



4) 制限

ヘッダー・フッター・ウォーターマークを他のユーザーが編集できないように、パスワードを設定します。
図表ごとの設定です。

5) オプション



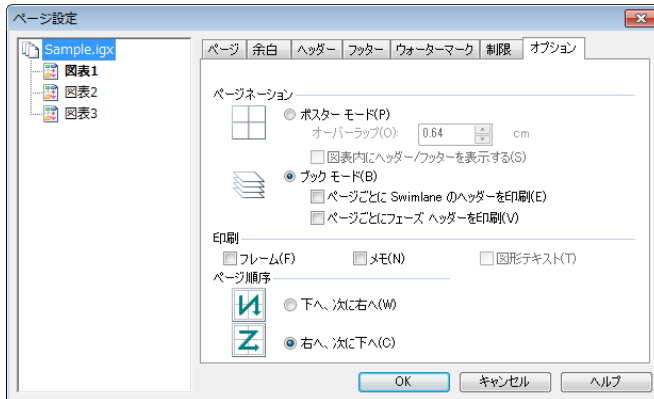
項目	説明
ページネーション	<p>ポスター モード - 大きな複数ページからなる図表を印刷します。 出力した後、複数枚のばらばらなプロセス図を貼りあわせて 1 枚の大きな印刷物にまとめたい時に利用します。オーバーラップは糊代部分になります。</p> <p>[オーバーラップ] - 1 ページあたりのオーバーラップ量を設定します。このオプションは、印刷およびストーリーボード用です。オーバーラップを 1/4 インチ以上に設定すると、印刷した複数の図表ページを貼り合わせるすることができます。</p> <p>[図表内にヘッダー/フッターを表示する] - 選択すると、図表スペースにヘッダーとフッターが表示されます。図表を Web ページとして保存するとき、Java アプレットや SVG にも表示されます。このオプションは、ポスター モードでのみ使用できます。</p> <p>ブック モード - 本として綴じることができるように、複数ページ図表を個別に印刷します。出力した図表をファイルに綴じるときに利用します。 「ページごとに Swimlane のヘッダーを印刷」 「ページごとにフェーズヘッダーを印刷」 にチェックを入れると、ページごとに Swimlane、フェーズを印刷することができます。自動コネクタも併用するとさらに見やすくなります。</p>
印刷	<p>フレーム - ブック モードで図表ページの周囲にフレーム枠を印刷します。 メモ - 図形に付いているメモを印刷します。メモは、図表ページのあとに印刷されます。メモには図形番号が添付されているので、この番号を使用して図表内の図形を参照することができます。メモは、図形番号の順に印刷されます。 図形テキスト - 上記メモにチェックを入れると使用できる機能です。メモが付いている図形のテキスト内容が印刷されます。</p>
ページ順序	<p>下へ、次に右へ - 左側の上から下へと印刷し、そのあと右側へ移動するといった順序で印刷します。 右へ、次に下へ - 上側の左から右へと印刷し、そのあと下側へ移動するといった順序で印刷します。</p>

2.2 マスターページの使用

マスターページは、作図情報とは別に印刷時だけ反映する情報を設定できる便利な機能です。マスターページに設定した情報は、印刷または印刷プレビューをした時に、図表の各ページに表示されます。

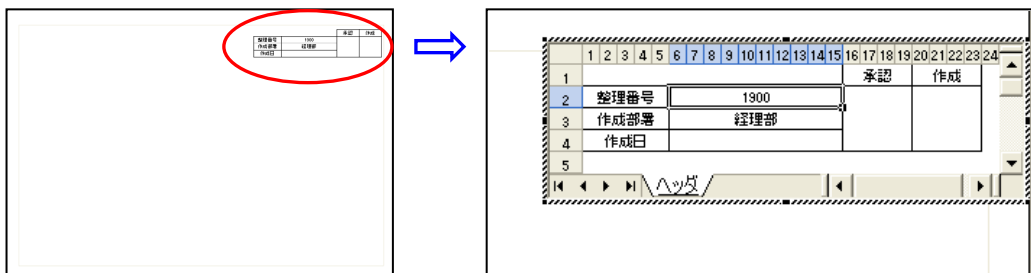
マスターページは、図表のページ設定が「ブック モード」の場合に利用できます。

- ① 「ファイル」メニューー「ページ設定」をクリックします。
- ② 「オプション」タブをクリックし、「ブック モード」をクリックします。



- ③ 「表示」メニューー「マスター ページ」を開き、要素を追加します。

マスターページには、図形、グラフィックの配置や、テキストツールを利用して様々な要素を追加することが可能です。また、「挿入」メニューー「OLE オブジェクト」を利用すると、各種オブジェクト形式で要素を追加することができます。下図は、Excel のワークシートを貼り付けた事例です。



- 🔍 マスター ページ上の要素は、「印刷プレビュー」でのみ表示されます。
「印刷プレビュー」で要素の配置場所を確認し、調整します。

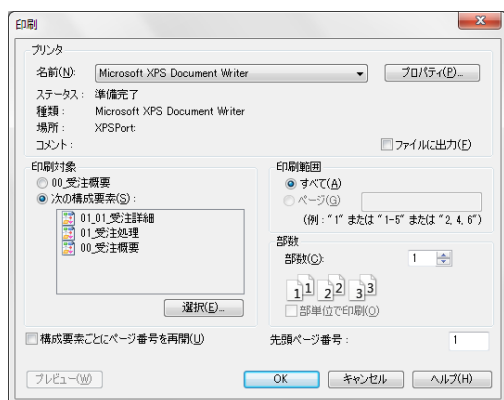
2.3 印刷対象の選択

同じファイルに複数の図表が存在する場合、印刷対象を選択することができます。

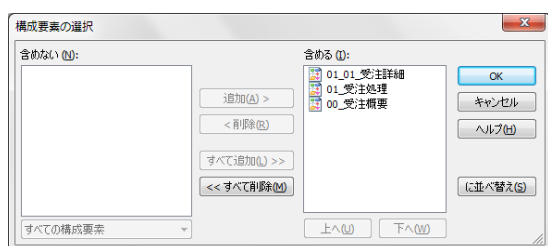
【表示手順】

「ファイル」メニューー「印刷」

- ① 印刷対象枠には、現在、作業中の構成要素が印刷対象として初期表示されます。
他の構成要素を印刷する場合は、「次の構成要素」をクリックし、「選択」ボタンをクリックします。



- ② 「構成要素の選択」ダイアログボックスが開きます。すべての構成要素が「含める」の枠の中に表示されています。印刷したくない要素があるときは印刷しない構成要素を選択して「削除」ボタンをクリックします。

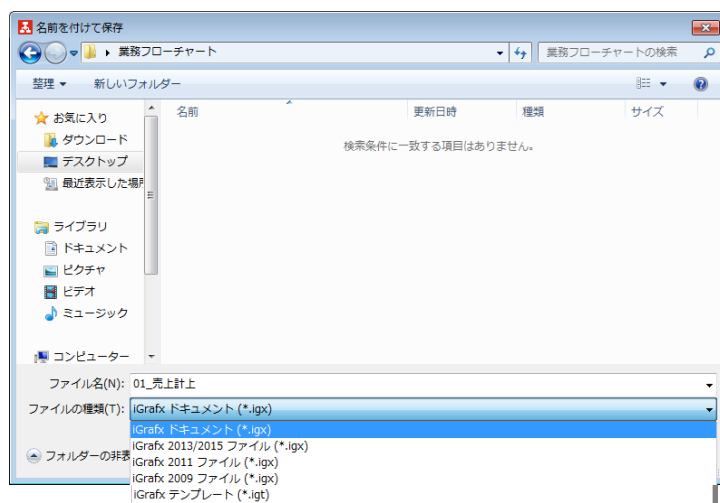


3. 保存

保存メニューには、「iGrafx 形式」での保存と「他のファイル形式」での保存があります。その他に、異常終了から復帰するために、一定間隔でファイルの自己保存が行われています。

3.1 iGrafx 形式

「ファイル」メニューー「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックし、iGrafx 形式で保存します。バージョンの古いファイルを保存する場合、「上書き保存」を選択しても「名前を付けて保存」ダイアログボックスが開きます。現在のバージョンで保存する場合は、「iGrafx ドキュメント (*.igx)」を選択して保存します。



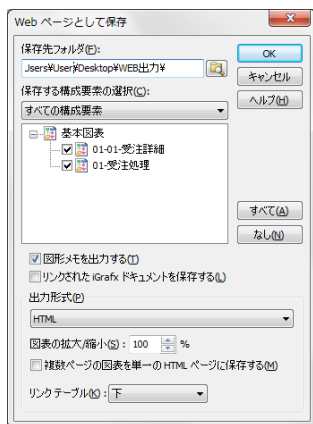
3.2 他のファイル形式

他のファイル形式で保存すると、iGrafx FlowCharter をインストールしていないパソコンでも iGrafx FlowCharter で作成したドキュメントを閲覧することができます。他のファイル形式へは、印刷プレビューに表示された状態のイメージを貼り付けます。印刷プレビューで状態を確認し調整してから出力します。

1) Web 形式

Web 形式で出力します。

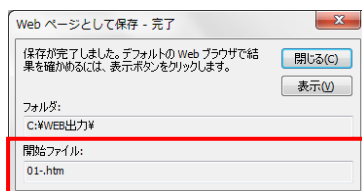
- ① 「ファイル」メニュー－「他のファイル形式に出力」－「Web ページ」をクリックします。
- ② 「Web ページとして保存」ダイアログボックスは、現在表示されている図表にのみチェックがついて、表示されます。保存する構成要素をチェックし、出力形式を「HTML」「Java アプレット」「SVG」より選択します。「OK」ボタンをクリックします。



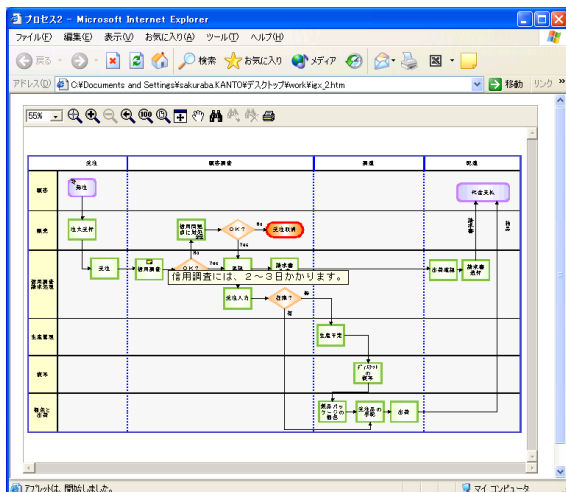
出力形式	説明
HTML	HTML ページで表示できる PNG 圧縮ビットマップとして図表を出力します。 「図形メモを出力する」をチェックすると、メモに入力した内容が図表の下に脚注のように保存されます。リンクがない場合は、ツールチップとして保存されます。
Java アプレット	Java Applet に出力します。 「図形メモを出力する」をチェックすると、メモに入力した内容がツールチップとして保存されます。 ※この形式を使用する場合、ユーザーの Web ブラウザに Java をインストールする必要があります。
SVG	XML ベースの出力形式に出力します。 ※この形式を使用する場合、Adobe SVG Viewer をインストールする必要があります。

- ③ 「Web ページとして保存－完了」ダイアログボックスが表示されます。「表示」ボタンをクリックします。「フォルダ」には複数のファイルが格納されます。図表名を、拡張子 (*.htm) ファイルとして保存しますが、図表名を日本語で表記している場合、日本語名はなしの状態に命名されます。

例) 図表名が「01_受注処理」の場合、「01_.htm」となります。



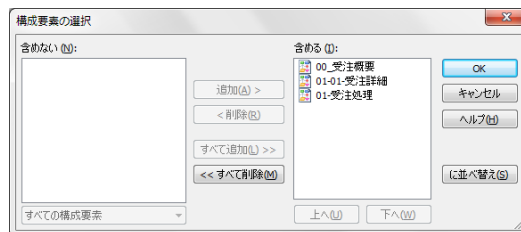
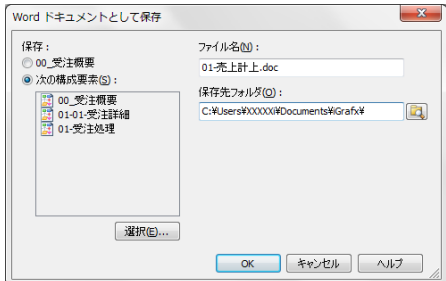
- ④ 「表示」 ボタンをクリックします。



2) Word 形式

Word 形式で出力します。

- ① 「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「Word ドキュメント」をクリックします。
- ② 「Word ドキュメントとして保存」ダイアログボックスが表示されます。保存する構成要素、ファイル名、保存先フォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。
他の構成要素を一緒に保存する場合は、「次の構成要素」をチェックし、「選択」ボタンをクリックします。



- ③ 「新しいドキュメントを開きますか？」というメッセージが表示されます。
「はい」をクリックすると、Word 形式で出力されたドキュメントが開きます。

3) PowerPoint 形式

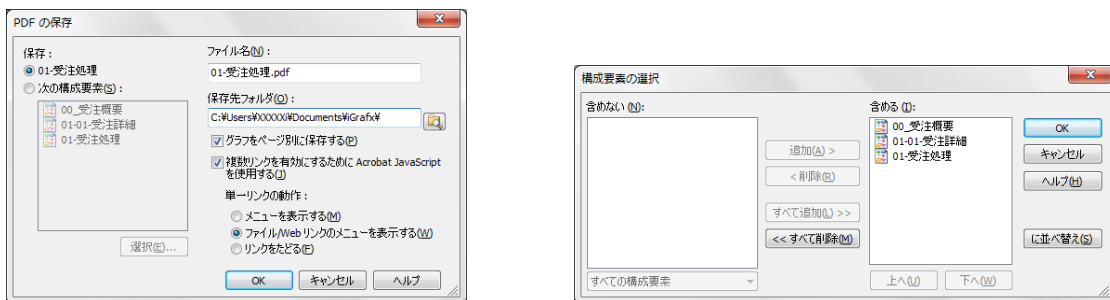
「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「PowerPoint プレゼンテーション」をクリックします。
以降の操作については、「Word 形式で保存する」と同じです。

スライドのタイトルには、「ページ設定」で設定した中央ヘッダーのコンテンツが表示されます。このヘッダーを設定または変更するには、「ファイル」メニューー「ページ設定」ー「ヘッダー」タブをクリックします。「中央セクション」タブに、スライドのタイトルを入力します。

4) PDF 形式

PDF 形式で出力します。PDF ファイルは、iGrafx ファイルから保存されたリンクをナビゲートすることができます。

- ① 「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「PDF ドキュメント」をクリックします。
- ② 「PDF の保存」ダイアログボックスが表示されます。保存する構成要素、ファイル名、保存先フォルダなど指定し、「OK」ボタンをクリックします。
他の構成要素を一緒に保存する場合は、「次の構成要素」をチェックし、「選択」ボタンをクリックします。
- ③ 「構成要素の選択」ダイアログボックスが表示されます。構成要素の出力対象と出力順を設定し「OK」ボタンをクリックします。
- ④ 「PDF の保存」ダイアログボックスに戻ります。「OK」ボタンをクリックします。



- ⑤ 「新しいドキュメントを開きますか?」というメッセージが表示されます。
「はい」をクリックすると、PDF 形式で出力されたドキュメントが開きます。

3.3 Web プロジェクト

iGrafx FlowCharter では、「Web プロジェクト」を作成してファイルの管理ができます。Web プロジェクトは、特定のフォルダ ツリー（「ソース フォルダ」と呼びます）に保存された一連のファイルから構成されます。Web プロジェクトでは、プロジェクトの作成中に指定した場所（「保存先フォルダ」と呼びます）に、選択したファイルを保存することができます。

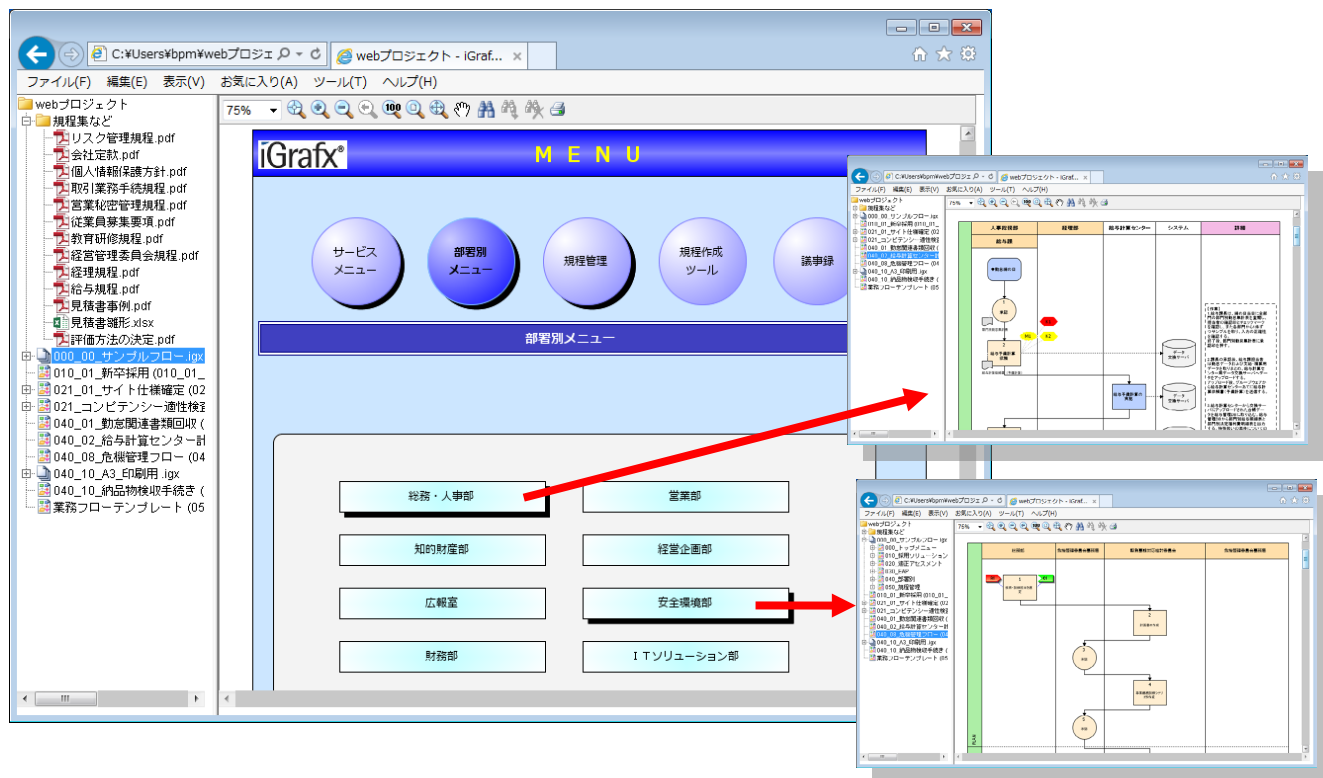
Web プロジェクトは、Web ページ保存機能と比較して、主に以下のような点で優れています。

- リンクの同期ナビゲーション
- ツリー内でのリンクの表示
- リンクしたドキュメント内で構成要素の変更があった場合、ファイル リンクを自動修正

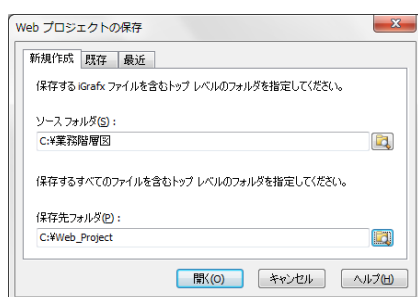
Web プロジェクトを利用する時は、以下の制限事項に注意して使用してください。

- 「Web プロジェクトの保存」は、Java アプレット形式の図表出力のみをサポートします。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の中にある場合、リンクしたファイルは保存フォルダに保存されます。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の外にある場合は、単純にリンク情報が保存されるだけで、「保存先フォルダ」にコピーされることはありません。
- プロジェクトの作成後に、「ソース フォルダ」または「保存先フォルダ」を変更することはできません。変更が必要な場合には、作成したものを一度削除して、再度作成しなおしてください。

- 1つの「保存先フォルダ」につきプロジェクトを1つだけ作成できます。
- 「保存先フォルダ」内のファイルに変更を加えないでください。変更する必要がある場合は、「ソース フォルダ」で変更を加えて、Web プロジェクトを作成しなおします。
- Java 1.7、Microsoft(R) Internet Explorer 9 以上が必要です。

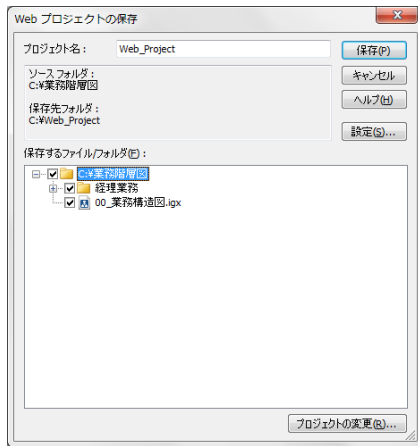


- ① 「ツール」メニューー「Web プロジェクトの保存」をクリックします。
- ② 「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスが開きます。「新規作成」タブで、Web プロジェクトとして保存するフォルダと保存先のフォルダを指定し「開く」ボタンをクリックします。

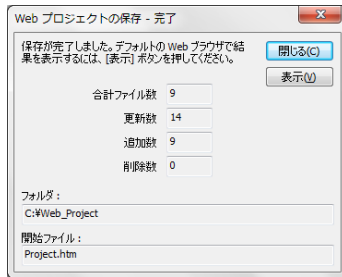



🔗 「新規作成」タブは、プロジェクトを新規作成する場合にのみ表示されます。以降は、次画面の「プロジェクトの変更」ボタンをクリックしてこのタブを有効にします。

- ③ 「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスで、保存するフォルダまたはファイルを選択します。「プロジェクト名」を入力し「保存」ボタンをクリックします。



- ④ 「Web プロジェクトの保存 - 完了」ダイアログボックスが表示されます。結果をブラウザで表示するには、「表示」ボタンをクリックします。



-  Web プロジェクトを公開するには「保存先フォルダ」ごと社内サーバー等に保存してください。フォルダ内にある「Project.htm」から Web 画面を開くことができます。各ユーザーのパソコンに「Project.htm」のショートカットを作成するか、社内ウェブサイト WEB 画面の URL を記載するなどの方法で公開することができます。

第7章 図形集と iGrafx テンプレートの作成

複数の担当で業務フローチャートを作成する場合、統一した業務フローチャートを作成するためには、規約を制定し周知させることが必要です。ここでは規約に準じた業務フローチャートを作成するための準備として、図形集の作成と iGrafx テンプレート（雛型）について説明します。

1. 図形集の作成

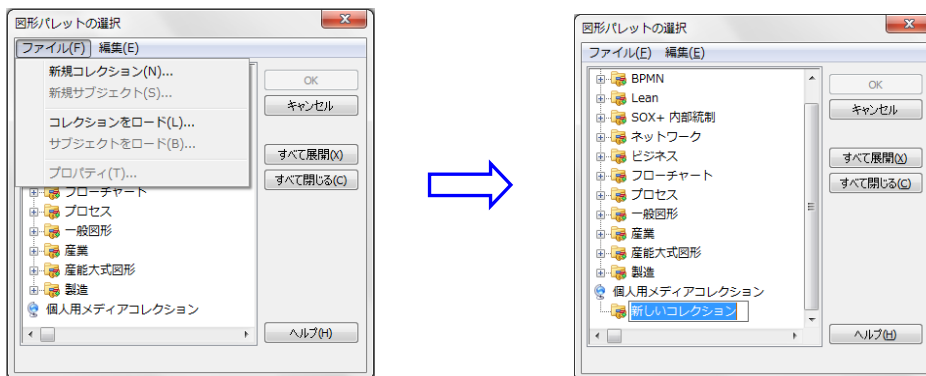
iGrafx FlowCharter には、多くの図形コレクションがあらかじめ用意されていますが、その中に使いたい図形がない時や、別々のサブジェクトに散らばっている時に、個人用メディアコレクション内にオリジナルの図形コレクションを作成し、使いやすいようにカスタマイズすることができます。

1.1 個人用メディアコレクションの作成

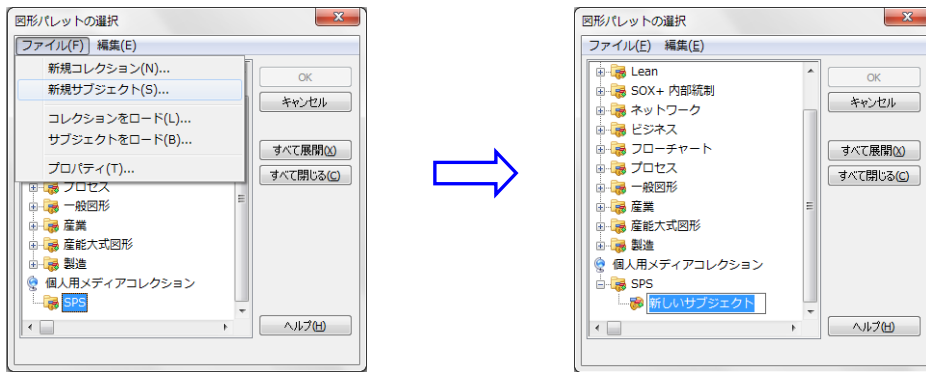
頻繁に使う図形をパブリックメディアコレクションから探す手間を省く、または外部より取り込んだ画像を登録し再利用するなど、利用者固有のニーズに合わせた図形テンプレートを作成することができます。

個人用メディアコレクションの登録は、下記の手順で行います。

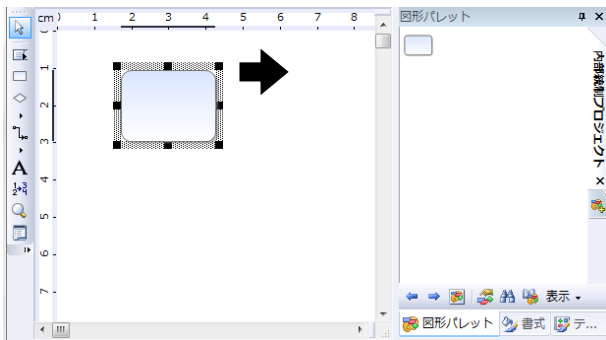
- ① 「F9」 キーを押下、または「図形パレットを開く」アイコンをクリックします。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスが開きます。「ファイル」メニューー「新規コレクション」をクリックします。
- ③ 個人用メディアコレクションに「新しいコレクション」が作成されます。任意の名称を入力します。



- ④ 作成したコレクションを選択し、「ファイル」メニューー「新規サブジェクト」をクリックします。
- ⑤ コレクションの配下に「新しいサブジェクト」が作成されます。任意の名称を入力します。
- ⑥ 作成したサブジェクトを選択し「OK」ボタンをクリックします。

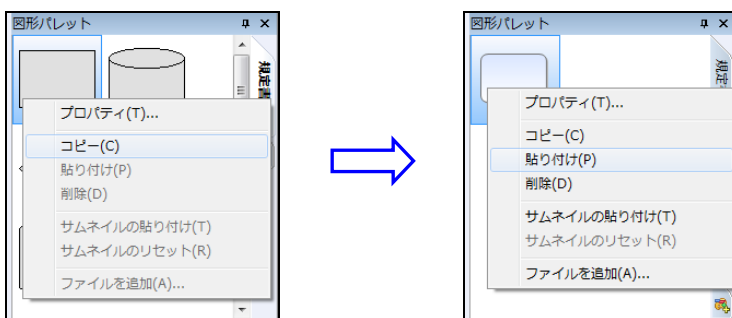



- ⑦ 図形パレットに新規サブジェクトが表示されます。フロー上に登録したい図形がある場合は、対象の図形を新しいサブジェクトへドラッグ&ドロップします。(SOX+やBPR+、HACCP クリエータ用図形の場合は、アドオン機能をオフにしないでドラッグ&ドロップをすると、内部に不正なデータが残りますのでご注意ください。)



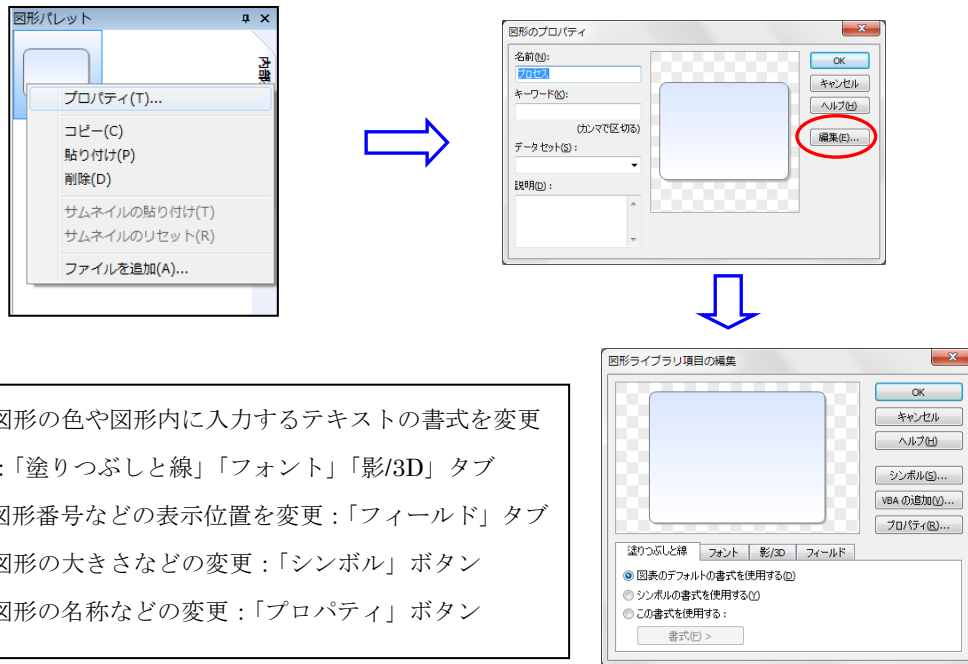
- ⑧ 別のサブジェクト上にある図形をコピーしたい場合は、コピー元の図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「コピー」をクリックします。新しいサブジェクトを表示し、サブジェクト上で右クリックしてコンテキストメニューより「貼り付け」を選択して貼り付けます。

「Shift」キーや「Ctrl」キーを押しながら一度に多くの図形を選択してコピーすることもできます。



 パブリックメディアコレクションのサブジェクトに対して図形を貼り付けることはできません。

- ⑨ 必要に応じて、登録した図形のプロパティを修正することができます。プロパティを変更するには、変更したい図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティ」をクリックします。



- ・ 図形の色や図形内に入力するテキストの書式を変更
：「塗りつぶしと線」「フォント」「影/3D」タブ
- ・ 図形番号などの表示位置を変更：「フィールド」タブ
- ・ 図形の大きさなどの変更：「シンボル」ボタン
- ・ 図形の名称などの変更：「プロパティ」ボタン

1.2 コレクションおよびサブジェクトの共有

作成したコレクション、およびサブジェクトは、別の iGrafx FlowCharter 上で読み込むことができます。

この機能を使って複数のメンバーで業務フローチャートを作成する場合に、特定のサブジェクトをメンバーに配布して、図形の情報を共有することができます。

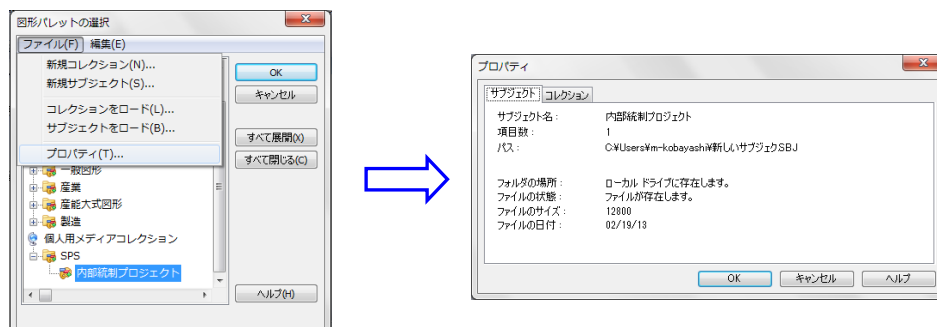
コレクションの拡張子は「ECF」、サブジェクトの拡張子は「SBJ」のファイルとして作成されます。そのファイルを共有したい人に渡し、「図形パレットの選択」ダイアログボックスからロードします。

※SOX+や BPR+、HACCP クリエータをご利用の場合は、コレクションを配布する仕組みがあります。詳細は各製品の管理者向けユーザーズガイドをご参照ください。

◆ コレクション、サブジェクトの保存先を確認する

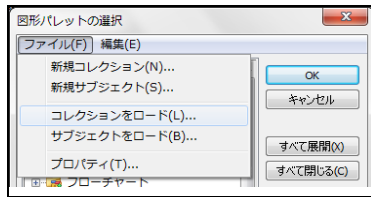
ECF ファイルと SBJ ファイルを下記の保存場所に直接配置すると、iGrafx FlowCharter を起動したときに図形パレットに表示されます。

- ① 「図形パレットの選択」ダイアログボックスで確認したいサブジェクトを選択します。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「プロパティ」をクリックします。



◆ コレクション、サブジェクトをロードする


iGrafx FlowCharter の機能で、図形パレットにコレクションをロードすることができます。



➤ パブリックメディアコレクションへロードする場合

配布するファイルはコレクション（ECF）とサブジェクト（SBJ）の2つのファイルを準備します。


- ① ロードする PC に2つのファイルをコピーします。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「コレクションをロード」を選択し、コピーしたコレクションを指定します。コレクションをロードすると一緒にサブジェクトのロードも行われます。

 iGrafx FlowCharter を閉じるまで有効です。一度閉じるとロードした図形は表示されなくなるため、iGrafx FlowCharter を開くたびにロードする必要があります。

➤ 個人用メディアコレクションへロードする場合

ロードする側の PC にはあらかじめコレクションを作成しておく必要があります。

- ① ロードする PC にサブジェクトファイルをコピーします。
- ② 個人用メディアコレクション内の、作成したコレクションを選択します。
- ③ 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「サブジェクトのロード」を選択し、コピーしたサブジェクトを指定します。

 ロードした情報は維持されます。

2. iGrafx テンプレートの作成

テキストのフォントサイズ、印刷の設定などを iGrafx テンプレートファイルに登録して、より書式の統一された業務フロー文書を作成することができます。図形ライブラリや線ライブラリに登録した情報を、新しいドキュメントに対して反映させる場合も iGrafx テンプレートを作成します。

2.1 iGrafx テンプレートに定義する項目

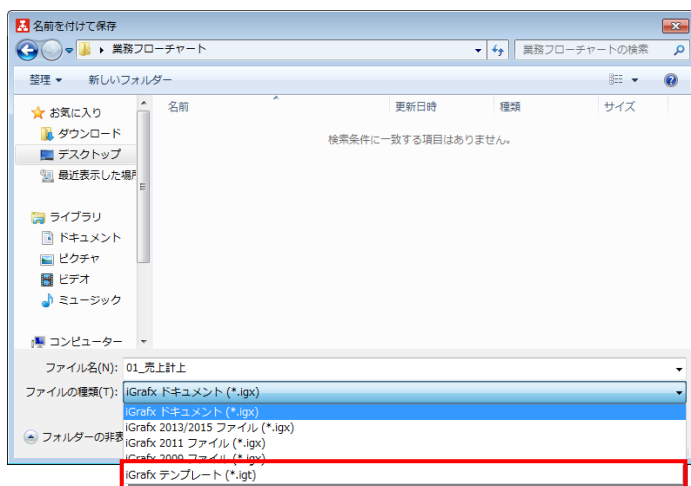
iGrafx テンプレートを作成する際には必要に応じて、以下の項目の初期値を定義します。

- Swimlane の方向、および書式の初期値 (P7、P95)
- フェーズの書式の初期値 (P58、P96)
- カスタムデータの設定 (P66)
- グリッドのスペースの変更 (P23)
- 図形ライブラリ、接続線ライブラリのカスタマイズ (P90)
- 各オブジェクトの書式の初期値 (P98)
- 印刷時のルール(サイズ、ヘッダー、フッター情報の統一、ブックモードなど) の定義 (P75)
- インジケータ (メモやファイルのリンクを示す印) の設定 (P97)
- ページ外コネクタの自動コネクタ利用の有無 (P97)

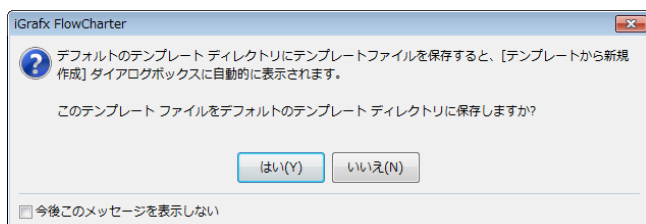
1) iGrafx テンプレートファイル保存

iGrafx テンプレートとしてのファイルの保存は、以下の手順で行います。

- ① 「ファイル」メニュー→「名前を付けて保存」をクリックし、ファイルの種類から「iGrafx テンプレート (*.igt)」を選択し、「保存」ボタンをクリックします。



- ② iGrafx テンプレートとして保存すると、以下のメッセージが表示されます。



「はい」 ボタンを選んだ場合は、保存中のファイルを iGrafx FlowCharter の個人用テンプレートを保存す

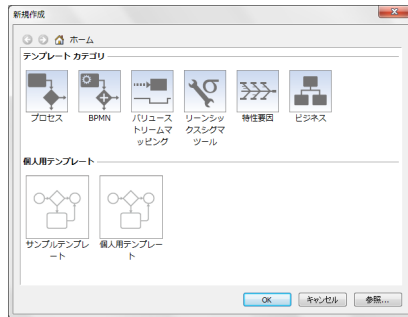
るフォルダの中へ保存されます。(ファイルの保存場所として指定した場所には保存されません。)

「いいえ」ボタンを選んだ場合は、ファイルの保存場所として指定した場所に保存されます。(個人用テンプレートを保存するフォルダの中へは保存されません。)

2) iGrafx テンプレートを利用する

個人用テンプレートは「ファイル」メニューー「新規作成」から開くことができます。

テンプレートから開いたファイルは、テンプレートファイル(拡張子が「*.igt」のファイル)ではなく、iGrafx テンプレートに定義した書式が反映されている新規ドキュメント(拡張子が「*.igx」ファイル)として開きます。



3) iGrafx テンプレートを共有する

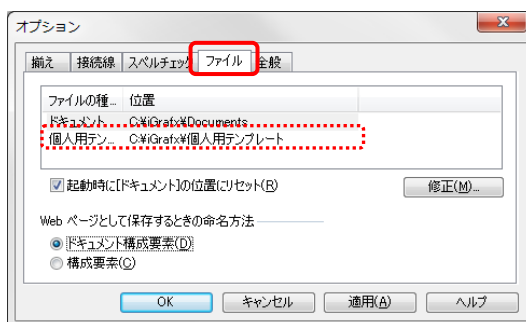
複数メンバーで業務フローチャートを作成する場合に、iGrafx テンプレートをメンバーで共有することができます。作成した iGrafx テンプレートファイルをメンバーに配布します。メンバーは配布された iGrafx テンプレートファイルを適切なフォルダに格納し、その iGrafx テンプレートを基に新規図表を作成します。

※SOX+や BPR+, HACCP クリエータをご利用の場合は、コレクションを配布する仕組みがあります。詳細は各製品の管理者向けユーザーズガイドをご参照ください。

◆ iGrafx テンプレートの保存先を確認する

個人用テンプレートフォルダの位置は、以下の手順で確認できます。

- ① 「ツール」メニューー「オプション」ー「ファイル」タブをクリックします。
- ② フォルダ位置が表示されているので、確認します。



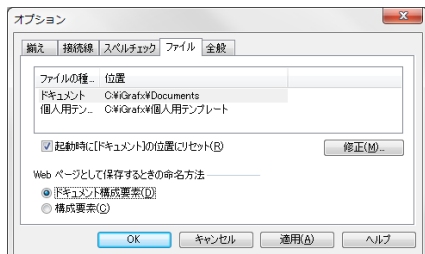
◆ iGrafx テンプレートを格納する

作成した iGrafx テンプレートファイルをメンバーへ配布します。メンバーは配布された iGrafx テンプレートファイルを、個人用テンプレートフォルダに格納します。

- ① 個人用テンプレートフォルダを開き、配布された iGrafx テンプレートファイルを格納します。(テンプレートフォルダ位置については、「◆iGrafx テンプレートの保存先を確認する」をご覧ください。)
- ② iGrafx FlowCharter を再起動します。

4) 個人用テンプレートのディレクトリを変更する

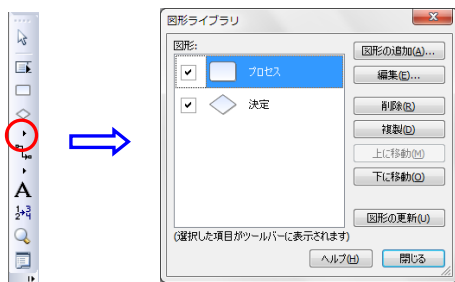
- ① 「ツール」メニューー「オプション」ー「ファイル」タブをクリックします。
- ② 「ファイルの種類」の「個人用テンプレート」をご確認ください。必要があれば「修正」ボタンにて任意のフォルダに変更することができます。



2.2 図形ライブラリ

特定の図表において利用頻度の高い図形の登録、あるいは iGrafx テンプレート作成時にプロジェクト特有の図形を登録するのに適しています。図形ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「ツールボックス」ツールバーの「その他の図形」 - 「図形ライブラリ」をクリックします。

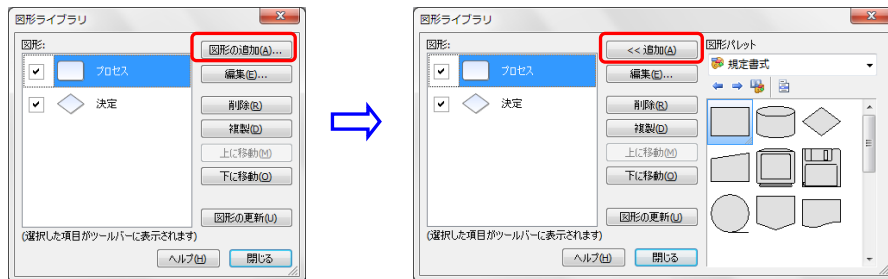


図形の左脇のチェックボックスにチェックがついている図形は、「ツールボックス」ツールバー上に表示されます。

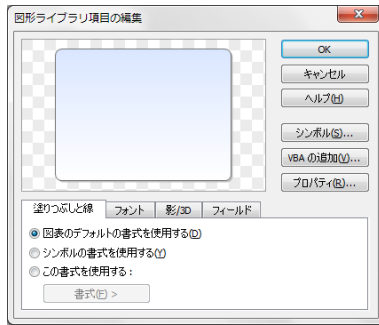
1) 図形の追加

新たな図形をコレクションから選択してライブラリに登録することができます。

- ① 「図形ライブラリ」ダイアログボックスより、「図形の追加」ボタンをクリックします。
- ② 図形パレットから登録したい図形を選択し、「<<追加」ボタンをクリックします。



2) 図形の編集

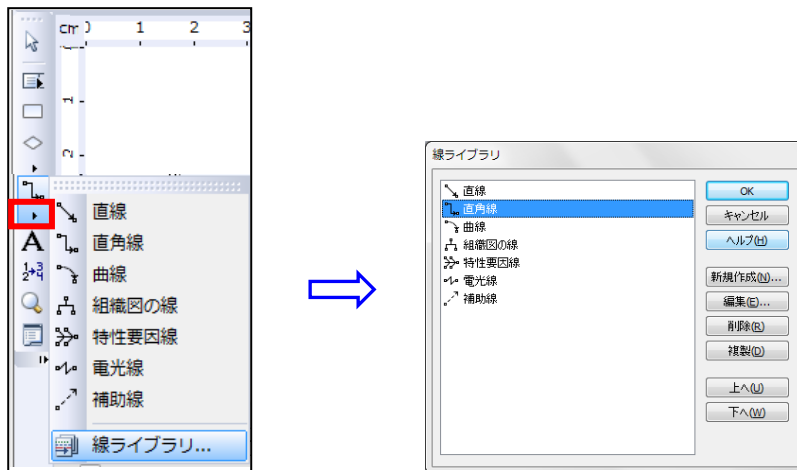


- ・ 図形の色や図形内に入力するテキストの書式を変更
: 「塗りつぶしと線」「フォント」「影/3D」タブ
- ・ 図形番号などの表示位置を変更: 「フィールド」タブ
- ・ 図形の大きさなどの変更: 「シンボル」ボタン
- ・ 図形の名称などの変更: 「プロパティ」ボタン

2.3 線ライブラリ

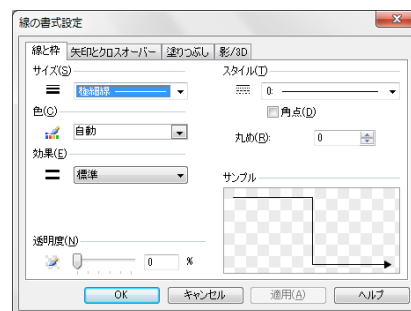
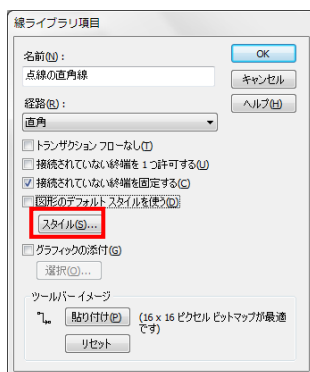
特定の図表において利用頻度の高い線の登録、あるいは iGrafx テンプレート作成時にプロジェクト特有の接続線を登録するのに適しています。線ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「ツールボックス」ツールバーの「接続線ツール」－「線ライブラリ」をクリックします。



1) 線の追加

- ① 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「新規作成」ボタンをクリックします。
- ② 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
- ③ 接続線のルールを確認し、線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。



必要に応じてグラフィックを線に添付することも可能です。

新規作成した項目は、「接続線」ツール上に表示されます。

2) 線の編集

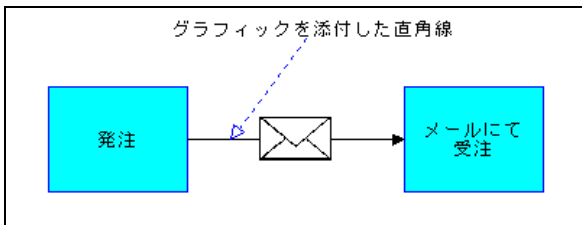
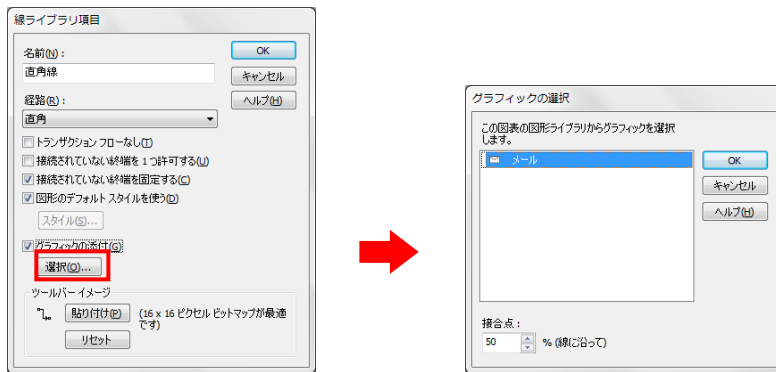
- ① 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「編集」ボタンをクリックします。
- ② 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
- ③ 線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。

3) 線ライブラリ項目にグラフィックを添付する

グラフィックを線ライブラリ項目に添付すると、その線スタイルを使用して図形を接続するたびにそのグラフィックが表示されます。

※ 前提条件 添付するグラフィックは、あらかじめ図形ライブラリに登録されている必要があります。

- ① 「線ライブラリ項目」ダイアログボックスより「グラフィックの添付」チェックボックスをクリックし、「選択」ボタンをクリックすると「グラフィックの選択」ダイアログボックスが表示されます。
- ② 線に接続したいグラフィックをリストより選択して「OK」ボタンをクリックします。



2.4 図表全体の書式設定

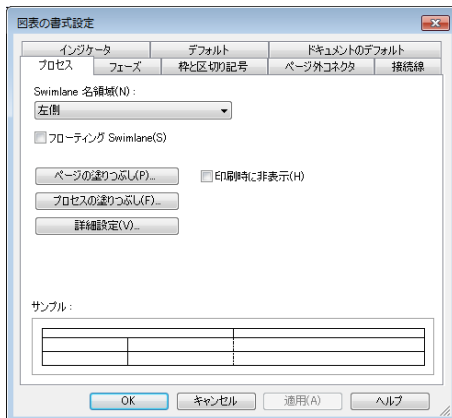
「書式」メニュー→「図表」をクリックし、「図表の書式設定」ダイアログボックスを開き、各タブで Swimlane の枠線や区切り記号、ページ外コネクタなど、さまざまな図表要素の書式を設定することができます。

1) プロセス

図表全体にかかわる設定を行います。Swimlane 名の表示形式やプロセス領域の表示にかかわる設定、また Swimlane の余白などの設定を行うことができます。

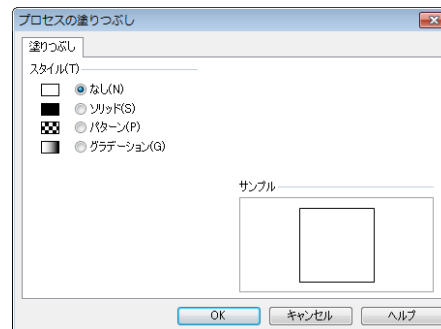
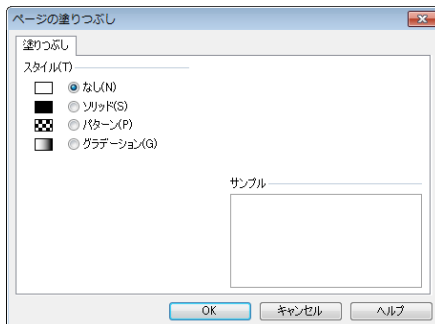
◆ Swimlane 名領域

Swimlane 名領域の表示位置を設定します。(Swimlane を水平に追加していれば、左か右。Swimlane を垂直に追加していれば、上か下) 両側に表示することもできます。



◆ ページの塗りつぶし・プロセスの塗りつぶし

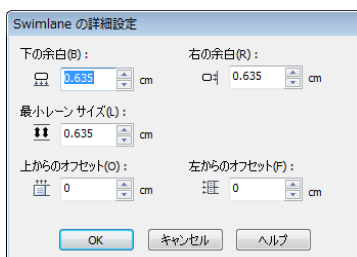
図表の塗りつぶしのスタイルを変更します。ページ全体、またはプロセス領域のみの設定ができます。



「プロセスの塗りつぶし」は、「ドキュメントのデフォルト」または「デフォルト」の「Swimlane」の塗りつぶしで設定すると、「名前領域」と「プロセス領域」を別々に定義することができます。

◆ 詳細設定

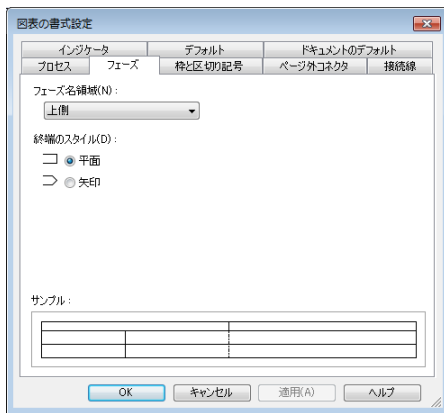
レーン (Swimlane) の書式を変更します。



項目	説明
下の余白	図表の作成中、Swimlane の幅が下側と右側に自動で拡張する機能があります。それは Swimlane 内の一番下のレーン、もしくは一番右のレーンに近い図形とレーンとの距離が設定されているために実現されています。この値を小さくすることによりコンパクトな図表を作成することができます。
右の余白	
最小レーンサイズ	Swimlane の幅をそれ以上縮めたくない時に、最小値を設定します。
上からのオフセット	初期設定では印刷領域ぎりぎりから図表が配置されています。ここに設定した領域分、印刷領域の上部もしくは左部から空白領域が作成されます。画面上部もしくは左部にできた空白領域にテキストや凡例などを配置することができます。
左からのオフセット	

2) フェーズ

フェーズの表示位置を設定します。

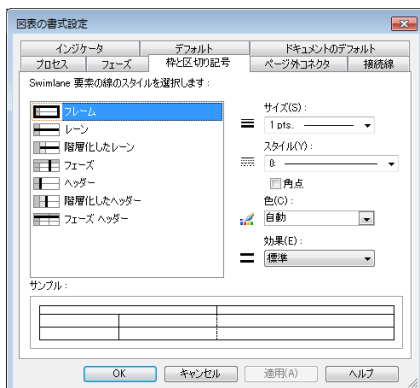


項目	説明
フェーズ名領域	フェーズ名の表示位置を変更します。(Swimlane を水平に追加していれば、上か下。Swimlane を垂直に追加していれば、右か左) 両側に表示することもできます。
終端のスタイル	フェーズの区切り部分のスタイルが直線なのか、屋根型に曲がるのかを選択します。

3) 枠と区切り記号

Swimlane やフェーズを仕切る区切り線についての設定を変更します。

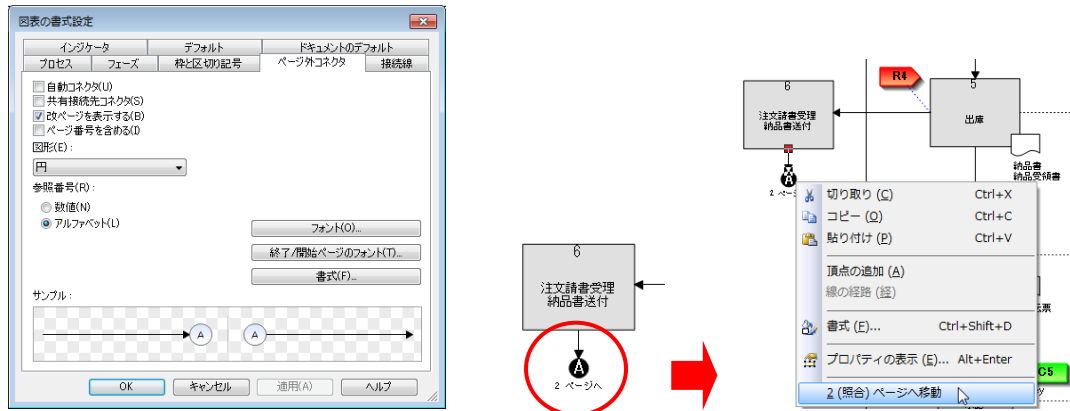
変更したい対象の線 (フレーム、レーンなど) を選択し、それぞれに設定したいポイント、スタイル、色、効果を設定します。



4) ページ外コネクタ

図表が複数枚になった時に、ページの切り替わりを越える接続線に自動的にコネクタを作成します。

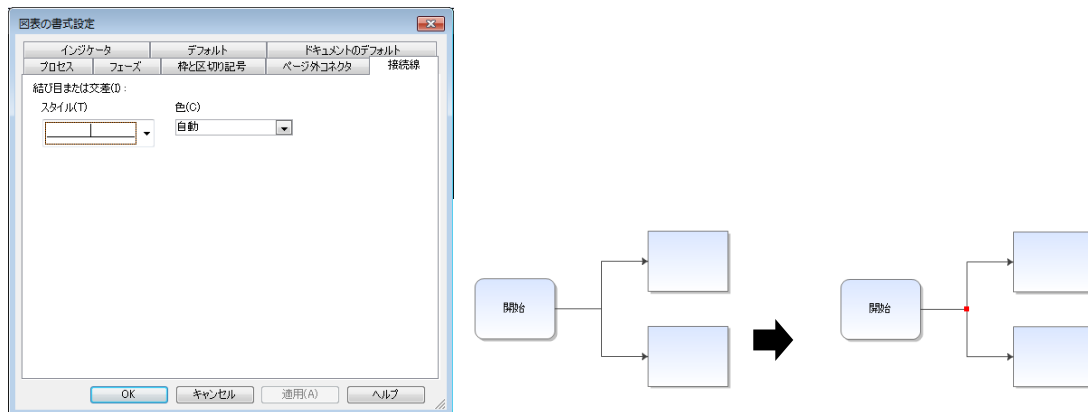
コネクタ上で右クリックし、コンテキストメニューより接続先のページをクリックすると接続先のページ外コネクタにジャンプします。



項目	説明
自動コネクタ	ページをまたがる接続線に対し、自動でコネクタを作成します。
共有接続先コネクタ	同じ図形に接続する接続線のコネクタを複数表示せず、一つにまとめて表示します。
改ページを表示する	改ページ線を表示します。
ページ番号を含める	どこへ、またはどこから繋がったコネクタなのか、ページ番号を含めて表示します。
参照番号	コネクタの参照番号の数値、アルファベットを切り替えます。

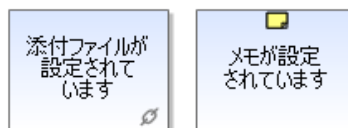
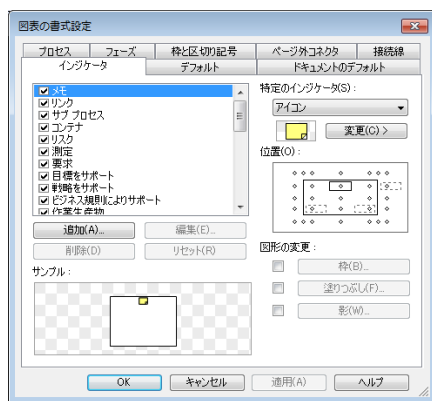
5) 接続線

結び目または交差は、2本の接続線を同一の接続先につないだ時に発生します。



6) インジケータ

メモの設定やファイルをリンクした時に、メモやリンクファイルの存在を表すためのインジケータ設定を行います。インジケータのアイコンやテキストの変更や、線や影などの書式をインジケータとして設定することができます。



7) ドキュメントのデフォルト

図形や接続線、Swimlane など、様々なオブジェクトに対してのデフォルト値(初期値)を設定します。

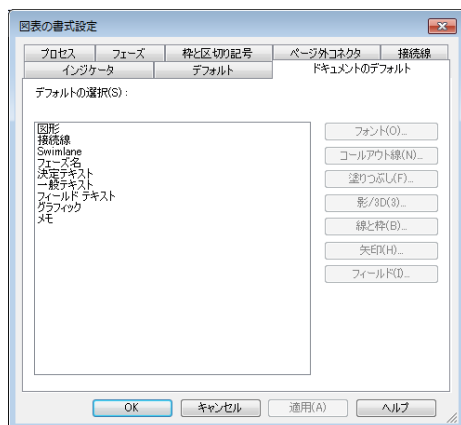
デフォルト値はドキュメントごとまたは図表ごとに設定することができます。

ファイル単位で一括設定するには、「デフォルト」タブの「ドキュメントのデフォルトを使用する」のチェックをオンにして、「ドキュメントのデフォルト」タブで設定します。

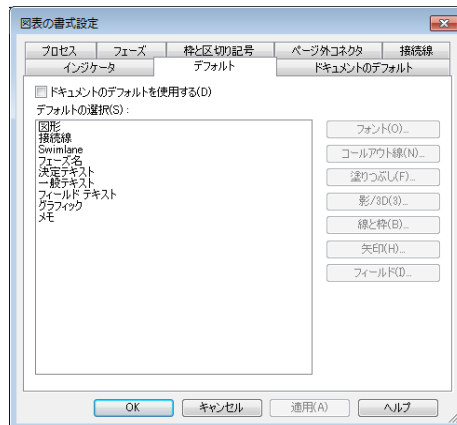
「デフォルトの選択」で設定したいオブジェクトを選択して、変更する書式のボタンをクリックします。


社内規約などにより使用するフォントや図形の色、また接続線の種類などが決められている場合、それらをデフォルト値として設定しテンプレートに登録することにより、毎回の変更の手間を省くことができます。

【ドキュメントのデフォルト】



【デフォルト】



 図形パレットで書式を設定し登録している場合は、初期設定の書式は適用されません。



iGrafx®

SPS

Enabling Process Excellence.™